親切会の55年

親切のつどい
親切会の発会に際して
顧問 深田昌三
本会の沿革
会費三万円を出
親切だより
明けましておめでとうございます
本年も何卒よろしくお願い申し上げます
年頭のことば
親切だより
http://www2.hondx.net/sinsetu-kai/
1月号 No.600
親切会の目標

親 切 会

巻頭言

親切会活動を称えて

2015 年 1 月 5 日

㈱日立製作所 相談役　川村　隆

昨年が、親切会創設の 55 周年という節目の年になったと伺いました。「小さな親切」と「ささやかな福祉貢献」をモットーに、明るく思いやりのある世の中を目指して、もう 55 年間も活動を続けて来られましたことに、まず深い敬意と尊敬の念を表したいと思います。1959 年（昭和 34 年）に尼崎で小さく発足した親切会が、今日のように北は北海道から南は九州までの全国規模に発展致しましたのは、それぞれの時期の会長さんを始めとした会員の皆様が、一人一人の「親切心」を大切にし、それを積上げ、地域を跨いで繋いでいったお蔭であろうと思います。

親切と福祉貢献の前にそれぞれ、「小さな」と「ささやかな」という言葉が添えてあるのですが、そこが私の大変に感じ入っている所です。やはり人に親切にする気持ちは、自分が毎日たくさんの人に助けられて生きている、自分一人では何もできない、と自覚することから出発していると思います。人からの小さな親切を受け、自分もまた他の人に、相手の立場に立って考えた上で、小さな親切を渡していく。そういう小さな親切が発端になってさざ波になって日本中に広がって行く。何と素晴らしい活動でしょう。

実は、私も「恕（じょ）」という文字を書家の石飛博光さんに大書してもらって大きな額に入れ、会社の自分の部屋に飾って来ました。「恕」とは「相手を思いやる心」という意味で、孔子が弟子の子貢に「一生守り続けるべき、そんな言葉はありますか？」と問われた時に、それに応えて云われた言葉です。孔子の返事は、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すことなかれ（それは思いやりかな。自分が望まないことは人にも仕向けないことだ）。」というものでした。相手を思いやる心が生きて行く上で最も大切だ、というのが孔子の考えです。日立グループの「落穂の精神」という基本と正道の規範でも、孔子の名前は出ないのですが、この「相手の立場で思い遣ること」を高く掲げてやって来ました。

私は、戒めのつもりでこの額を掲げてきました。相手の立場に立って考えてみれば色々なことが見えてくるのに、自分の側からの意見を押し通そうとばかりして、ビジネスの場でも生活の場でも、悶着を起こして来たことに対する戒めです。

それが今回、親切会の活動をもう一度おさらいしてみた結果、恕（相手を思いやる心）が孔子より 2500 年後の日本にもきちんと生きていて、しかもそれがさざ波のような実践活動になって日本全国に広がっていることに感動しました。今後もこの活動が、地道ながらも力強く続きますよう、そして国中が思いやりの心でいっぱいになりますよう、祈念して、巻頭の言とさせていただきます。

ご挨拶

親切会 会長　森　和廣
〔(株)日立ハイテクノロジーズ 取締役会長）〕

親切会は、1959 年（昭和 34 年）に、兵庫県尼崎市の地元有志の方々が中心となり、「親切の心」を実践しこれを広げる運動として、うぶ声を上げました。昭和 38 年の東京大学卒業式告辞で茅学長によって提唱されたのがきっかけで始まったのが「小さな親切」運動ですが、それを遡ること 4 年前に発足した親切会は、いわば、親切運動の草分けと言えます。

顧みれば、戦後の荒廃・混沌から復興への過渡期に、道徳の退廃によって親切心の欠如が見受けられる世相を憂慮されて始まった小さな奉仕・福祉活動が、1968 年（昭和 43 年）には当時の日立機電工業の馬場兵吉元社長が 4 代目会長に就任、22 年間の在任中に日立製作所、及び日立グループ各社にも呼びかけたことを契機に、地域の活動から全国規模の運動へと大きく発展していきました。

現在では北海道から九州地区まで 9 支部からなる組織で、法人会員数 375 社、個人会員約 2,374 名の姿にまで発展しました。これもひとえに親切の想いを持った法人会員、個人会員の方々のご支援・ご協力と、親切会関係者の多大なる努力の賜物であり深く感謝申し上げます。

親切会は、設立以来、「世の中はお互いに助け合いであり、相手の立場に立って、感謝の気持を持つことが親切の基本」との考えに立脚し、「小さな親切」と「ささやかな福祉貢献」の二つを柱として、活動を続けてきました。55 年間という長きに亘って、会報「親切だより」（既発刊 600 号）による親切心の高揚、善行者への表彰や、福祉施設、ボランティア団体への寄付等の活動により、「親切の心」の輪をさらに広げています。

今日、親切会は多くの法人会員や個人会員の支援を得て活動していますが、いわば、日立グループを中心とした世の中の、草の根レベルにおける他者への思いやりの心、すなわち「親切の心」から芽生えた協力支援によって支えられています。本誌が、改めて「親切の心」について考えるきっかけとなり、皆様の親切会活動への一層の理解を深める一助となることを祈願いたします。

社会や経済状況が大きな変化に直面しているこの設立 55 周年が、今後、親切会の重要なマイルストーンとなり、次の 50 年に向けた出発点として新たな展望の一歩となることを確信して、「親切会の 55 年」発刊によせる言葉といたします。

最後に、会員の皆様のご繁栄とご健勝、併せて親切会への更なるご支援、ご協力をお願いしまして、記念誌発刊のご挨拶とさせていただきます。

凡例

１．編集の基本的考え方

この「親切会の５５年」は、大部分を広報活動のために発行していた広報誌から、組織の活動の状況を伝えるのに必要な記事を抜き出し、コピーをしたものです。そして、必要なところはその解説なり要約を添えることにより構成したものです。親切会に関する資料や記録は、そのまま記事になって残っているという理解です。例えば、募金の状況だとか、寄付先の一覧だとかそのつど資料として「便り」に掲載してきておりますし、それがそのまま本組織の記録になっているという考えです。

５年前、ちょうど５０周年にあたる年に、記念事業を実行しようとの気持ちで準備を始め、その一環として５０年史を作成する予定を組んでいましたが、ご承知のようにこの年に日立が大幅な赤字に陥り、祝い事を実施するような状況ではなかったため、すべての記念事業は取りやめにいたしました。

その後、日立の事業状況は、回復の軌道に乗ってきたことで、多くの関連会社も業績を向上させてきております。今後のことを考えたとき、こうした機会を捉えて、５０猶予年の実績を組織として記録にとどめておきたいとの気持ちから、５５年の節目を機会に、何らかの記録を作成しておきたいと考えました。

とはいえ、費用も限られていることから、何らかの工夫が必要でありました。

親切会に関する記録は、初版から今日までつづいているこの広報誌です。しかもシリーズで保管されております。これを使って工夫してみようということで考えたのが、本冊子です。

２．内容

目次でご覧いただくように、それぞれの項目に合わせて、「親切のつどい」「親切だより」の中から必要な記事をコピーして取り出し、それを我々メンバーで手分けして編集しました。読みにくいものや長文のものは、テキストボックスをつけて、そこに要約を書いたり解説を入れることで、理解を容易にしたつもりです。

グラフについては、保管されているデータを使って作成しました。

３.資料

・「親切のつどい」（１９５９．９初版～２０００．１２．　４５５号）
　「親切だより」（２００１．１　４５６号～２０１５．１　６００号）

４.その他

・年号は記事で残されたもの以外原則として西暦を使用した。
・ 社名、法人名は原則㈱を入れた。省略名も可とした。
・ 肩書きは当時のもので表記。
・ 数字は原則としてアラビア数字を使用。金額については、１０億、１００万のように、適宜、漢字を使用。
・ 記事（コピー）には、以下のように発行年月日と号数を付記した。
・ 記事（コピー）には、現代では不適切と思われる表現もありますが、原本をそのままコピーして掲載した。

目　次

巻頭言　親切会活動を称えて　（株）日立製作所相談役 川村 隆.....1
ご挨拶　親切会会長　森 和廣.....2
凡　例.....3
第１章　親切会の主要活動事例.....6
1. 寄付活動　6
（１） 寄付
（２） 預託
（３） 寄附金の推移
2. 善行者表彰　9
（１） 最近の表彰内容
（２） 表彰事例
3. 使用済み切手の活用　16
（１） 小史
（２） 使用済み切手の活用
（３） 事務局からのお願い
4. 福祉の実践　17
（１） 結婚相談所
（２） 生活困窮者の救済―貸付金制度
（３） 最近の実践例
5. 広報活動　―親切の輪を広げるために―　19
（１） 広報紙発刊の歴史
（２） 座談会の開催
6. 会員募集、募金活動　20
（１） 会員募集
（２） 募金活動

第２章　親切とは.....24
1. 親切の根源について　24
（１） 自他一体感
（２） 情けは人のためならず
（３） 「情け」「誠」から親切は生まれる
2. 親切の心構え　30
（１） 相手の立場になってみる
（２） 形から始めよう、心は後からついてくる
（３） 言葉と表情が大切
（４） 勇気も必要

（５） 見かえりを求めない
（６） 見知らぬ人へも親切を
3. より高次親切をめざして　33
（１） 親切は深く切なるもの
（２） 親切は人と人をつなぐ心の文化
（３） 親切は普遍
4. 親切五則　35
第３章　親切会事始め.....36

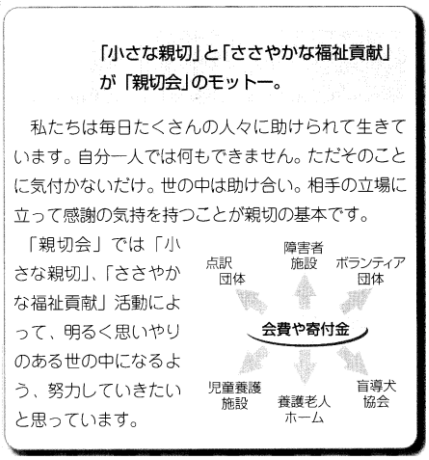
第４章　支部の歩みと現状.....38
関東支部
関西支部
九州支部
中部支部
東北支部
北海道支部
北陸支部
中国支部
四国支部
第５章　歴代会長.....54

第６章　親切会を巡る人々.....56
1. 親切会の運営を支えた人々　56
（１） 親切会草創期の役職者
（２） 名誉顧問
2. 親切会講演会と講演者　57
3. 寄稿者　63

年譜.....75

第１章　親切会の主要活動事例

親切会は、「小さな親切」と「ささやかな福祉貢献」をモットーに、福祉への支援活動と親切を広める広報活動を続けてきました。また、それを実現するために、会員の増強、募金活動にも力を入れてきました。５５年間の活動は多岐にわたりますが、その一部をご紹介します。



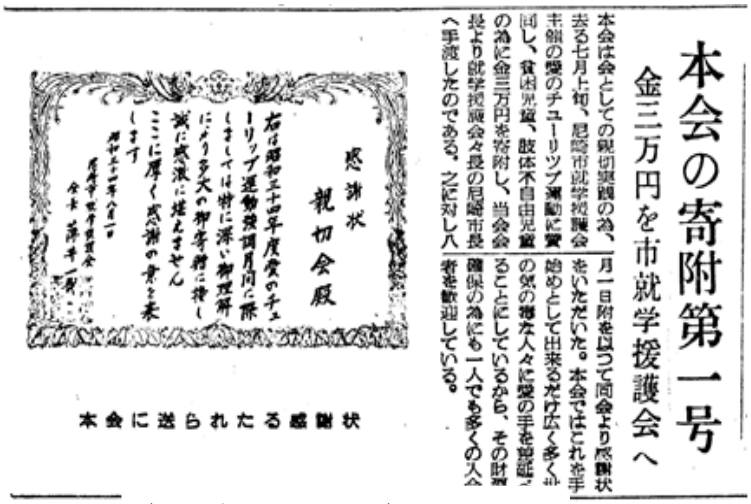
１．寄付活動

寄付は親切会の中でも最も主要な活動の一つです。福祉施設や災害被災地への寄付、善意銀行への預託等を通じて、社会貢献をめざしてきました。

（１）寄付

当初は児童養護施設や台風等の被災者向けの寄付が主でしたが、時代の変遷とともに最近では障害者施設、青少年育成施設への寄付が増えています。寄付は現金の場合もあれば、家電品等の物品の場合もあります。

① 初めての寄付



本会の寄附第一号

金三万円を市就学援護会へ

本会は会としての親切実践の為、去る七月上旬、尼崎市就学援護会主催の愛のチューリップ運動に賛同し、貧困児童、肢体不自由児童の為に金三万円を寄附し、当会会長より就学援護会々長の尼崎市長へ手渡したのである。之に対し八月一日附を以つて同会より感謝状をいただいた。本会ではこれを手始めとして出来るだけ広く多くの方々の愛の手を延ばすことにしているから、その財源確保の為にも一人でも多くの入会者を歓迎している。

感謝状

親切会殿

右は昭和三十四年度愛のチューリップ運動強調月間に際しましては特に深い御理解により多大の御寄附に預し誠に感激に堪えません ここに厚く感謝の意を表します

尼崎市就学援護会 会長 藤井一郎

本会に送られたる感謝状

（1959 年9月 1 日1号）

【説明】親切会は発足間もない 1959 年 7 月、尼崎市の愛のチューリップ運動に賛同して初めて寄付をしたのが親切実践の第一歩です。以後、児童施設や生活困窮者、災害被災者への支援（寄付）が親切会の中心的な活動になりました。

② 施設への寄付

くさぶえ学園へ

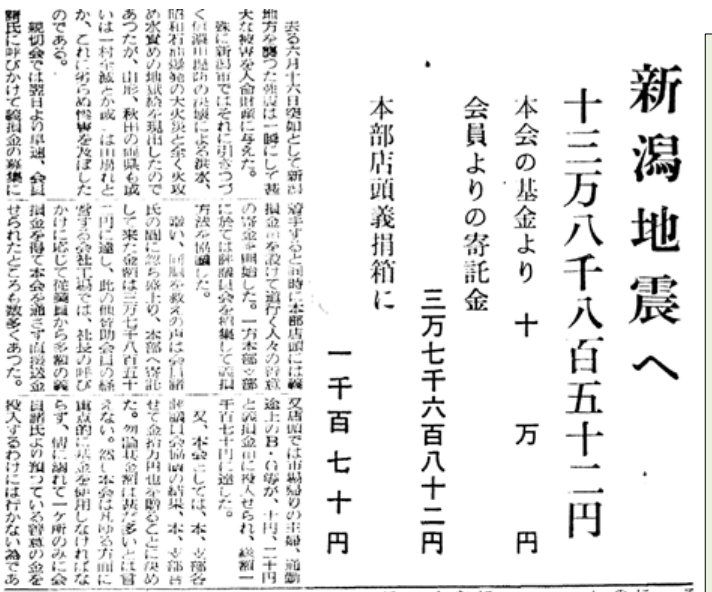
五万円寄附

貧しき子等へ菓子ジュースを添へ

（1961年7月１日21号）

【説明】くさぶえ学園は、増藺（ますい）ご夫妻が全私財を投げ打って、貧しい子等のために開設した無料学園です。11 年を経過した現在、ご夫妻は病魔に冒され、殊にご主人は 9 年も半身不随横臥したままにもかかわらず、聖者の如き愛念を持って苦闘されています。学園では、一般学習から舞踏、お茶などの教養も無料で教えています。子どもたちは明るく和やかで礼儀正しく育っているようです。

③ 被災地への寄付



新潟地震へ

十三万八千八百五十二円

本会の基金より　十　万　円

会員よりの寄託金

三万七千六百八十二円

本部店頭義捐箱に

一千百七十円

被災各地の知事より

（1964 年 8 月 1 日 49 号）

あかあかと陽はつれなくも秋の風

皆様の真心こもる救援の金品は災害地の全域に公正な配分がおこなわれ、困窮者の救援に克は再建復興の貴重な糧となりつつあります。まことに以て感謝に堪えません。

茲に県民を代表して皆さまのご芳情に対し深甚なる御礼を述べ、感謝の意を表明申上げます。

昭和３９年７月

新潟県知事　塚田十一郎

山形県知事　我孫子藤吉

秋田県知事　小幡勇二郎

親切会御中

【説明】台風、地震、豪雨等の自然災害に対し、親切会は即決で、寄付対応しました。1964 年の新潟地震(左上の記事)にも被災地へ寄付(左上)し、三県知事から御礼状（右上）を頂きました。

（２） 預託

親切会による直接寄付とは別に預託も行っています。集まった募金を日本赤十字社、各地の善意銀行等に預託し、そのネットワークを通じて、真に必要としている施設や団体に届けられています。また、地域の社会福祉協議会と連携を深め、その推薦先に寄付をすることにより、さらに幅広い福祉支援を行っています。

日本赤十字社へ寄附

金七十万円

内訳　四十万円（大阪府向け）
　　三十万円（兵庫県向け）

昨年末会員各位よりよせられた浄財の寄贈先を色々考えていましたが結局、日本赤十字社を通じ大阪、兵庫両府県下の生活困窮者に贈っていただく事に致しました。

（1980 年 5 月 16 日 203 号）

本会の寄付

金一二〇万円を
東京、大阪、兵庫の善意銀行へ

昨年末法人会員皆様の従業員の方々から歳末助け合い箱に寄せられた浄財〆て一、一九八、四二九円を去る一月中に左の通り寄付いたしました。

大阪府善意銀行へ……四〇万円
兵庫県善意銀行へ……四〇万円

本年は身体障害者年に当り、両善意銀行共に、その方面への献金を希望の意向に見受けられたので、その為に使用するようにとの言葉を添えて寄付（預託）いたしました。

尚右金額は大阪、兵庫及び名古屋方面で集った浄財です。

東京都善意銀行へ……金三九七、五三二円

東京都善意銀行へは寄付先を指定せず同行が最も必要且つ適当と思う所へ役立てるよう預託しました右金額は東京方面の法人会員十二社から集ったものです。

（1981 年 2 月 15 日 212 号）

【説明】左上は日本赤十字社、右上は善意銀行へ預託した記事。それぞれの預託先が適切に判断して、役立てていただくことになります。

トピックス TOPICS

鎌倉市社会福祉協議会より感謝状を拝受

関東支部は、去る11月13日神奈川県鎌倉市社会福祉協議会より感謝状をいただきました。

当日は、鎌倉市福祉センターホールで鎌倉市社会福祉協議会の役員、社会福祉団体関係者、社会福祉行政関係者など多数の方々の列席のもと、梅澤会長より関東支部へ感謝状が贈呈されました。

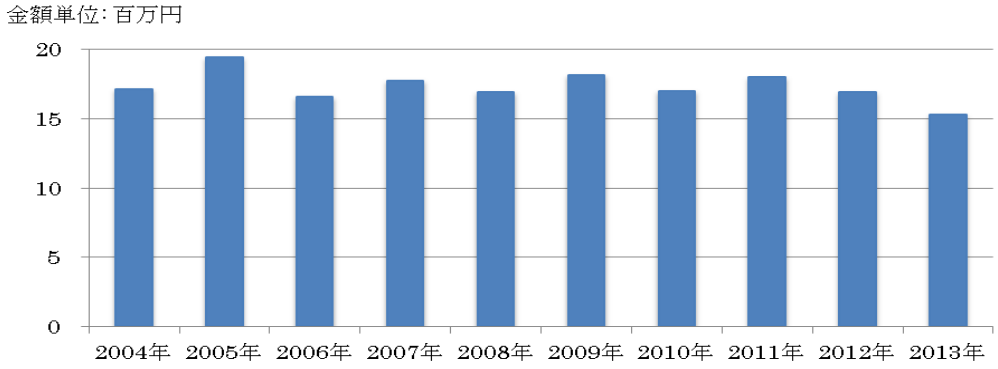
今回の表彰は、長年にわたり、ボランティア活動育成のため経済的な援助協力を続けて来た関東支部の福祉活動が評価されたものです。

表彰式終了後、祝賀音楽会（二胡とギター演奏）が開催されました。

（2013 年 1 月 1 日 588 号）

【説明】
鎌倉市社会福祉協議会から感謝状を受けた記事。
各支部では長年、社会福祉協議会の推薦先に寄付をし、地域に密着した福祉貢献を行っています。

（３） 寄附金の推移



【説明】親切会の毎年の寄付総額は全支部合計で 15～20 百万円に上ります。

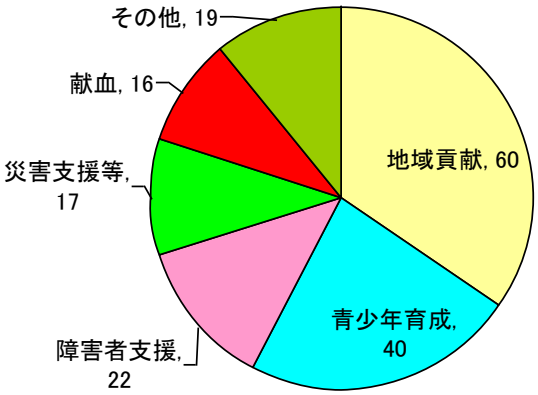
２． 善行者表彰

善行者表彰は、1973 年 7 月にスタートして以来、2013 年までの 40 年間に 420 件以上の表彰を行ってきました。

（１） 最近の表彰内容

「親切だより」に掲載された最近 10 年間の表彰案件を見ると、「地域社会への貢献」が最も多く、続いて「青少年育成」「障害者支援」「災害被災者支援等」といった順番であり、地域に根差した善行に重点をおいているといえるようです。

【説明】「親切だより」に掲載された最近 10 年間（2004～2013 年）の表彰案件を見ると、「地域社会への貢献」が最も多く、続いて「青少年育成」「障害者支援」「災害被災者支援等」といった順番であり、地域に根差した善行に重点をおいているといえるようです。



（２） 表彰事例

① 地域貢献活動

【説明】ルネサステクノロジ高知事業所では事業所を挙げて地域の美化活動、「クリーンリサイクル事業」に参加したり、メダカを地元の小学校等へ寄付するなど地域社会に貢献されました。

㈱ルネサステクノロジ 高知事業所

（事業所長　長尾　眞樹）

このたび、四国支部では地域社会において広くボランティア活動を推進されている㈱ルネサステクノロジ高知事業所を、3月9日に田中支部長が訪問し、善行者表彰を行いました。

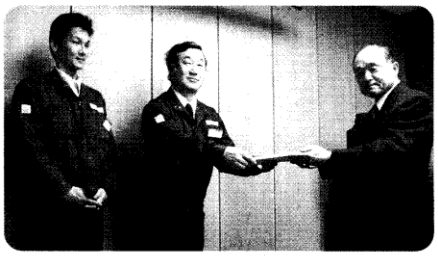
同事業所では、工業用水に物部川を利用していることから環境への配慮の一環として、平成14年から水源地保全のために高知県別府峡谷国有林において植樹活動を継続しておられます。

また、事業所恒例の夏祭り前に実施している工場周辺の一斉清掃「地域美化活動」、地域の「クリーンリサイクル事業」への参加、さらには、同事業所の工場廃水を利用して飼育したメダカ（従業員全員の環境保護への取り組みと生き物を大切にするという願いを込めて「ルネサスメダカ」と名付け、大切に育てられています）を小学校や幼稚園へ寄贈する等、常日頃より地域に根ざしたボランティア活動を広く推進しており、大いに地域社会に貢献されております。

この活動の詳細については、２００５年11月号（No514）に「地域社会にみんなで貢献」（わが職場のボランティア）で紹介しております。

（2006年8月1日523号）

たれかがどこかで　善行者表彰



代表して表彰を受ける長尾事業所長（中央）と「ルネサスメダカ」を飼育している岡林技師（右）

（2010年1月1日564号部分）

㈱日立製作所 中部支社ＯＢ 伊藤　高幸様 千代子様

中部支部では7月23日新美支部長が、住みやすく安心・安全で福祉の充実した「まちづくり」に長年にわたり活動されている伊藤さんご夫婦をお招きし、善行者表彰を行いました。

伊藤さんご夫婦は第二の人生を地域のために尽くそうと、退職後に地元岩倉市の「イキイキライフの会」に加入され、長年にわたり会の中心となり活躍されています。

主な活動内容は

・手助けが必要なお年寄りの通院に自家用車による送迎「移動サービス」（平日）

・特別養護老人ホームで「車イス磨き」（第4土曜日午前）

・「美味しい手打ち麺づくり」の普及とまちおこし（適時）

・パソコン教室「パソコンをしろう」（金曜日午後）

・児童館訪問「孫たちと遊ぼう」（第三日曜日午前）

・会員の交流「ふれあいサロン」（毎月1回）

特にご夫婦は「手打ち麺作り」で活躍され地元新聞でも大きく報道されました。

お年寄りや婦人会の集会等で「手打ちうどん」を一緒に作り食べて頂き、小・中学生には、手打ちうどん体験道場を学校の給食室で行い、大変喜ばれ、

表彰された伊藤さ

「手打ちうどん作り」に活躍する伊藤さん

【説明】伊藤高幸さんは会社を退職後夫人と共に地元の「イキイキライフの会」でお年寄りの通院送迎や手打ち麺作りやパソコン教室開催など、中心的役割を果たしました。

②青少年育成活動

【説明】益子さんは日立市の「多賀剣道スポーツ少年団」の発足当時から33年間の長きにわたり、延べ2千人以上の生徒に剣道の指導を続けてしました。

日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション㈱ 電化事業部　ＯＢ　益子　建一郎 様

益子さんは、１９７１年青少年の健全育成を目的とした日立市スポーツ少年団「多賀剣道スポーツ少年団」が発足した当時から現在に至る33年間、地域の小学生に剣道を指導してきました。益子さんから指導を受けた生徒は延べ２千人以上になります。

剣道を通じて多年にわたる地域社会に果たした役割は多大であります。

関東支部では９月８日、高田支部長が茨城県日立市の日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション㈱電化事業部の応接室で益子さんを表彰いたしました。

益子さんの剣道指導歴は

- １９５７年～１９８３年㈱日立製作所多賀工場技養生、高訓生を対象
- １９６０年～１９９１年　同　多賀工場保安員対象
- １９８２年～１９９１年　同　多賀健保体育館で少年剣道を指導

表彰された益子さん

たれかがどこかで　善行者表彰

教え子たちと益子さん（右）

（2005年３月１日 506号）

日立電線㈱日高工場 剣道部　日高道場（代表：主席師範　羽賀　紀正）

関東支部では、９月29日、高田支部長が茨城県日立市の日立電線㈱日高工場を訪問し、善行者表彰を行いました。

今回の表彰は、同社の剣道部「日高道場」が日高体育館落成当初から剣道場を一般開放し、地域社会への貢献と、青少年の健全育成を目的に、少年剣道の指導を40年間にわたり続けてきた功績が称えられたものです。

その間、少年剣道は全国大会で優勝を飾るなどの成績を収め、卒業生は各企業の剣道部員や、教職員、警察官等の社会人として各方面で剣道の指導に携わり、剣道界・地域社会に貢献する人材を多数輩出しております。

なお、同剣道部は昨年、全日本剣道連盟より「戦中戦後の剣道界発展に貢献した」として表彰され、感謝状を授与されました。

表彰された主席師範の羽賀紀正さん

（2006年２月１日 517号）

たれかがどこかで　善行者表彰

【説明】日立電線は「日高道場」を一般開放し、40年間にわたって、少年剣道の指導を行ってきました。少年剣道が全国大会に優勝するなど地域社会に多大の貢献をしてきました。

山地さんは、仕事のかたわら地域の「こども会」活動に尽力されており、昭和50年から約30年間という永年にわたり、子供の健全育成に取り組まれております。

過去には高知市「こども会」の会長等役員を歴任されるなど、地元の子供のみならず広く子供達の教育・指導育成に携わってこられました。

昨年も、地元大津地区の「こども会」では、農業体験やよさこい祭りへの参加、運動会等を行い、明るく元気な子供達を献身的にサポートしておられます。

このたび、四国支部では山地さんの「こども会」活動を通じた地域社会への貢献に敬意を表し、２月27日に田中支部長が㈱高知日立を訪問し、表彰いたしました。

表彰された山地さん（中央）

（2006年８月１日 523号）

【説明】山地さんは1975年以来約30年にわたって、地域の「こども会」活動を通じて、農業体験やよさこい祭りへの参加、運動会の開催等、こどもの健全育成に尽力されてきました。市の「こども会」の会長等も歴任されました。

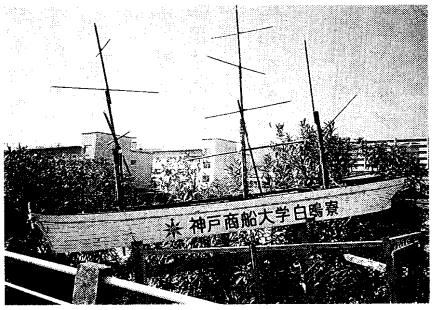
③人命救助、震災時支援等

善行者　神戸商船大学

白鷗寮自治会会長　**有田俊晃様**

有田会長は一月十七日未明に襲った兵庫県南部地震の際、直ちに男子寮生約二百五十人に号令し、海洋実習に使う安全靴、軍手、懐中電灯等に身を固め、壊滅状態となった近くの商店街に出動、真っ暗闇の中助けを求める声を頼りに崩れ落ちた家屋の瓦礫を手作業で取り除き、次々と百人を越える住民を救け出し、病院に搬送を続け午後六時過ぎ迄半径二キロに亘って懸命に救助活動をされました。救けられた人々は名前も聞かずに救出され、学校宛に感謝の電話や便りが山のように届けられました。

本会は、このシーマン・シップを身を以って示された寮生の皆様の誠に勇敢且つ崇高な行為に対し深甚の敬意を表し、三月二日松永・野村両理事が深江の同校を訪れ、井上学長ご列席のもとに表彰いたしました。尚、何か寮生のご希望があればと意向を伺い、寮に置いてあった木造の帆船模型が被災、破損したのを修理したいとのご意向により、その費用の一助にと金一封を贈呈しました。四月の新入生入学時には、修理が成って、その晴れ姿を表すことを念願する次第です。



写真(上)　左より寮生萩田（二年）橋本（三年）の両君、有田会長・井上学長・松永理事　写真(下)　修理するシンボルの帆船模型

（1995 年 4 月 1 日 387 号部分）

【説明】阪神・淡路大震災の発生直後、神戸商船大学の寮生 250 名は、地震発生直後から午後 6 時まで、懸命の救助活動を続け、がれきの中から 100 人を超える住民を救助しました。

南三陸ホテル観洋

従業員一同

代表　阿部　憲子様（女将）

このたび東北支部では、2月15日に小川支部長並びに親切会個人会員でもある日立仙台ＯＢ会の有志16名が被災地復興支援を兼ね「南三陸ホテル観洋」を訪れ、善行者表彰を行いました。

「南三陸ホテル観洋」の女将さんおよび従業員の方々は、東日本大震災の巨大津波で甚大な被害を受けながらも、宿泊客への対応はもちろん、町が壊滅的な被害を受け避難してきた３５０名に及ぶ地域住民に避難場所としてホテルを開放し、さらには、仮設住宅に移るまでの二次避難所として、生活のさまざまな支援や震災復旧に携わる人々の拠点として、南三陸町復興・再生の中心的役割を献身的に果たされました。

東北支部ではこの活動に対して、女将さん並びに従業員の方々を表彰いたしました。

阿部さんのお話

震災後、町の機能が全て失われ、復旧が進む最中、若い人たちの人口流出をどうにか食い止めなければならないという思いがありました。雇用をどう守り、活気をどう取り戻すのか。そのためにも早く立ち上がらなければならないとの思いでした。

震災から約一年が経過しますが、取引先の方からは店舗はなくとも品物は納品しますと、地元企業も懸命な努力を続けています。

また皆様には、被災地を訪れて、ご自身で災害の現場を体感していただきたいと思います。また、ご宿泊の際は、ぜひのんびりくつろぎ楽しんでいただきたいと思います。お客さまの笑顔が私たちの明日への活力につながりますのでお願いいたします。

表彰された従業員の皆さん（中央

（2012 年 7 月 1 日 585 号）

【説明】「南三陸ホテル」は東日本大震災の大津波で自らも甚大な被害を受けながらも、宿泊客をはじめ、350 名にもおよぶ地元住民の方々の避難場所としてホテルを開放し、さらには仮設住宅に移るまでの二次避難所として復興・再生の中心的役割を果たしました。また、東日本大震災への復興支援活動に対する表彰事例は他にも数多くあります。

だれかがどこかで
善行者表彰

日立エンジニアリング㈱

柳生　悦穂様（公共電機システム部）
塙　晴行様（電機システム営業部）

柳生さん、塙さんのお二人は去る2月1日、帰省のため常磐線日立駅構内で電車を待っていた際、ホームから転落し意識を失った男性を、身の危険をかえりみず線路に降りて救出するとともに駅員や救急車への連絡を迅速に行い、事故を未然に防ぎ大事に至りませんでした。発生時にはホームに駅員がおらず、対応が遅れれば最悪の事態になる可能性もあり、柳生さん、塙さんの勇気ある行動は高く評価されます。

このたび、関東支部では5月27日に高田支部長が茨城県日立市の日立エンジニアリング㈱の本社応接室でお二人を表彰いたしました。

なお、お二人は東日本旅客鉄道㈱水戸支社長より「人命救助と輸送障害を最小限に留めた功労」に対して感謝状が授与されました。また、救出された男性は、顎（アゴ）を骨折したものの順調に回復しているとのことです。

柳生さん、塙さんの名コンビぶりは、入社同期生として面目躍如というところでした。

塙さん（左）と柳生さん

（2003年10月1日 489号）

【説明】柳生さん、塙さんは日立駅のホームから転落して意識不明になった男性を身の危険を顧みず救出しました。

だれかがどこかで
善行者表彰

日立コンシューマ・マーケティング㈱

九州支社　立山　俊勝様

立山さんは、昨年9月出張の折、佐賀市内の旅館玉家に宿泊。翌朝8時頃に旅館の裏手を流れる嘉瀬川で草取りをしている女性に気づきました。

朝食後8時半頃に部屋に帰り再度窓から嘉瀬川を見たところ、女性がうつ伏せ状態で川に浮かんでいるところを発見。当初女性が水面下で何かされているのではと思ったが、全く動かず様子がおかしかったので、旅館のフロントに降りて行き、119番通報を依頼するとともに、そばにいた男性宿泊客と一緒に川に向かい、立山さんは浴衣のまま川に入って女性を引き上げました。一緒にいた男性宿泊客が心臓マッサージと人工呼吸を繰り返し行っている内に救急車が到着し、この救急対応の甲斐あって、女性は一命を取り留めました。

翌10月佐賀広域消防局より、立山さんに人命救助の感謝状が授与され、地元佐賀新聞にもこのニュースが大きく掲載されました。

九州支部は、今年5月31日に、日立コンシューマ・マーケティング㈱迫口九州支社長同席のもと、田中支部長より善行者表彰を行いました。

表彰された立山さん（中央）

（2010年12月1日 575号）

【説明】立山さんは宿泊した旅館の傍の川で溺れた女性を他の宿泊客と協力して引き上げ、女性は一命を取り留めました。

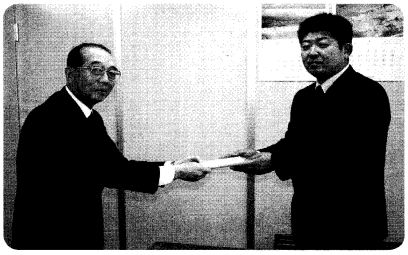
④ 障がい者支援活動

たれかが どこかで 善行者表彰

㈱日立ビルシステム　東関東支社
越谷営業所　佐野　康治様

佐野さんは、㈶日本盲導犬協会で募集しているパピーウォーカー（盲導犬候補として生れた生後２ヶ月の子犬を約10ヶ月間家庭で飼育するボランティア）に応募し、同協会から黒いラブラドール・レトリーバーのイーサの委託を受けました。ご家族の協力を得て立派に卒業の運びとなりました。

このたび関東支部では、1月27日に高田支部長が、㈱日立ビルシステム越谷営業所応接室で佐野さんを表彰いたしました。


表彰された佐野さん（右）

佐野さんとクーガ

佐野さんのお話

「犬好きを生かして社会貢献をしたいというのは以前から妻の思いの方が強く、家を建てる場所、構造など、着実にその構想が進められていたようで（笑い）…。いろいろ飼育する上でのルールがあるのですが、可愛くてこのまゝ、協会に帰さずに家に置いておきたいと思うことがしばしばありました。うちの子どもと同じですね。また、盲導犬になるには更に高度な訓練が実施され、ユーザーさんと生活する訳ですから犬の方も大変です。」

佐野さんの飼育第一号であるイーサの飼育体験については、親切だより３月号（５５４号）にパピーウォーカー体験記として掲載しておりますが、その後も盲導犬協会より飼育を依頼され、クーガ、ハイジと続けて育てております。

（2009 年 6 月 1 日 557 号）

【説明】佐野さんは(財)日本盲導犬協会のパピーウォーカー（盲導犬候補犬を飼育するボランティア）として活動を続けられています。

たれかが どこかで 善行者表彰

日立電子サービス㈱ 総務本部
塚田　正樹様

塚田さんは、小学校４年生の時、交通事故にあい、以来左腕に障がいを負い大好きな野球もできなくなりました。しかし中学時代に卓球に出会い、高校で本格的に卓球を始め、17才の時に「第１回全国障害者スポーツ大会」に神奈川県代表として出場し、優勝しました。その後も卓球の部で毎回優勝を果すという頑張りやであります。

一方、塚田さんは、将来必要になるだろうと考え、地域のサークルに入って手話を勉強しました。24時間テレビにボランティアとして参加し、ろうあ者の方々の通訳を務めたこともあります。

今では、それらの経験を買われて、横浜市内のサークルで先生として手話をえており、地域社会に多な貢献をしております。

このたび関東支部では4月28日に高田支部長が日立電子サービス㈱本社接室で塚田さんを表彰いしました。

表彰された塚田さん

手話を教える塚田さん

（2009 年 12 月 1 日 563 号）

【説明】塚田さんは、交通事故で左腕に障がいを負いながらも、「全国障害者スポーツ大会」の卓球で優勝するなど、頑張り屋ですが、一方では、聴覚障がいの方々のために手話を学び、手話の先生としても活動されています。

【説明】本間さんは点字の学習の後、「旭川朗読朋の会」で朗読ボランティアを行うとともに、録音図書の作成を手伝い、全国の希望者に貸出しています。

㈱北海道日立　本間　容子様

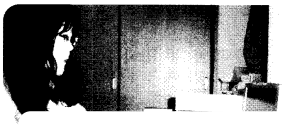
たれかがどこかで　善行者表彰

本間さんは、学生時代から身障者の方々のボランティア活動を始め、社会人になってからも2年間ばかり点字の勉強をしたあと、「旭川朗読朋の会」の朗読ボランティアをはじめました。

「旭川朗読朋の会」は創立から30年以上たち、1年間に100冊以上の録音図書を作成しており、旭川点字図書館を通じて、旭川の盲人の方はもとより全国の希望者に貸出されます。より良いテープ作りのため1年に何回か講習会にも通い、現在ではパソコンを使用して、自宅でCD作りに励んでおります。

このたび北海道支部では、3月14日に池田支部長が㈱北海道日立を訪問して、本間さんを表彰いたしました。

表彰された本間さん(左)


製作中の本間さん

(2006年9月1日524号)

⑤献血

【説明】右の記事；大島さんは70歳の献血限度年齢にいたるまで150回以上献血を続けてきました。
下の記事；渡辺さん、佐野さんはこれまでに181回、128回の献血をしてきました。他にも献血表彰事例も数多くあります。

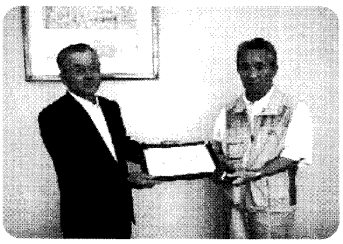
㈱日立製作所　OB　大島　信衛　様

このたび、中部支部では、長期にわたり日本赤十字社に成分献血をして来られた大島信衛さんを、10月7日に山下支部長が表彰いたしました。

大島さんは、若いころから自分自身の健康維持と、少しでも世の中のためになればとの思いで献血を始め、70歳になられるまで強い意志のもとに継続実施され150回以上の献血をされました。

なお、ご本人は年齢に関係ないと言われますが、日赤の年齢制限では70歳までとなっています。

大島さんは現在も、毎日の10キロ散歩と地元の歴史研究会の「語り部」を続けるなど元気にご活躍されていらっしゃいます。


表彰された大島さん（右）

(2006年2月1日517号)

たれかがどこかで　善行者表彰

㈱ルネサステクノロジ甲府事業所　製造部第二製作課　渡邉　靖之様　PI部第二グループ　佐野　正様

渡邉さんは、入社してから会社献血運動・山梨県民会館献血ルームなどで、成分献血を中心に現在まで181回の献血をしております。

また、佐野さんは、学生時代から献血を始め、現在は会社の献血運動・山梨県民会館献血ルームなどで、成分献血を中心に現在まで128回の献血をしております。

お二人とも、「献血運動」のきっかけは「少しでも社会の役に立ちたい」との想いで始められたそうです。これからも健康のバロメーターとしての献血、そして今後も一層健康に留意して献血を続けて行きたいとのことでした。

このたび、関東支部では11月10日、高田支部長が山梨県の㈱ルネサステクノロジ甲府事業所の応接室で、渡邉さん、佐野さんを表彰いたしました。

なお、甲府事業所は献血推進団体として年に2回、労働組合と協賛して献血活動を実施し、年間延べ約200名の方にご協力をいただいているとのこと。

佐野　正さん

渡邉　靖之さん

(2006年3月1日518号)

３．使用済み切手の活用

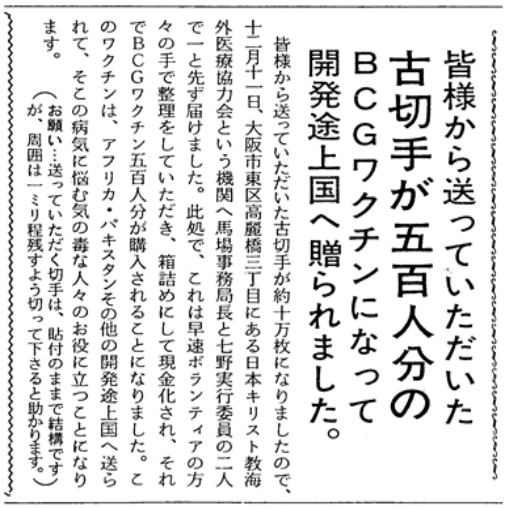
親切会では40年近くにわたって皆さまから使用済み切手をお送りいただいています（本部と関西支部の２か所で受け付けています）。今では、どなたでも容易にできる親切として、個人、職場を問わず多くの方々の参加を得て、毎月約3.5ｋｇもの切手が集まります。これをまとめて特定の福祉施設に寄贈しています。施設側では切手を換金し、運営費等に充当しています。

また、支部によっては寄付付自動販売機の設置を推進したり、リングプルを収集して車いすに交換したりして、使用済み切手と同様に小さな親切を集めて福祉支援に結び付ける活動も行っています。

（１）小史

年度	項目
1977	・養護学園　富士旭出学園の依頼により使用済み切手の収集開始 ・第１回収集分10千枚を同学園に寄贈
1981	・収集活動の拡大活動 ・寄贈先を芦屋聖マルコ協会経由日本キリスト教医療協会（JOCS）に変更し、100千枚を寄贈　⇒寄贈した切手はBCGワクチンに充当
1982	・JOCSに80千枚寄贈⇒JOCSより礼状を受ける ・東京支部、使用済み切手を東京善意銀行経由老人ホーム聖明園に寄贈開始 ⇒寄贈した切手を施設の整備費や大学生の奨学資金に充当
1984	・JOCSに150千枚寄贈
1985	・1985年度の収集実績、1,700千枚に達する ・JOCSに160千枚寄贈（内訳　本部;850千枚　東京支部;850千枚）
1999	・1999年度の収集実績3,000千枚
2005	・本部では、東京善意銀行の意向により、聖明園に直接寄贈することとなる ・収集実績は今日まで、ほぼ3,000枚／年で推移

（２）使用済み切手の活用



皆様から送っていただいた
古切手が五百人分の
ＢＣＧワクチンになって
開発途上国へ贈られました。

皆様から送っていただいた古切手が約十万枚になりましたので、十二月十一日、大阪市東区高麗橋三丁目にある日本キリスト教海外医療協力会という機関へ馬場事務局長と七野実行委員の二人で一と先ず届けました。此処で、これは早速ボランティアの方々の手で整理をしていただき、箱詰めにして現金化され、それでＢＣＧワクチン五百人分が購入されることになりました。このワクチンは、アフリカ・パキスタンその他の開発途上国へ送られて、そこの病気に悩む気の毒な人々のお役に立つことになります。

（お願い…送っていただく切手は、貼付のままで結構ですが、周囲は一ミリ程残すよう切って下さると助かります。）

【説明】使用済み切手を活用始めて間もない頃の記事。最終的にはＢＣＧワクチンになり、開発途上国へ送られた。

（1982年1月15日224号）

（３）　事務局からのお願い

（2002 年 9 月 1 日 476 号）

事務局（切手担当）からのお願い

いつも使用済切手をお送りいただいている皆様にはありがたく厚くお礼申し上げます。

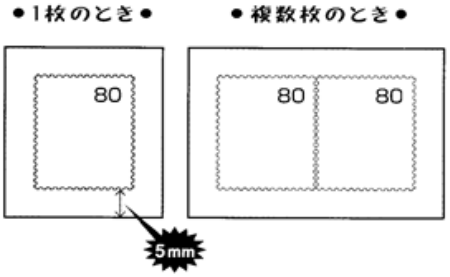
平成13年度に当親切会へ送っていただいた総数は約300万枚でした。おおむね7枚が1gに相当するので総量は430kgになります。寄贈先の福祉関係団体で換金されると約40万円程度となり、いろいろな福祉活動に役立っています。（詳しくはホームページなどに掲載）

なお、最近は量がさらに多くなり、事務局では嬉しい反面、それを整理する忙しさに悲鳴をあげています。

お送りいただいた切手は、耳切りをして10kg（約7万枚）単位にまとめて贈っていますが、特に耳切り作業には、東北の記事（上記）にもあるとおり、切り方に問題のあるものが多いため、かなりの時間を費やしています。

作業の効率化を図るためにも切手の切り方を再掲しますので、ぜひご協力いただきたくお願い申し上げます。

切手をお送りいただく時は、切手の周囲に5㎜ぐらいの台紙を残して切り取ってください。



【説明】使用済み切手は周囲を５㎜ほど残して切ったものをお送りいただいています。過去に、幾度もお願いの記事を掲載しています。

４．　福祉の実践

かつては親切会が運営主体となって福祉事業を推進していたこともあります。現在では、支部によって、災害被災地でのボランティア活動や地元の美化運動に参画する等地域福祉の支援を実践しています。

（１）　結婚相談所

結婚相談所開設

先月号で一寸ふれておきましたが、親切会結婚相談所は一月開設を目標に目下着々と準備中であります。申込資格は本会会員に限りますので、希望者は今から会員になって下さい。

本会の会費は一ケ年二千円で、毎月機関紙を御送付いたします。相談所は本会事務所とは別に、便利のよい玉江橋と東難波バス停の中間、阪神国道筋のインテリアあまもく五階に開設の予定で係員が常駐することになります。

会員になるには、会員の紹介により本会（尼崎市七松町二丁目二二―一〇　親切会本部）又は右相談所へ其旨申込むと同時に会費二千円御送金下されば結構です。

【説明】親切会は結婚相談所を運営したこともありました。個人会員の中から希望者が登録する仕組みのようですが、成果については不明です。

（1975 年 12 月 15 日 149 号）

（２）　生活困窮者の救済―貸付金制度

【説明】親切会は生活困窮者のための無利子で生活資金を貸付する制度を実施したこともあります。当時、新聞紙上でも大きく取り上げられたようです。

貸与制度に対する各紙の反響

本会が困窮者援助金貸与制度を始めたことは各界に大変な好感を以つて迎えられていますが、去る十一月四日、文化の日の翌日を期して各新聞紙が三段抜きの記事としてとりあげました。左に各紙の記事を活字の大きさまでそのまま此処に再録いたします。（五十音順）

—朝日新聞—

無利子で無催促

尼崎の親切会　困窮者に生活資金

尼崎市三反田千歳、大行院内に口一万五千円まで、市福祉事務所本部事務所をも親切会（篠梅郷）親切会本部事務局などで、「応募会員」は、生活困難を申請中の人なら、その日暮しに困った人たちに活資金を貸す制度を始め、話題となっている。

尼崎市福祉事務所と連絡、去月一日からスターートしたこの貸出し制度は、今月一日までに十人の利用者があり、年末をひかえ、希望者の殺到が見込まれている。親切会は「困った人たちにみんなの力で援助の手をさしのべよう」とさる三十四年四月、早大学生らの「底辺を献身して」の「町の奥様」で発足した。

初めは市内の奥様方に、毎月二千円で会費を出しあい、不幸児への資金援助や育英奨学者の見舞金などいった運動を行った。その後、貸同者が増え、いまは大阪、神戸、尼崎を中心に、会員数は全国で約五千人といわれている。

最近では、毎年、年末恒例のあい援助、尼崎市内の生活困難世帯全部に一斉にチキンをプレゼント、市内四カ所に一斉ポストを設けて、一般市民の智恵を生活困窮者に振次ぐ仕事も事業の一つにしている。

事業資金は会員の会費（普通会員は年に百円以上、特別会員は同五百円以上）、評議員は月二千円、神戸支部会費は年に百円以上、特別会員は同一万円以上、賛助会員は年五百円以上、特別会員は月二万円以上、評議員は月一万円しかないが、多くの人の智恵物価の値上がりで生活困窮者がふえ、ているとなったからだ、とみるしも、小口生活資金も貸付をはじめた。貸付額は一人当たり一万五千円を限度に生活困窮者に貸付を行なっている。

これは法で定められた生活保護の手続に時間がかかり、実際に困っている三十万円しかない、返済が早ければ、それだけ本給の人が利用できる。なお、親切会はとしの年末までに、いま市内二四カ所の善意ポスト全を倍増して八カ所にする。

市内の評議員三十七人の自宅に「親切箱」を設け、年末助けあい資金集めに協力することを決めている。

—毎日新聞—

生活資金を無利子で

尼崎の親切会

尼崎市の親切会（高橋郁嘉会長）では歳末助け合い運動の一環として、生活困難から苦難に陥った人の為に、一人当たり三万五千円を限度に生活資金を貸し付ける行なっている。

—神戸新聞—

生活資金を無利子で

親切会　困っている人に融資

尼崎（本部事務）で活動している親切会が、生活困難な世帯の人たちに無利子で金を貸し出す制度を始め、感謝の声を出しあい、不幸児への資金援助や育英奨学者の見舞金などいった運動を行った。その後、貸同者が増え、いまは大阪、神戸、尼崎を中心に、会員数は全国で約五千人といわれている。

最近では、毎年、年末恒例のあい援助、尼崎市内の生活困難世帯全部に一斉にチキンをプレゼント、市内四カ所に一斉ポストを設けて、一般市民の智恵を生活困窮者に振次ぐ仕事も事業の一つにしている。

—読売新聞—

こんどは融資

崎会　尼切親

困った人に

（1965 年 12 月 1 日 55 号 部分）

（３） 最近の実践例

【説明】東日本大震災時、東北支部は㈱日京クリエイトとの相互協力で被災地で炊き出しを実施しました。

支部だより

“被災地で炊き出し” 陸前高田市・多賀城市で

●東北支部

親切会東北支部では、大震災対応のボランティア活動を今年度の社会福祉事業の一つの柱として活動しています。この活動の一つ『被災地での炊き出し』は、㈱日京クリエイト（以下、日京と略す）との相互協力で実現しました。食材の購入～調理は日京、私達は物資提供や会場案内・誘導、片付けなどを分担しました。

5月14日（土）は岩手県陸前高田市特別養護老人ホーム高寿園において、当会から新鮮な果物など5万円相当を提供し日京による炊き出しを支援しました。

翌週の5月21日（土）は宮城県多賀城市の文化センターにおいて、ボランティア30名、日京調理スタッフなど17名による炊き出しを行いました。

同センターには、震災から２カ月以上が経つ中未だ約400名の方々が避難されており、毎日の食事はコンビニのおにぎりやカップめんなどが主で、調理されかつ適温で提供される食事はとても貴重なものとのことでした。

当日は、うどん・焼きそば・ハンバーグなど780食を用意しましたが、11時半の提供開始とともに長蛇の列ができ、１時間後には用意した食材全てが底をついてしまいました。中でも、デザートとして用意したアイスクリームやケーキ、フルーツサラダは、女性やお子様からとても好評で、あっという間に品切れとなるなど、避難所の方々に大変喜んでいただけました。

また、この日は韓国イ・ミョンバク大統領が来日の中、このセンターを訪問され私達にも声かけや、親しく握手をしてくださるという貴重な機会にも恵まれました。

今後とも、小さな親切を様々な場面で展開し、人々が支えあい笑顔溢れる社会づくりに貢献して参りたいと思います。

なお、この活動にあたっては、北海道支部・中部支部から貴重な義捐金のご協力をいただいており、活動費に充当させていただきましたこと、紙面を借りましてご報告させていただきます。

（2011 年 7 月 1 日 579 号）

５．広報活動　― 親切の輪を広げるために ―

親切会創立以来、55 年間にわたって広報紙（「親切のつどい」「親切だより」）を会員の皆様にお届けしてきました。他にホームページの開設、講演会の開催、支部版広報紙等を通じて、親切の輪を広げる努力を続けてきました。

ここでは広報紙の簡単な歴史と親切の理解を深めるために会員各社で開催された座談会を紹介します。

（１）広報紙発刊の歴史

年月	項　　目
1959/9	「親切のつどい」初版　　Ａ３　両面　４ページ 趣意書・会則の掲載　月１回の発刊
1961/4	本会創設満２周年回顧記事
1962/4	３周年特別号を発刊、三ヵ年のあしあと掲載 ３周年記念孤児等１３００名を招いて慰問ショウ開催
1964/5	５周年記念号発刊、善意ポストをスタート
1978/1	紙面をタブロイド版１０ページに 創立２０周年記念式典並講演会実施、２０周年記念特別号発刊（創刊号を再現）記念寄付（日本赤十字など）　合計 60 万円
1988/10	３０周年記念特別号発刊、記念式典の実施
1994/1	創立３５周年記念講演会報告特別号発刊
1999/5	４０周年記念特集（各支部の歩み）
2001/1	第１面をカラー化し絵画を掲載、紙面はＡ４サイズの６ページ。文字を大きくした。記事の内容を会員の活躍ぶりや親切行為の事例、寄付の寄贈先からの便りなど、会員に身近な記事を多数掲載、
2011/3	発刊を 2 ヶ月に 1 回とし、紙面を 2 ページ増の 8 ページとする

（２）座談会の開催

年月	開催会社	年月	開催会社
1969/10	日立機電工業㈱潮江本社工場	8	日立機電工業㈱大阪営業所
11	新明和工業㈱西宮本社	10	樽谷包装産業㈱本社
1970/1	音羽電機工業㈱尼崎工場	11	新明和工業㈱宝塚工場
2	日立レントゲン㈱大阪工場	12	㈱日立製作所大阪商品営業所
3	日立マクセル㈱	1972/1	日立レントゲン㈱大阪工場
5	㈱日立製作所大阪営業所	3	新明和工業㈱甲南工場
7	東洋鋼業㈱、樽谷包装産業㈱、共栄電器工業㈱の３社合同	4	日立マクセル㈱山崎工場
10	日東電工㈱	6	日立機電工業㈱尼崎本社工場
1971/2	大阪日産自動車㈱	8	日立金属㈱大阪営業所
4	日立運輸東京モノレール㈱関西支社	12	日立機電工業㈱関東工場
5	日製産業㈱大阪営業所	1973/7	日立工機㈱営業本部（東京）
5	日製産業㈱大阪営業所	11	日製産業、クレジット、家電の３社合同
6	西部日立サービス㈱	1974/12	日立運輸東京モノレール㈱東京支社
7	呉羽製鋼㈱	1975/1	日立メディコ本社

【説明】座談会を通じて、親切への理解を深める試みは 1959 年に既に行われていますが、1969 年頃から頻繁に開催され、上表のように 28 回も実施されました。

親切会からは原則として、馬場兵吉会長、馬場杢太郎事務局長が出席され、職場の管理職は 1～2 名に絞り、若手社員 10～20 名程度で夕食をとりながら開催されたようです。以下は日立レントゲンの座談会記事。

（1970 年 2 月 15 日 81 号）

写真（上）
左から
日立レントゲン
常務　臼井一夫
本会々長　馬場兵吉
本会事務局
馬場杢太郎
写真（下）
座談会に集った
レントゲンの方々

日立レントゲン大阪工場での座談会

═一月二十四日═

日立レントゲン大阪工場での親切座談会は、一月二十四日土曜日午後五時から同工場会議室で開かれた。

例の如く馬場会長・臼井常務の挨拶に次いで上田総務課長の司会の下に進行して行った。左に当日の発言順に従って発言の要旨のみを簡単に紹介することにする。

上田　では席の順に従って馬場検査課長から始めていただきましょうか。

馬場（敏）　昨年の後半期から、当工場に「親切のつどい」が配布されだしまして、今まであまり意識したことのない「親切」について、認識を新しくしたのです。

それからといっては恥ずかしいのですが、努めて人に親切をするよう心掛けております。電車等に乗る場合、他人同志が一つの席を争いあっているのをたまに見かけますが、これとは反対に、知人一人か一つの席を譲り合っている風景もよく見受けられます。この両者の行動は見知らない人であるか、あるいは知っている人かの相違だけであろうと思います。

人類の発祥源は一つで、人、各々兄弟であり、知人同志であると思えば争い事はなくなり、明るい社会になると考えまして、私も、私の乗用車での通勤途上では、有折車等がありますと、道を譲ってあげています。

親切を受けたことは、昭和三十一年入社二ケ月程で、朝の通勤電車で腹痛が起り、なんとか会社に辿り着いたのですが、増々ひどくなり苦しんでいました所故桜井社長に、会社の自家用車で最寄りの駅まで送っていただいた事がありました。その時、入社早々の一兵卒である私をわざわざ車で送って下さった感謝の念は、現在も私の記憶にはっきりと残っております。また有折する場合とか、駐車する場合の他の車への心使い等で感謝する場合がよくあります。このたびに譲り合いの話はこれ位にして、隣の竹田君にマイクを譲ります。

竹田　親切をしたことについては、振り返って見ましても特にこれといった事は思い出せませんのですが、一般に親切をしようと思ってすることよりも、常に温かい気持で接していれば自然と出てくるような親切が、より以上の親切のように思います。

ですから、誰にしても親切をした事よりも、親切をうけた事の方が心に残っているのではないでしょうか？

私は車を運転するのですが、運転中には非常に親切な人もいれば、不親切な人もありまして、例えば車中の停滞している狭い当地での有折する場合とか、駐車する場合の他の車への心使い等で感謝する場合がよくあります。このたびに譲り合いの話はこれ位にして、隣の竹田君にマイクを譲ります。このたびに譲り合いの話はこれ位にして、隣の竹田君にマイクを譲ります。

日立レントゲンKK
大阪工場
―座談会―

出席者
本会会長　馬場兵吉
本会事務局長　馬場杢太郎
本会理事
日立レントゲン常務
大阪工場長　臼井一夫
本会理事
日立機電工業KK
山崎裕二
═レントゲン工場═
総務課長　上田豊
検査課長　馬場敏
総務課事務員　森修一
経理課事務員　竹田満
製造第一課組立係　西窪厚美
製造第一課機械係　平松清
製造第二課電機係　矢形幸博
経理課事務員　平林千代子
資材課事務員　松本栄子
製造部事務員　松本慶子
設計課事務員　久保登志子
製造第三課パートタイマー　森本容子

6．会員募集、募金活動

親切会の発展と基盤拡充のために常に会員募集を行ってきました。

また、広報紙の発刊や寄付を行うための財源として、会費や募金という「親切心」を皆様にお願いしてきました。中でも年末にかけて会員各社にお願いしている歳末助け合い募金は親切会活動の大きな支えになっています。

（１）　会員募集

①会員募集

（1998 年 2 月 1 日 421 号）

新会員募集

「幸せなら手を叩こう」

西田治雄

"幸せなら手を叩こう"
"幸せなら態度で示そうよ"
"みんなで手を叩こう"

という歌がはやった時がありました。幸せであっても黙っていてはわからないから、私は幸せだということを態度で示すために、お互い手を叩いて喜び合おうじゃないか。ということではないかと思われます。親切会の運動の一つである親切心を引き出す活動については、講演会を開催したり、善行者の表彰又は会報の発行等を行っていますが、どれだけこの活動に貢献したかは仲々具体的につかむことはできません。人に親切にするということは、何か目だつことをする必要があるように考えがちですが、私はそうむつかしく考えないで、「人に迷惑をかけない様にする」「人の嫌がるようなことはしない」ということを心がけるだけでも、人に親切にしていることになると思うし、そうした人が増えていったら随分住み易い世の中になるように思うのです。こういうことを言うと「親切のつどい」を読んで下さっている方々は、それ位のことは充分わきまえていると言われるだろうし、その通りだと思います。しかしそれは他の人には、わからないわけです。そこで自分はそうしたことは十分承知しているし、又実行しているということを態度で示すために、親切会の会員になって載けないかと思うのです。

「あの人が会員になっているなら私もなろう」ということになり、会員が増えてみんなで手を叩くようになれば、有難いなあと思っています。会員になろうと思われる方は、本部又は支部（本紙末尾に記載）へ電話か葉書でご連絡下さい。早速入会に必要な書類をお送り致します。

編集部追記

個人会費　年間二〇〇〇円
法人会費　一口当り
月間三〇〇〇円です。

会員倍加運動に協力しよう！

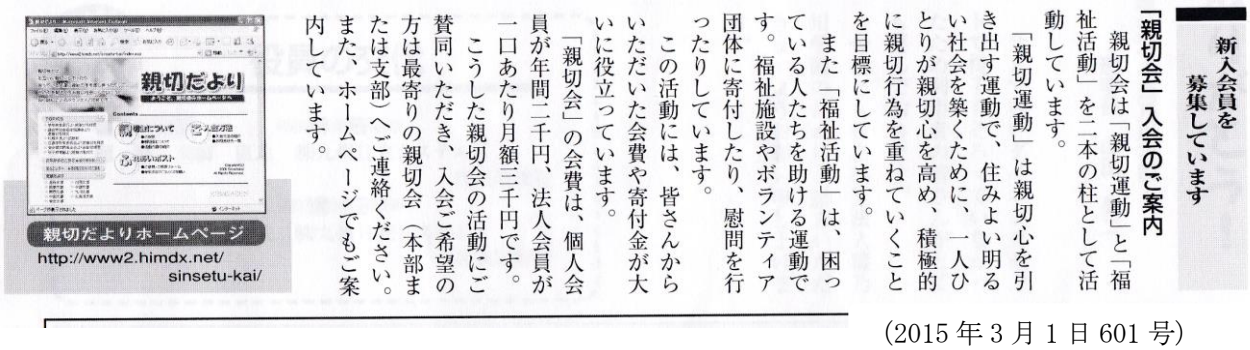
本会発足以来本会の趣旨に御賛同の等左人々に寄附援助をする他、の方々が逐日増加して居りますが会報「親切のつどい」を発行した一人でも多く御入会下さい。本会は今月から会員倍加運動を開始いたしました。本会の趣旨は現在の世情に省みておたがいもっと親切心を出しあって少しでもよい世の中にしようと言うのが其目的であります。四月十日是子殿の賛助会費（一円より三円迄下御感謝を配当して発足いたします）を御出して下さっている方も多数御座いますが此賛助会員に御入会下さい。

俗解説員会等の費用はその都度自弁で会費はそのような事には一切使用して居りません。

会員の紹介さえあれば幾でも御入会をお待らして居ります。

あなたの御賛意は仲々の会員では賛組でも多数集まれば一つの力を発揮出来るというと云う御考へ下さって御賛同を御申込み下さい。

（1959 年 12 月 1 日 3 号）



新入会員を募集しています

「親切会」入会のご案内

親切会は「親切運動」と「福祉活動」を二本の柱として活動しています。

「親切運動」は親切心を引き出す運動で、住みよい明るい社会を築くために、一人ひとりが親切心を高め、積極的に親切行為を重ねていくことを目標にしています。

また「福祉活動」は、困っている人たちを助ける運動です。福祉施設やボランティア団体に寄付したり、慰問を行ったりしています。

この活動には、皆さんからいただいた会費や寄付金が大いに役立っています。

「親切会」の会費は、個人会員が年間二千円、法人会員が一口あたり月額三千円です。

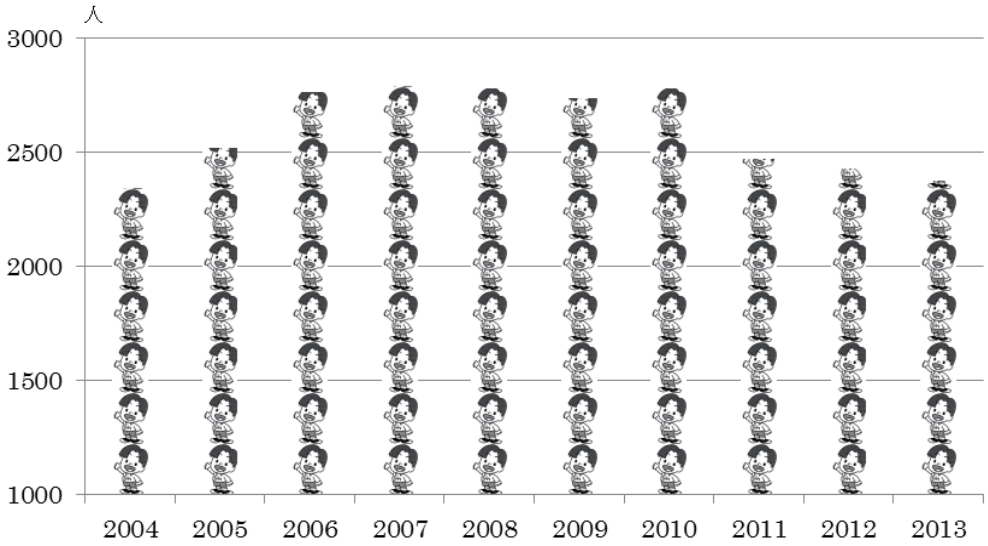
こうした親切会の活動にご賛同いただき、入会ご希望の方は最寄りの親切会（本部または支部）へご連絡ください。また、ホームページでもご案内しています。

親切だよりホームページ
http://www2.himdx.net/sinsetu-kai/

(2015 年 3 月 1 日 601 号)

【説明】会員には法人会員と個人会員があります。親切会では運営基盤を盤石にするため、より多くの方々に会の趣旨にご賛同いただき、入会をお願いしてきました。左上は発足間もない頃の会員倍増運動、右上の記事では、親切会の会員であることを人が知れば、何も言わなくとも自分が親切な人間であることを理解してくれる。入会の効果はそんなところにもあるので入会しましょうと呼びかけています。下は最近の募集記事。

②個人会員数の推移



【説明】会員は法人会員と個人会員がありますが、個人会員の推移は左のグラフのとおりです。

（２）　募金活動

親切会は募金で成り立っており募金を原資として、種々の活動を行ってきました。かつては善意ポストを設置して、市民の方々に広く募金のご協力をお願いした歴史もありますが、現在では個人、法人からの自発的な寄付と歳末助け合い募金が大きな柱となっています。

① 歳末助け合い募金

あなたの善意を

歳末同情箱に託して

↓入れよう贈ろう

気の毒な人々に

いよいよ本年もおしつまつて来ました。思い私達無事に一年を過させていただき、あれやとれやと迎春の準備に心をはづませて居ります。こうして私達がぬくぬくと凍えることなく、餓えることなく年の瀬を感謝していただけるのは、社会の恩と言はねばなりません。然し此のような社会には不運にも自由競争に敗れたり、その他色々の事情により、経済的にも精神的にも暗い悲しい淋しい年の暮を迎へている人々も多いのであります。いはば私達はこのような人々の犠牲の上に今日の幸せを享受しているとも云へましよう。その意味からも、私達はそれぞれ自分の分に応じて出来るだけのことをして、これ等の人々を慰めるのが道義的の義務であろうかと存じます。

毎年恒例の親切会で聾老院や各種施設の孤児、母子家庭や貧困家庭等に色々な品物や、餅を搗いて贈つたりしていることは皆様先刻御承知のことと存じます。

恒例によりまして本年も、いや本年は例年よりも一層盛大に贈呈したいものと考へます。十二月の七日頃から十日頃迄には去年通りの各賛助会員や同調者の事務所、工場、店頭に歳末同情箱を備へつけ、皆様の愛意と尊意を受付けたいとして居ります。昨年は七万余円の浄財が集り、餅や靴下に変つて多くの人々に喜んでいただきました。

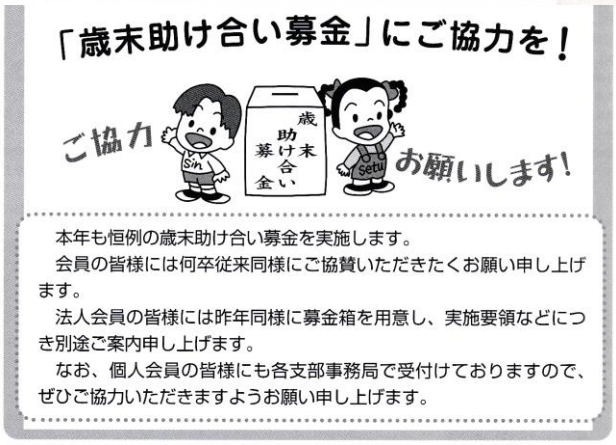
本年も去年以上に喜んでいただきたいと存じますので、どうか奮つて御寄捐を願上ます。

尚遠隔の地に居られる会員の皆様は金額の多少によらず本部迄御送金下されば結構と存じます。

本部は尼崎市水堂鳥林
ダイアマ製薬KK内
親切会事務所

【説明】歳末助け合い募金は、発足当時から連綿と続いている募金活動です。現在も会員各社およびその従業員の皆様に特段のご協力のお願いしています。左は初期の記事。当時は「歳末同情箱」と呼んでいたようです。左下は近年の記事。下は現在使われている募金箱。

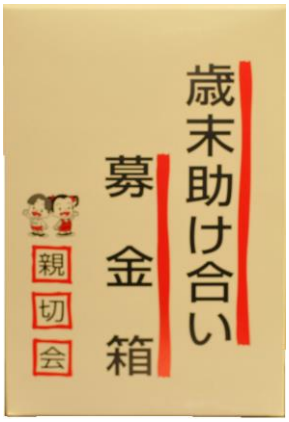
（1962 年 12 月 1 日 37 号）



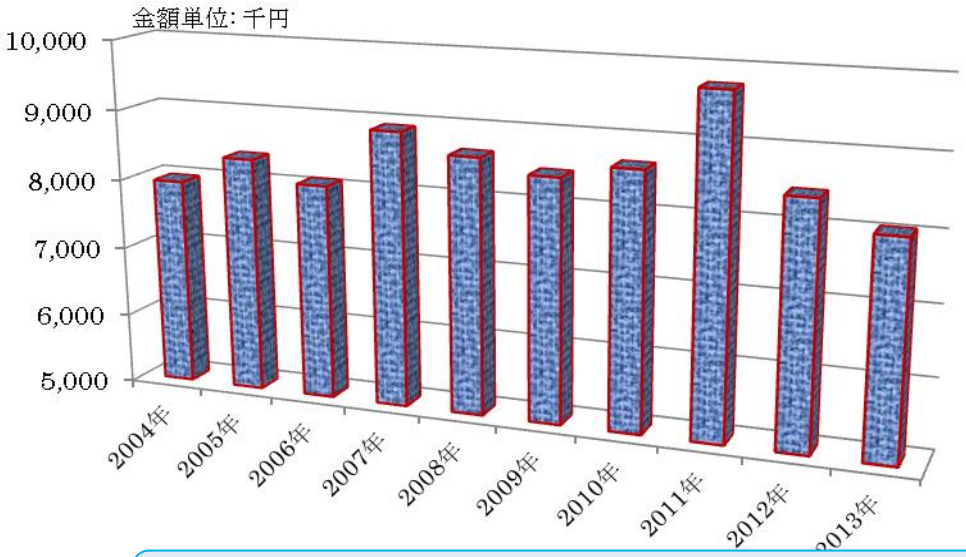
「歳末助け合い募金」にご協力を！

ご協力　歳末助け合い募金　お願いします！

本年も恒例の歳末助け合い募金を実施します。
会員の皆様には何卒従来同様にご協賛いただきたくお願い申し上げます。
法人会員の皆様には昨年同様に募金箱を用意し、実施要領などにつき別途ご案内申し上げます。
なお、個人会員の皆様にも各支部事務局で受付けておりますので、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。



② 歳末助け合い募金の推移



【説明】左は歳末募金の過去 10 年間の推移。毎年 8～9 百万円に上ります。東日本大震災のあった 2011 年は大幅増となりました。

③善意ポスト

善意のポスト遂に完成……

国鉄立花駅、阪神尼崎駅、出屋敷駅前など先ず四ケ所に……

全国に設置の第一歩として…

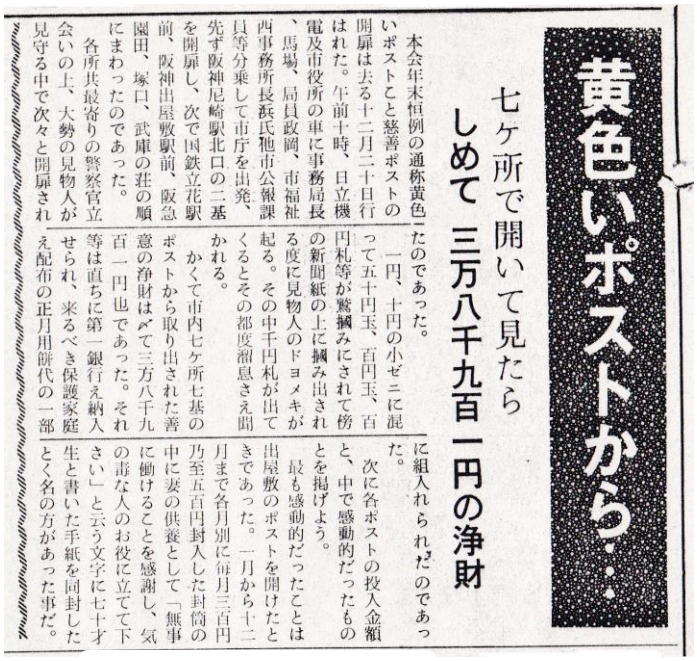
本会五周年記念として本年度事業ていただき、何時の日か、何かの一つの中央、阪神尼崎駅前に「善意ポスト」を設置すべく、目下、鋭意、市当局と折衝中であります。

この親切会は、三十四年四月末十二結成以来、市民の善意と協力を得て、会員約千人が親切グループを結成、既存の親切運動を強力なものとし、一足先にスタートを切ったいまでは中小企業の経営者、大編の組長、商井尼崎市長を会員ら名つらねているほか、一般の共会員も百名の会員は全国で五千人という。

師走末尼崎市内の貧困家庭に金通してモチをおくったのも、会員三年は去り国に法族の扇い巣たすため深洲航路のすみず丸花束を献じ南海ソロモン神で殉者の無を石ちったことも、あつた。同会はこの四基のポストを呼び起こされる善意を、さらに盛りすげるため、市当局、商工会議所、武庫郡地区や隣接の西宮、芦屋市方に今年中に設置ポスト五号、六号、七号を増設する計画で、やがては人々の善意の広がりとともに全国の各町にまで拡張者は考えている。

【写真説明】
上右：国鉄立花駅
上左：阪神尼崎駅
下右：同じく阪神尼崎駅
下左：阪神出屋敷駅前
の各スターミナルに立つ善意ポスト

（1964 年 8 月 1 日 49 号）



黄色いポストから…

七ケ所で開いて見たらしめて　三万八千九百一円の浄財

本会年末恒例の通称黄色いポストこと慈善ポストの開扉は去る十二月二十日行はれた。午前十時、日立機電及市役所の車に事務局長、馬場、局員政岡、市福祉課員等分乗して市庁を出発、先ず阪神尼崎駅北口の二基を開扉し、次で国鉄立花駅前、阪神出屋敷駅前、阪急園田、塚口、武庫の荘の順にまわったのであった。

各所共最寄りの警察官立会いの上、大勢の見物人が見守る中で次々と開扉されたのであった。

一円、十円の小ゼニに混って五十円玉、百円玉、百円札等が鷲掴みにされて傍の新聞紙の上に掴み出される度に見物人のドヨメキが起る。その中千円札が出てくるとその都度溜息さえ聞かれる。

かくて市内七ケ所七基のポストから取り出された善意の浄財は〆て三万八千九百一円也であった。それ等は直ちに第一銀行え納入せられ、来るべき保護家庭え配布の正月用餅代の一部に組入れられたのであった。

次に各ポストの投入金額と、中で感動的だったものとを掲げよう。

最も感動的だったことは出屋敷のポストを開けたときであった。一月から十二月まで各月別に毎月三百円乃至五百円封入した封筒の中に妻の供養として「無事に働けることを感謝し、気の毒な人のお役に立てて下さい」と云う文字に七十才生と書いた手紙を同封したとく名の方があった事だ。

（1969 年 1 月 10 日 68 号）

【説明】左上；親切会は 1964 年から、街中に善意ポスト（黄色いポスト）を設置し、一般の方々にも募金のご協力をお願いしました。善意ポストは次第に広がり、阪急沿線各所に設置され、東京駅にも設置されたことがあります。

左下；年末に警察官立ち会いの上開扉しました。中には毎月のように 3～500 円を投入され、「気の毒な人のお役に立てて下さい」という手紙が添えられていたケースもありました。

第２章　親切とは

「親切のつどい」や「親切だより」には、親切に関する意見や考え方が多数掲載されています。その一部を紹介します。

１．親切の根源について

人はなぜ他人に対して親切なのか。その根源を述べた記事が散見されます。

（１）自他一体感

①「他人を自己の延長と考える」

他人を自己の延長と考えて大切にする、それが自他一体感というものです。言い換えれば、相手の立場に立ってみることであり、そこに親切の根源があるとする考え方です。

親切心はなぜ必要か？

―その根本理由―

馬場　李太郎

然し翻って考えて見ますと、他人、他民族、他国民、動植物や鉱物等は果して自分と無関係のものでありましょうか。敢て宗教的に考えるまでもなく、哲学的に考えてみても、いや物理学的に考えてみても、すべては同根であるということが分ります。一切は宇宙に充満している目に見えぬある種の力、一種のエネルギーとでも言うべきものが作り出したものであります。然もこのエネルギーは非常に知恵のあるエネルギーに相違ありません。何故なら凡ゆるものを少しの混乱もなく、数学的叡智を以って整然とあらしめることは知恵なくして出来るものではありません。この一種の知恵あるエネルギー、不可思議力を哲学上では大生命と言い別の言葉では神とか仏とも言いますが、これによって我々人間と言わず動植物といわず一切のものが作り出されたとすれば、すべてこれ同根であります。

これを電気にたとえれば、家庭の座敷の電灯や机上のスタンドと街路にある赤や青のネオンサインの関係のようなものです。皆一つの電源から流れ出ている電気の現われに過ぎません。若しも座敷の電灯が美しいネオンを見て憎むとすればこれ程可笑しなことはありますまい。同様に個人が他人を憎み他国民を憎悪の目で見る等は最も馬鹿げたことと言わねばなりません。これを自他は同根であると知り、この点に気付けば人はおのずから自他一体感が湧き出てくるものです。従って他人も他国民も動植物も皆自分の一部であるという気持になってくるものであります。従って愛と同情の心が起き自然と行き届き相手の立場になってものを見るようになるものであります。こうなるとこの世の中から憎しみとか猜疑心とかは消え失せ明るく住みよい世界が生れて来るのであります。

明るい社会ひいては平和な世界が生れてくる筈です。親切というものは真に世界平和の原動力であります。話しが大変大きくなりましたが、人類は自らの心で作り出した戦争というものの悲惨さに驚き、色々な手段方法で此の世界から戦争を喰い止めようとする努力が払われています。例えば国連や世界連邦の考え方はその代表的なものであります。然しこの根本理念に達しなければ世界平和どころか自分の住む国民社会までも明るく住みよいものには出来ないと思います。

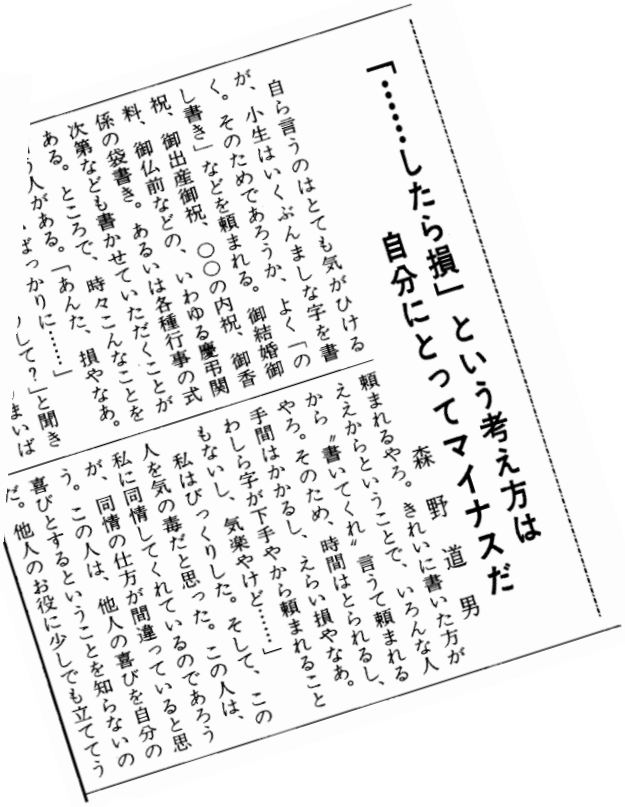
（本会事務局長）

（1984年12月15日259号 部分）

【説明】259号の記事の中で、自他一体感が述べられています。人は誰しも自己を最も大切にします。それと同じように、他人を自己の延長と考えて大切にすることから親切心が生まれるとしています。通常、親子、兄弟、身内、同種族、同国民というように、自己から遠くなるにつれ行き届かなくなります。しかし、元は一つの宇宙から生まれたものであり、動植物や鉱物さえ、皆同根であると考えます。自他は同根であることを理解すれば、自然に相手の立場になることができ、親切心が生まれます。親切心が世の中に広まれば、争いはなくなり、世界は平和になると述べています。

② 「同喜・同悲の心」

あなたの喜びは私の喜び、あなたの悲しみは私の悲しみ。「同喜・同悲の心」は自他一体感から発現される気持ちといえるでしょうか。



「……したら損」という考え方は自分にとってマイナスだ

森野道男

自ら言うのはとても気がひけるが、小生はいくぶんましな字を書く。そのためであろうか、よく「の し書き」などを頼まれる。御結婚御祝、御出産御祝、〇〇の内祝、御香料、御仏前などの、いわゆる慶弔関係の袋書き。あるいは各種行事の式次第なども書かせていただくことがある。ところで、時々こんなことを言う人がある。「あんた、損やなあ。ばっかりに……」

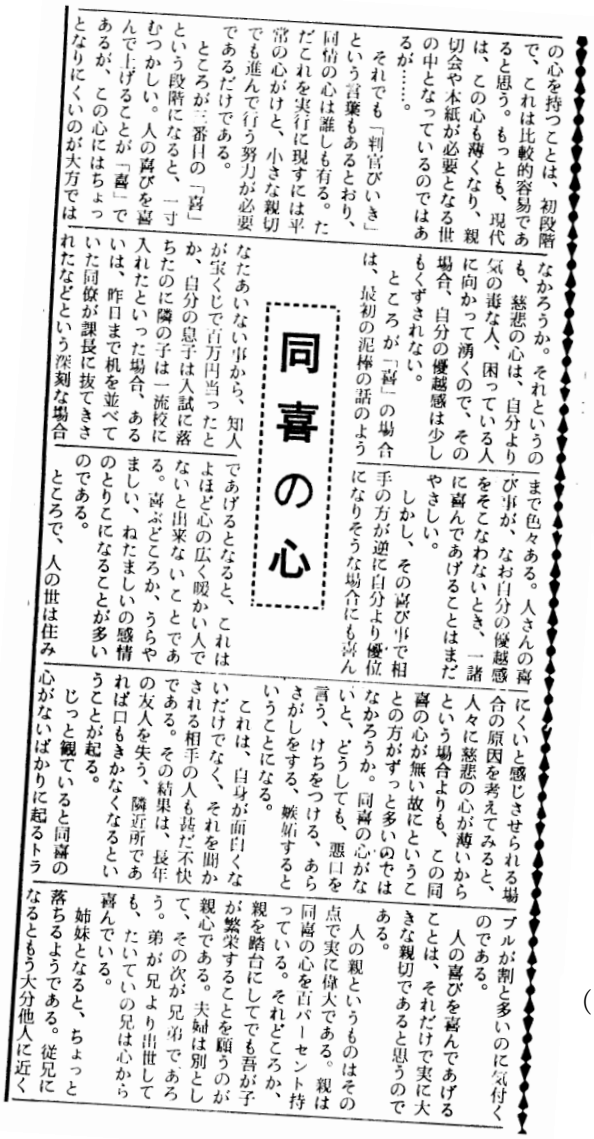
して？」と聞き

まいば

頼まれるやろ。きれいに書いた方がええからということで、いろんな人から〝書いてくれ〟言うて頼まれるやろ。そのため、時間はとられるし、手間はかかるし、えらい損やなあ。わしら字が下手やから頼まれることもないし、気楽やけど……」

私はびっくりした。そして、この人を気の毒だと思った。この人は、私に同情してくれているのであろうが、同情の仕方が間違っていると思う。この人は、他人の喜びを自分の喜びとするということを知らないのだ。他人のお役に少しでも立ててう

（1986 年 5 月 20 日 276 号　部分）



同喜の心

の心を持つことは、初段階で、これは比較的容易であると思う。もっとも、現代は、この心も薄くなり、親切会や本紙が必要となる世の中となっているのではあるが……。

それでも「判官びいき」という言葉もあるとおり、同情の心は誰しも有る。ただこれを実行に現すには平常の心がけと、小さな親切でも進んで行う努力が必要であるだけである。

ところが三番目の「喜」という段階になると、一寸むつかしい。人の喜びを喜んで上げることが「喜」であるが、この心にはちょっとなりにくいのが大方では

なかろうか。それというのも、慈悲の心は、自分より気の毒な人、困っている人に向かって湧くので、その場合、自分の優越感は少しもくすぐられない。

ところが「喜」の場合は、最初の泥棒の話のような

なたあいない事から、知人が宝くじで百万円当ったとか、自分の息子は入試に落ちたのに隣の子は一流校に入れたといった場合、あるいは、昨日まで机を並べていた同僚が課長に抜てきされたなどという深刻な場合

まで色々ある。人さんの喜び事が、なお自分の優越感をそこなわないとき、一諸に喜んであげることはまだやさしい。

しかし、その喜び事で相手の方が逆に自分より優位になりそうな場合にも喜ん

であげるとなると、これはよほど心の広く暖かい人でないと出来ないことである。喜ぶどころか、うらやましい、ねたましいの感情のとりこになることが多いのである。

ところで、人の世は住み

にくいと感じさせられる場合の原因を考えてみると、人々に慈悲の心が薄いからという場合よりも、この同喜の心が無い故にということの方がずっと多いのではなかろうか。同喜の心がないと、どうしても、悪口を言う、けちをつける、あらさがしをする、嫉妬するということになる。

これは、自身が面白くないだけでなく、それを聞かされる相手の人も甚だ不快である。その結果は、長年の友人を失う、隣近所であれば口もきかなくなるということが起る。

じっと観ていると同喜の心がないばかりに起るトラ

ブルが割と多いのに気付くのである。

人の喜びを喜んであげることは、それだけで実に大きな親切であると思うのである。

人の親というものはその点で実に偉大である。親は同喜の心を百パーセント持っている。それどころか、親を踏台にしてでも吾が子が繁栄することを願うのが親心である。夫婦は別として、その次が兄弟であろう。弟が兄より出世しても、たいていの兄は心から喜んでいる。

姉妹となると、ちょっと落ちるようである。従兄になるともう大分他人に近く

（1969 年 9 月 15 日 76 号　部分）

【説明】276 号の記事には「私は他人の喜びをわが喜びとする人間でありたい。」と述べられています。同喜・同悲の心は自他一体感とつながる気持ちであり、親切の根源になっているという考え方です。

しかし、常に同喜の心を持つことは容易ではなく、「その喜び事で相手の方が逆に自分より優位になる場合でも喜んであげるとなると、よほど心の広く暖かい人でないとできない。」（76 号）と述べています。同喜・同悲の心は単なる同情や憐みとは違い、「私達の心がいよいよ広く、愛深くなって」、初めて、その境地に達することができるとしています。

③ 共感や人類兄弟意識

共感や人類兄弟意識も、自他一体感から派生したものといえるでしょうか。

共感による現場主義の営み

神戸大学大学院准教授
稲場　圭信

（2009 年 11 月 1 日
562 号）

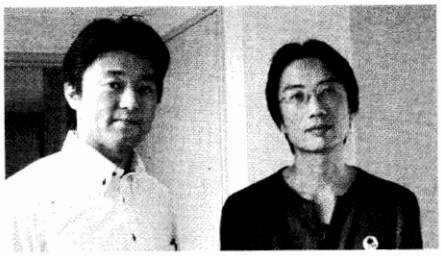
先日、貧困と戦う社会活動家、湯浅誠氏（ＮＰＯ法人「自立生活サポートセンター・もやい」事務局長）と話す機会がありました。年越し派遣村を取り仕切って一躍有名になり、今は、雑誌、新聞、テレビにと大活躍している時の人です。彼は東京大学法学部で日本政治思想を学び、その後、大学院修士課程、博士課程へと進学しました。しかし、研究者やエリートとしての道を捨てて、大学院を退学し、ホームレス支援活動の道を選びました。

湯浅氏と私は高校の同窓仲間なので、ざっくばらんに話す中に、彼は自分のホームレス支援や貧困者支援の社会活動の動機を「見ちゃった、知っちゃった、だからやっている」と語りました。マスコミが伝える、「兄が障がい者で、小さい時からボランティアの人たちが家に出入りしていたから社会問題やボランティア活動などに関心を持った」、あるいは、「父親の死を通してホームレス支援活動に没頭」は後から探してきた理由付けだとも言っていました。社会貢献活動に結びつくわかりやすいストーリーがないとマスコミや世間の人は納得してくれないのです。

湯浅氏は、湾岸戦争の時に、同じ高校の仲間である王寺賢太氏（京大准教授。近代ヨーロッパ思想史・政治思想専攻）、川崎哲氏（ピースボート共同代表。「9条世界会議」日本実行委員会事務局長）らと反戦運動をしています。その後、その川崎氏に誘われ、ボランティアとしてホームレス支援の現場・実態を知ります。そこでの体験が、「見ちゃった、知っちゃった」です。同じ日本に生きる人間として、その現実に目を背けることができなかったのです。そして、彼はホームレス支援の活動に関わっていきます。

まさに、社会貢献とは「共感による現場主義の営み」なのです。

しかし、社会貢献活動、ボランティア活動、親切・思いやり行動の当事者は、人から偽善と言われたり、自分が行動しても世の中何も変わらないと無力感や焦燥感に襲われたりすることもあります。割にあわないと感じて、折角はじめた活動をやめてしまう人もいます。周囲の人の無理解が本人の立場を厳しいものとする場合もあります。湯浅氏も家族



湯浅氏（右）と私

【説明】貧困者支援活動を行っている湯浅誠氏は、その動機を聞かれて「見ちゃった、知っちゃった、だからやっている」と答えたとのこと（562 号）。そこでは、ボランティアは理屈ではなく、自然な共感が原動力になっています。共感と自他一体感は表裏一体のものかもしれません。自他一体感がボランティア活動を根本から支えているといえるのでしょうか。

社会秩序だけでは親切心は生れぬ

酒井一郎

「近頃の若い者は、何を考えているのかさっぱりわからぬ」

この言葉を、年輩の人がいうのではない。僅か三年ぐらいの先輩が、新入社員に対して言うのだそうである。大学を卒業して、実社会に始めて入った彼等は、そこで生まれてはじめて上司という者があり、自分に対して命令権を持っている人物があることにでくわす。

終戦後の日本中の父や母は、多くが子に対する権威を失ない、学校の先生は、また生徒にとって友達のよも、三年もすると立派に職場の秩序に順応して、先輩となるのである。

これは不思議のようであるが、指導者に服従し、秩序の中に身を置く傾向は、人間本能の一部として既にあるのではなかろうか。

親や教師のいうことをきかない若者でも、グループの規則や指導者には絶対服従している。日航機乗取りの連中でもそうであった。

独身寮の寮規則などでも、会社が作ったもの、会社と寮生と合作のもの、寮生の一〇〇パーセント自治じくも喝破されている

人類ブレスレン（兄弟）意識

である。人間の上下秩序の方は、目にみえる制度として社会に根をおろしており、これを破る者は、社会から落伍せしめられ、または追放せられるという制裁をうける。

しかし、人類兄弟意識の方は、各人の開発にまかされている。もちろん制度化されていない。しかし、この意識―同胞愛をより多く持つ人程、親切な人であり、偉大な人であり、愛深

【説明】人類は兄弟という意識も自他同根に通じるものがあります。84 号において、親切心は人と人との平等的連帯感から生じるが、それは人類はみな兄弟であるという意識であるとし、「人類兄弟意識＝同胞愛をより多く持つ人程、親切な人であり、偉大な人であり、愛深い人である」としています。

（1970 年 5 月 15 日　84 号　部分）

（２）情けは人のためならず

日本では昔から「情けは人のためならず」といわれます。親切の動機をそこに見出す考え方もあります。

① 親切にすれば別の方から見返りがくる

「情けは人のためならず」に基づく意見が、「親切のつどい」「親切だより」には幾つかみら

盥（たらい）の水と親切は
向うえ押すほど　はね返る

【説明】左は親切会の標語（184 号）。親切をすれば、するほど自分のためになると説いている。

（1978 年 11 月 15 日 184 号）

栄えんとする人は　常に親切であれ

情けは人の為ならず、と諺にあるが昔から人の難儀を救ったり、人の命を救ったりしておくと、他日自分が難儀をしたときとか、落ちぶれて誰も相手にしてくれないような境遇になったとき、忽然としてその昔、恩を施した人が現れて、危難を救ってくれる話は、実に沢山ある。大抵恩を返した人の美談として、浪曲等にも数多く謡われているところである。誠にも情は人の為ならず、人を助けておけば我身も助けられるのである。けれども、我々の日常生活においては、このように美談として語り伝えられる程の大きな出来事は少ないのである。人の命を救う程の場面に出会うこともなく、人の大難儀を見ることもきわめて少ない。だから仮にいつか我が身が困ったとき、救いが現れるように一度位は人の難儀を助けておかなくては、自分本位ではあるが、大きな親切をしようと待っていても、果してそんな機会にめぐり遇えるか否か疑問である。待ち待ちして一生を終り、結局何もしなかったということになりかねない。

けれども親切というものは、そんな大きな親切ばかりが親切ではない。本当は、日常の当たり前のことの中に尽す親切こそ尊いものである。

毎日人に親切に接し、仕事を親切丁寧にやり、物を親切に取り扱う、こういう人こそ本当に親切な人で尊い存在である。我々の目標もここに置かなくてはならないと思う。こういう人こそ世の宝であり、国の宝であると言ってよいと思う。さて、こんな人は見ていると始めは貧しくても必ず栄えて行き、決して貧窮するということはないのである。こんな人は多くの人から好感を持たれ、段々栄えて行く。いざというときも、思いがけない方面から援助を与えられたり、見も知らぬ人から親切をうけて困らないのである。どうも世の中は、必ずしも与えたところからは返ってこなくて、別の方から返ってくるように出来ているらしいのである。これは実に不思議なことであって、何か世の中全体が一つの生きた有機体であるとしか思われない。

筆者の知人に、毎日電車で通勤している際必ず老人や乳呑子を連れた婦人に席をゆずることを実行している人があるが、この人が、さて、奥さんや子供をつれて郷里へ帰るとか、少し遠距離の旅行に出るとかするとき、不思議と汽車の座席に困らないそうである。先日も一家五人で帰省したとき、物凄く混んでいたが、発車間際に自分達の立っているところの席が五人一度に予定を変更して降りてしまい、あつらえたように坐れたそうである。又、読者の中にはこんな話を聞かれた方もあるであろう。即ちその人の親とか祖父が情け深くて、乞食などくると、きまって、家の者の食べる分をけずってでも恵んだりしていたおかげで、戦争に行っても、不思議に食に不自由しなかったという話。これ等のことをよくよく考えてみると、人を喜ばせておけば、必ず自分や自分の子孫に喜びが返ってくるということである。

我々は栄えていこうと思うならば、とにかく人に親切に、人を喜ばすことを心がけて生活する必要があることを知るのである。

いつまでも崩れない富、子孫までうるおす繁栄を築こうと思う人は、それらの土台は、日々すべての人に、物に、事に、力一杯の親切を尽すことであることを銘記すべきである。

（裏面へつづく）

（1981 年 3 月 15 日 213 号　部分）

【記事要約】情は人の為ならず、人を助けておけば我身も助けられるのです。

毎日、人に親切に接し、仕事を親切丁寧にやり、物を親切に取り扱う、こういう人はいざというときも、思いがけない方面から援助を与えられたり、見も知らぬ人から親切をうけて、困らないのです。どうも世の中は、必ずしも与えたところからは返ってこなくて、別の方から返ってくるようにできているようです。これは実に不思議なことですが、何か世の中全体が一つの生きた有機体であるとしか思われません。我々は栄えていこうと思うならば、とにかく人に親切に、人を喜ばすことを心がけて生活する必要があることを知らねばなりません。日々、力一杯親切を尽くすことを銘記すべきである。

②　「情けは人のためならず」を「互恵的利他行動」として科学的に分析

特寄 別稿

「希望の扉」第14回

利他的遺伝子の目覚め？

大阪大学大学院准教授
稲場　圭信

今の日本社会、他者を助ける行為、利他的行為を自己犠牲とは感じない人々がいます。お互い様、そのような相互関係の心、連帯感が生まれています。前回の「希望の扉」でこのように書きました。三月一一日以後、日本社会で変化が起きていると指摘しました。多くの方が感じていることだと思いますが、本当にそうなのでしょうか？

近年、欧米社会では、利他主義の動きが活発化しています。社会学、心理学、哲学などの研究の世界で「利他主義」研究が盛んになっています。二〇〇九年、アメリカ社会学会に、「利他主義・道徳性・社会的連帯」という専門部会ができました。日本でも、先日、小田亮著『利他学』（新潮選書）が刊行されたばかりです。

利他とは、他者の利益になる行動です。電車で席を譲る、人が物を落としたときに拾うなど、他者のために動いたことがない人は少ないでしょう。東日本大震災では多くの人が被災地に義援金や物資を送り、救援に駆け付けました。なぜ人間はこのような行動をするのでしょうか。

リバース・エンジニアリングという考え方があります。「機能」が何であるかが分かると、その「しくみ」の理解が進むという考えです。本書では、人間行動進化学の専門家である著者が、「機能」と「しくみ」から利他のメカニズムを平易に説明しています。

赤の他人への利他行動は互恵的利他で説明されます。つまりはお互いさま。そして、その利他行動は、直接的なお返しがなくとも、評判が立つことで第三者によって報われるのではないか。人の利他性と周囲の社会的なサポートとの間に関連性が確認されたと言います。情けは人のためならずと言ってしまえば、味気ないでしょうか。

二〇世紀末からの研究は、利他性は社会生活によって学ぶことができるということを示しています。本書でも制度や規範からうば捨て山の話まで、社会との関係性が幅広く取り上げられています。利他行動を包括的に解明した本書の誕生は、従来のような行政主導のシステムに頼るのではない、利他性に富む市民社会が希求されていることの証左でもありましょう。

本書の圧巻は、人間には、利他主義者とそうでない人をある程度見分ける能力があるという指摘です。人は見た目ではないといぶかしがる人は、その実験手順も含めてご自身で本書をご検討ください。

さて、今回の導入部分の問いに戻りましょう。三月一一日以後、日本社会で変化が起きているのでしょうか。電通が四月に「震災一カ月後の生活者意識」調査を実施しました。全国四七都道府県の二〇歳から六九歳の二、〇〇〇名が調査対象です。その調査報告のキャッチコピーが「震災で目覚めた利他的遺伝子」。そして、「静かに耐えながら、確かに強くなっている。心に備わっていた『助け合う本能』」と綴っています。

意識・行動の変化として、調査結果から三点あげておきます。第一に、「自分第一主義から家族回帰へ」です。「家族や友人・仲間を守ったり、助けたいという気持ちが震災前より強まっている」（61・2％）や「家族の絆や身近な人々との絆をいままで以上に重要にしようと思う」（63・9％）の結果が提示されています。地縁コミュニティ

（2011 年 9 月 1 日 580 号）

【説明】見知らぬ他人に親切にすることを利他的行動といいます。『利他学』（著者 小田亮氏　新潮選書）において、人はなぜ利他的行動をするのか、つまりなぜ親切なのかについて科学的な究明を試みています。

本書では、各種の実験を通じて、人の利他的行動（他人への親切）の動機を明らかにしようとしています。その結論は、直接的なお返しはなくとも、評判が立つことで報われることが動機になっていると主張しています。日本に古くからある諺「情けは人のためならず」は科学的に立証されたということでしょうか。また、本書では利他的行動は世界中どこでも普遍的に評価されるとのことです。

さらに、人は社会から利他性（親切心）を学ぶともいっています。現実に、わが国の国民性調査においても、利他的な生き方を望む日本人の割合は 1978 年当時に比べて最近では 2.4 倍に増えているとのことです。日本人は大震災等の経験を通じて、以前より親切になっているのかもしれません。本記事でも「私たちの中に眠っている何かが目覚める、希望が持てそうです。」と締めくくられています。

（３）「情」「誠」から親切は生まれる

親切の根源を「情」や「誠」に求める意見も見られます。また、愛や仁なども親切心に密接にかかわっているのかもしれません。

人は情

本会副会長
新明和工業相談役　古河　滋

鳥は樹に棲む
魚は水に棲む
人は情の下に棲む

何処で何時見た字句であったろう。誰の言葉であったろう。すべて忘れたが、簡潔で素朴なきわめて味いのある字句に強く惹かれている。

鳥は樹に棲むのが本性で自然である。

魚は水に棲むのが本性で自然である。

人は情の下にこそ安住出来る、落ちついて暮せる。

この句の作者はどういう人であったろうか。

学者、思想家、詩人、或はまともな政治家であったろうか。

曾って地位、名誉、富に恵まれた人が時世の移り変りか或は何等かの原因でおちぶれ、つくづくと是等の当てにならぬことを覚り、救いを人の真心や親切に求めたのであったろうか。

或ははじめからそれらに縁のないいわゆる恵まれない人々唯々人の情けの中に生き甲斐を見出して述懐した言葉であろうか。

否、この句には作者などがなく俚謡に近いものであったのかも知れぬ。もしそうだとすれば人の頼るべきところを正しく云い当てた庶民の心であろう。

沖縄の俚謡にもたしか次のような句があった。

……
梅は匂い
人は情

梅は匂いが本領だ。人は情あってこそ人間としての価値があるという表現である。

辞書に依れば「情」とはものをあわれむ心。慈愛。人情。思いやり。というようである。

併し今の世の中には「薄情」「非情」「無情」が何と多いことか。窮極するところ人間の住むこさまた住み心地のよい世界は情を基本とせねばならぬ。今になって社会の連帯性とか企業の社会性とかが盛んに云われるが結局「人間性」尊重ということに帰するとおもう。

経済発展と都市文明に栄えて来た現代の日本人が郷愁を感じ、復帰しようとするのは、失われつつある本当の「日本人の心」ではなかろうか。

人間が自己本位で勝手勝手な考えで行動することによって起る不幸の怖ろしさは毎日のように起っている。

くり返すが人は情―あわれみ。思いやり。ねぎらい慈愛。人情―こそ住みよい世界の根元である。政治も経済も文化もここから出発せねばならぬ。

（1974 年 3 月 15 日 128 号）

誠と親切

毛利銓一

親切会は、敗戦後の欠乏と荒廃によって、疲弊した人々の心を和らげようという親切心から、はじめられた。今、わが国は、未だかつてない繁栄のただなかにあり、昔の惨めさは偲びようもない。しかし、厚生統計の患者調査報告によれば、病院を訪れる人の第一は、高血圧症、第二は精神障害である。この二つは、年とともに増加し、未だ衰えていないことを知る人は少ない。また、世は国際社会となり、飢餓、貧困は、遠い他国のことと、知らぬ顔してはいられなくなった。親切の役割は、一段と重要になったといわなければならない。

親切会は、献身的に親切を行った人々を表彰し、福祉関係へ寄付や贈与などを行っているが、「親切のつどい」の役割は、親切への関心を高めることによって、自発的親切行動の発揮を期待し、親切の輪を広げることであると思われる。親切の源は何かといろいろ考えてみたが、誠という言葉しか浮んで来ない。

誠を電源、親切は誠から流れ出る電流として考えるのも一案では

（1991 年 1 月 1 日 333 号　部分）

企業にとって「親切」とは…日立は「まこと」だと考えます。

家電から重電まで、みなさまの暮らしにご奉仕する日立の企業精神、それは「まこと」です。創業以来、日立は、つねにこの「まこと」をモットーに、お客さまに対するまごころのこもった思いやりとやさしさを大切にしています。

株式会社 日立製作所

〒101 東京都千代田区神田駿河台４丁目６番地　電話(03)258-1111(大代表)

（1988 年 11 月 1 日 305 号）

【説明】「人は情」（128 号）では、「人は情ありてこそ人間としての価値がある」と述べています。「情」は日本人の心であり、そこから憐み、思いやり、ねぎらいが生まれるとしています。「情」が親切の根源ということでしょうか。

他方、333 号では「親切の源は何かといろいろ考えてみたが、誠という言葉しか浮んで来ない」といいます。誠は電源、親切は誠から流れ出る電流であると位置づけています。

㈱日立製作所は広告（304 号）の中で、親切とは「まこと」であり、会社は「まこと」をモットーにしていると述べています。ここでいう「まこと」は「孚」かもしれません。

２．親切の心構え

親切をするにあたって、心構えが大切です。この点についても種々の記事が見られます。

（１） 相手の立場になってみる

親切とはどんなことか？

一口に親切、親切と言っていますが、一体親切とは、どんなことを指して言うのでしょうか。

人に対しては自他一体感を以つて接する。同悲同喜の心を以つて接することです。人が喜んでいれば自分も喜び、人が悲しんで居るのを見れば自分も共に悲しみ、何んとか出来れば少しでも其の苦痛、悲しみをやわらげ取除いてあげることであります。他人が難儀をしたり困ったりしているのを見てもあれは他人事だ、自分とは何の関係もないことだ、下手にお世つかいを出して自分に迷惑がかかって来たら損だ等と思うような心は決して行き届いた心とは言えません。これは深切とは正反対の薄情と言うものです。自他一体感から人に行き届こうと思えば今日の世の中では可成りの勇気がいります。自他一体感などと言うと大変むづかしく聞えますが、平易に言えば相手の身になってみると言うだけのことです。そして相手がしてほしいと思うことを自分の身にかなうことならして上げることです。又相手の身になって、して欲しくないことはせぬことであります。

（1963 年 7 月 1 日 42 号　部分）

【説明】「親切とはどんなことか？」（42 号）では、「自他一体感などというと大変むづかしく聞こえますが、平易にいえば相手の身になってみると言うだけのこと」で、難しいことではないとしています。親切はまず、相手の立場になってみることから始めましょう。

（２） 形から始めよう、心は後からついてくる

親切会の願い

戦前の日本は、物は必ずしも豊かではなかったが、心の豊かな、即ち善意と親切に満ちた住み良い国であって、外国人からも賞讃されかつ羨ましがられた。それが戦後になって、物は世界で一、二を争う位に豊かになったが、人情は薄くなり、温い心はまるで忘れられたようになり、住み難く、味気ない世の中になってしまった。物はすでに豊かである。ここで一旦失った善意と親切心を取り戻して、物心両面ともに満ち足りた社会に安住したいというのが、私達親切会の願いである。

この事は、それ程難しいことではない。戦前の長い年月、心の面では世界の優等生であった実績がある。まず温い言葉、優しい態度を取り戻そう。そして、形の上の善意、親切を心掛けよう。形が出来れば、心は自然に伴うものである。

家庭に、職場に、街頭にお互いの善意と親切が行き渡れば、それぞれの分野での難問題は恐らく今の十分の一以下に減ってしまうに違いない。

親切会の会員は、手近かなところから親切、善意を率先励行しようではないか。

（1978 年 3 月 15 日 176 号）

【説明】「親切会の願い」（176 号）では、親切は、まず「形の上の善意、親切を心掛けよう。形が出来れば、心は自然に伴うものである。」と述べられ、形から入ることを勧めています。そして、親切会の会員に「手近かなところから親切、善意を率先励行しよう」と呼びかけています。

（３） 言葉と表情が大切

和顔、愛語は誰にもできる親切です。

（1959 年 12 月 1 日 3 号）

言葉と表情の親切

困つている人に物質や金銭を与えて慈善を施すとか、物質的に援助することは大きな親切であります。親切とは、そういうことだと思つている人も多いかも知れません。しかし、親切は、そんな限られたものではなく、その気にさえなれば物がなくても、お金がなくても、いくらでもできる筈です。このような親切は、数えればいくらでもあるでしようが、ここに誰でも――老人でも、婦人でも、病気していてもできるし、今日からでもすぐできて、しかも非常に大事な親切があります。

それは言葉と表情の親切です。暖かい言葉と、にこやかな表情を人に与えることです。言葉と表情は、なんでもないことのようですが、実は非常な力を発輝し、人を幸福にも不幸にもするのであります。言葉一つで、人を生かすことも殺すこともできるのであります。

失意のとき、暖かく励ましてくれる人の言葉は、どんなに力づよく再起の力を奮い立たせてくれることでしよう。悲しみに閉ざされている人にとつて、やさしいなぐさめの言葉程、心を癒やしてくれる良薬はないのであります。病人を見舞つたとき、誰でも「思つたよりお元気そうね」「そんな病気位、すぐ治りますよ」と力づける言葉を出すものです。そういう方が、とにかく病人を元気づけ、病気のためにいとをなんとなく知つているからです。

病人の枕元で、人の死んだ話や、病気の恐しいことを語る程不親切なことはありません。

たださえ神経過敏になりがちな病人を一層、意気消沈させるばかりです。

言葉を出すなら親切な、人を生かすような言葉をこそ出したいものです。

不幸に泣く人があれば、共に泣いて上げるのはよいが、その後では必ず力づけ、はげまし、慰心こつた助言をして、そして、「き※切であります。

或る子供は、先生からたつた一べん賞めてもらつたことが一生を通じての成功の原動力になつたというし、死を宣告された病人が、感ずるところあつて、感謝の言葉ばかり出していたら病気が治つてしまつたという話もあります。暖かい言葉は、聞く人を喜ばし、生かすだけでなく、出す人をも幸福にするようです。

表情も言葉の一種です。音の無い言葉です。いつもにこやかな表情をもつ人はいつも、人々に平和と安らぎを与えます。これも又、金銭や物を与えるのに勝るとも劣らぬ親切であります。苦虫をかみつぶしたような人、暗い表情の人は、自分が幸福でないばかりか、此の世に暗さをまいて歩くという点で、一種の悪であり、世間に対する不親切だと言えるのであります。

和顔。愛語。何がなくてもできるこの大きな親切を、実行しようではありませんか。

※つとよくなりますよ」と力強く宣言して上げましよう。

又、人は、誰でも、褒められたい認められたい、役に立ちたい、愛されたいという四つの願いを持つているといわれます。褒められ、認められて嬉しくない人はないのです。できるだけ、人の美点をみつけて賞め、欠点は言わないようにしましよう。小さなことにも、感謝の言葉を贈るようにしたいものです。

口から花びらのように讃える言葉、励ます言葉、感謝の言葉を出す人は、それだけ此の世を明るくします。これは誠に大きな世間への親切です。

【記事の要約】今日からすぐできる親切があります。それは言葉と表情の親切です。暖かい言葉と、にこやかな表情は、非常な力を発輝し人を幸福にするのです。失意のとき、暖かく励ましてくれる人の言葉は、どんなに力強く再起の力を奮い立たせてくれることでしょう。悲しみに閉ざされている人にとって、やさしいなぐさめの言葉程、心を癒やしてくれる良薬はないのです。讃える言葉、励ます言葉、感謝の言葉を出す人は、それだけこの世を明るくします。それは大きな世間への親切でもあります。

また、いつもにこやかな表情の人は平和と安らぎを与えます。暗い表情の人は、世間に対する不親切だと言えるのです。

和顔。愛語。何はなくとも、の大きな親切を、実行しようではありませんか。

（４） 勇気も必要

（1961 年 8 月 1 日 23 号　部分）

親切と勇気

これに似たようなことは、ままあるらしく、電車のなかで、酔つぱらいが人々に迷惑をかけているのに、誰も制止しなかつたというのもあつた。

他人のことにはかかわりたくない、まして紛争にまき込まれたくないという気持は誰しも一応はある。「君子危ふきに近よらず」という諺もあるから、自分が傷つくような紛争には、勿論近よらないのが賢明である。けれども、勇気さえ出せば自分にできる親切の場合は、大いに勇気を出すのがいいのである。

親切の源は愛の心である。愛が深ければ勇気も湧いて出て、どんな親切もできる。愛の心は利己主義とは相容れない。――

利己心の克服。これこそ、第三の、そしてあらゆる親切を行つに必要な勇気であるといえよう。

ところで戦後の日本は、諸外国に比べて、この勇気を失つた人が多いのではあるまいか。

人生の享楽面だけを追つて、その結果については責任を回避するような風潮が吹いているのではなかろうか。年間二百万を超えるといわれる堕胎、道義の低下等、考えなければならないことが多い。日本人はもつと、これらの勇気を持つべきである。

【記事の要約】親切をするには勇気がいります。

一つは、てれくささの克服です。電車の中で立っている老人に、席をゆずってあげるのはてれくさい。それがいやで、席を譲れないことがあります。勇気を出して親切を実行することが大切です。

強い勇気がいることがあります。電車の中で酔っぱらいが人々に迷惑をかけている。注意するのは怖い。しかし、大いに勇気を出して制止すべきです。

親切の源は愛の心です。愛が深ければ勇気も湧いてきます。日本人はもっと勇気をもって親切を行おう。

（５） 見かえりを求めない

天国は
ひもなきみみず池の鯉

参議院議員　常岡一郎

（1962 年 4 月 1 日 30 号　部分）

無私の親切

（1962 年 1 月 1 日 27 号　部分）

【説明】30 号や 27 号では、親切に見返りを期待してはいけないと主張しています。
親切をしても、相手から、感謝や恩に感じてくれることを求めると、相手が期待に反したとき自分が苦しまなければならない、唯、親切をすればそれでよしとします。「自分が親切してやった」という意識があるとその分だけ親切の値打が下がるとまでいっています。
「情けは人のためならず」とはいいますが、それは結果であって、鯉のえさにひもがついていたり、最初から私心があったりするのは本物の親切ではないようです。

（６） 見知らぬ人へも親切を

本當の親切は自他

（1959 年 12 月 1 日 3 号）

（1971 年 10 月 15 日 99 号 部分）

【説明】「親切会のことはじめ」（455 号）によれば、親切会は「世の中には困っている人が多い。困っている人の手助けをしたい」という考えから始まったとされています。親切会は、当初から見知らぬ人たちへの親切を目的に掲げていました。当時、不特定への親切はＮＨＫの歳末助け合い募金（1951 年開始）が行われていた程度であり、親切会の親切運動は、先駆的なスタートを切ったといえます。

２号では、「キリストが『家族や兄弟に親切にするのは、誰でもすることであって、値打ちはない。他人に愛を施してこそ値打ちがある』ということを言った」と、他人への親切こそ親切であると強調しています。

樽谷包装産業（株）の座談会（99 号）には「ごみ一つでも捨てない、落ちていたら拾う、こんなことでも誰と定まった相手のない親切になる」との発言があり、不特定への親切心は意義あることだと主張しています。そこには現在のボランティアへの萌芽を見るような気がします。

３．より高次の親切をめざして

（１）親切は深く切なるもの

親切ということ

木地繁雄

親切とは、ほんとうは深切と書くのだそうです。「深く切なる」ものを自分の底から出すという意味です。今親切という文字を深切と置き換えて考えてみましょう。無一物でも我々は人に深切ができるのであります。必ずしも経済的に恵まれた人が余分に人に物を差し上げるのが深切ではありません。人にものを聞かれたときに教えてあげることや、一足の履物を履きやすいように揃えてあげることなどわずかなことでも相手の人が心から喜べばそれが深切です。

しかし要らなくなったものをあげたり、自分の持物の余りを人にあげるということは、ほんとうの深切ではないのであります。このことから貧者の一燈は富者の万燈にもまさるという言葉がでたのでしょう。又お釈迦さんが印度に大飢饉のあった時、自分の弟子を殊更貧家の門口にたたせたという話がありますが、現代人の深く味わうべきことではないでしょうか。物質文明の世の中では、どうしても物が愛情の最高の表現であると解され易いが、よく考えてみるとそのものを差し上げるという心の中に深く尊い切なるものがあってその尊いものを捧げることこそ「深切」だということができるのであります。

又人から受けた深切は、必ずしもして下さった人に返せるとは限りません。今かりに甲が乙につくした深切を、しばらくして乙が甲に返すならば、この深切は二人の間だけで終ってしまいます。

甲が乙につくした深切を乙がすなおに受ける時、心からわき起る感謝が、機会がありしだい丙にむかって返されてこそ、ひとたびせきを切った甲の深切は、次から次へとひろがって、どこまでものびていくのです。

私達が人からその深切をすなおに受けて、そのうけた感謝の気持ちを出来るだけ広くつたえることによってその深切な心は、一家から一村へ、又全町から全市へ、全市から全県、全国、全世界へとひろまって行き、そこには争いのない感謝の充ち溢れた平和な世界が生まれてくるのではないでしょうか。

（本会会員・阪神教学会）

（1987 年 7 月 20 日 290 号）

【説明】290 号では、「貧者の一燈は富者の万燈にもまさる」として、親切は心の中の深く尊いものを捧げることであり、要らなくなった物を人にあげる程度のことは親切には入らないといいます。そして、人からの親切を素直に受けて、感謝の気持ちを広くつたえることが、やがて平和な世界を生み出すと言っています。

（２）親切は人と人をつなぐ心の文化

特別寄稿

『親切』は心の文化

お寺のプロデューサー

浄土宗大蓮寺住職・応典院主幹　秋田光彦さんに聞く

財団法人「小さな親切」運動
大阪本部 代表理事　大野　正利

「今、日本の社会で求められているのは、人と人のつながり。それをつなぐのが『親切』ではないでしょうか。」大阪市天王寺区下寺町の浄土宗大蓮寺の住職で塔頭（たっちゅう）応典院の主幹をされている秋田光彦（49歳）さんは、こうおっしゃっていました。

この応典院はＮＰＯ（非営利組織）で運営されている珍しいお寺です。住職の秋田さんの経歴もまたユニークなものです。明治大学卒業後、映画界に入り、「アイコ16歳」などのプロデューサー兼脚本家として活躍されました。しかしその後、事業に失敗して巨額の借金を抱え、結局30歳のときに僧侶になったのです。そして、戦災で焼けた応典院を平成９年に再建しました。本堂は、打ちっ放しのコンクリートで、中には約１５０人収容の小劇場やギャラリーがあります。「これがお寺か」と、訪れた人は誰もが驚きます。

このお寺の運営には、秋田さんの映画プロデューサーとしての経験が生かされているように思います。秋田さんは、「応典院はお寺の既成概念を打ち破ったかもしれない。そのポイントは３つある。まず、本堂が小劇場になっていること。葬式をしない、檀家もいない。そして、会員と一緒に運営するＮＰＯ型ということです。会費制のＮＰＯ『応典院寺町倶楽部』が活動を支えているのです。若者たちが毎日のように集まり、演劇を練習したり、美術などの作品展を開いています。芸術文化の〝楽しみ〟と学び（教育）、いやし（福祉）を供給できるお寺を目指しているのです。世界のＮＰＯの原点は、日本のお寺です。世界で初めて教育、福祉、芸術文化の公共サービスを提供したのも日本のお寺です。『葬式仏教』の歴

秋田光彦さん

（2005 年 8 月 1 日 511 号　部分）

【説明】秋田光彦氏は大阪市天王寺区の浄土宗大蓮寺の住職。新しい親切運動を提案します。

従来、親切を、道徳、倫理といった範疇の中で考えられてきましたが、今では親切の大切さについて、若者と中高年者との間で考え方にミゾができてしまいました。

そこで、秋田氏は「縁起」を説きます。縁起とは、すべてのものは単独で成り立たず、まわりのものと関係しながら成立しているという仏教の考え方です。人も多くの人々とのかかわりあいの中で初めて存在することができるのです。この縁起の考え方を親切運動に取り入れ、人と人をつなぐものとしての「親切」を現代社会に展開すれば、新しい心の文化活動を創造することができると説きます。

そのような親切運動では、中高齢者の出番となります。中高齢者が街中で『親切行為』を積み重ねていく。高齢者の行為が子どもや若者の手本になれば、それを心に刻んだ子どもたち、若者はやがて、こんな生き方があるのだと、高齢者を尊敬し、新しい心の文化が生まれてくることになります。それは、『縁起』の社会を創っていくことでもあります。

秋田氏は、親切を道徳としてよりも、人と人のつながりを実現するものとして捉えようとしています。そして、現代の日本社会ではそのような「親切」が求められていると主張しています。

（３）親切は普遍

【説明】「普遍と親切」（367 号）では、親切は時間、場所、民族、宗教、境遇をこえて世界普遍のものだと言います。「親切はいつでも、どこでも、だれでも、行い、行われて、同じように、あたたかく、うれしく、心をはればれとさせる」ものです。

28 ページで紹介した「利他学」（小田亮）においても、世界各地での実験を通じて、「文化や生活習慣が異なっていても」、人間には利他性（他人への親切心）があると結論づけています。

「普遍と親切」では、「親切は花であり、水であり、空気であり、光であり、影である。親切は、喜び、感激し、笑い、悲しみ、涙をさそう。親切は地球全体に広がっており、その普遍性はすばらしい。」と親切を讃歌しています。

どんなに科学が進歩しても、社会や組織の管理技術が改良されても、人が豊かに、幸せに、生活し、働くためには、親切はいつの世にもなくてはならない心といえます。

普遍と親切

毛利登一

経済摩擦が発生してから、「日本人は何を考えているのか」「日本人の考えのもととなる原理、原則は何か」を欧米人が問題にすることが多くなった。同じような

日本人が、多くの宗教、キリスト教を含めて、神、儒、仏、基の宗教に寛容であるということは、どの宗教をも本当の意味では、信じていないことに等しいと、欧米人は言っている。それは、換言すれば、よってたつべき根本原理がないということであると、彼らは言う。西欧の宗教こそ普遍的であると言うのである。

わたしは、普遍という文字にこだわった。結局、普遍とは「ユニバース」、普遍的は「ユニバーサル」の訳語であった。「ユニバーサル」は戦前の英和大辞典では、「宇宙の、万国の、万国民の」となっている。「普遍的」という文字はなかった。

欧米人中心の教えだけでは、全地球的ではないから、普遍的ではない。あえて言えば、文明国のなかでの普遍である。

世界は多様である。宇宙もまた多様である。そのなかで、彼らが普遍は、彼らの信ずる教義のみというのは独善である。

日本人の信じているものは、一見根本がないようにみえるが、つきつめると、天に通ずる「誠」となる。わたしの考えている天は、普遍的なものである。そして、日本人は、これに対して誠でつながっている。くり返すと、日本人の原理は、人知を超えた大きなものを尊び、それが示す人間の道を、多くの先賢が示す誠としている。誠は、真実であり、真理であり、信用であり、思いやりのもとである。そして、他者を思いやる普遍的な誠のあらわれが親切である。

地球上で、もっとも普遍的なものは何か。一つ一つの形や色、ひびき、におい、味は異なるかも知れないが、いつでも、どこでも、だれでも、行い、行われて、同じように、あたたかく、うれしく、心をはればれとさせる、それは「親切」である。

時間、場所、民族、宗教、境遇をこえて、親切は輝く。親切は、花であり、水であり、空気であり、光であり、影である。親切は、喜び、感激し、笑い、悲しみ、涙をさそう。親切は地球全体に広がっており、その普遍性はすばらしい。その力、影響は、まるで、大神の手であり、まなざしであり、言葉であり、芳香であり、美味である。日本人における親切の源は、誠、愛、仁などであるが、その源が何であるかは問題ではない。普遍とは、大神にもっとも相応(ふさわ)しい。そして親切はいつも、普遍的である。

４．親切五則

最後に親切会の標語「親切五則」を掲げます。親切の意義、根源、目的等について簡潔にまとめています。

親切五則

一、親切とは愛の具象化なり
一、人と物と事に行き届くを親切と言う
一、人に親切心の起るは、自他は本来一体なるが為なり
一、親切心のなき所に自他の繁栄なし
一、親切心こそ世間平和の根源なり

第３章　親切会事始め

（1）親切会創立のいきさつ（初代会長　深田昌三　氏の寄稿記事(1987 年 6 月 20 日 289 号)より）

この内容は、「親切のつどい」に掲載された「親切会への提言」に対するお答えとして、深田氏が寄稿されたものをまとめたものです。

親切会は 1959 年 4 月に発足しました。

そもそもは、宗教団体を主催しておられる難波小夏先生（後に当会の常務理事をされた方です）から、

「支店長、私達は毎日幸せに暮らしているが、世の中に困っている人が多いのです。そこで施設の孤児等をふくめて困っている人の手助けをしたいが、この様なことは人数が多い程大きなことができるので同志を集めて会を作りたいのだが、どうでしょうか」というご相談を深田氏が受けられたのが、始まりのようです。彼は、この話は素晴しいことだと思ったそうでありますが、只これだけですと何処にもある慈善団体と何らかわりがないので何か特徴をつける工夫はないものか、と考えて見たそうです。当時、時代的背景として未だ終戦後間もない時期でしたので、道義の退廃から親切心の欠如が、方々に見受けられまして、役所へ行っても窓口で不親切に扱われ不愉快な思いをしたことが度々あったそうです。振り返って我々の銀行の窓口はどうであろうか。また、私自身気がつかないうちにお客様に不親切をしていないだろうか、という反省を含めて我々皆各自持っている、親切心を引き出す方法はないものか、いろいろ考えた末、会を作って親切の講演をしたり、或いは会報やパンフレットを作って PR したら、我々の銀行も今以上に親切な銀行になるのではないだろうか。また、一般の事業会社、商店でも入会が動機となって、社員の方々がお客様や仕事に親切するようになったら、会社や商店に信用が付き、繁栄するもとになるのではないだろうか。またこの運動を進める事によって各家庭でもお互いに善意と親切が浸透すれば､家庭が楽しくなって、幸福の輪が少しずつでもひろがるのではないかという夢をもたれたそうであります。

そして、「親切心を引き出す運動と奉仕」、「福祉活動」を二本の柱として、親切会を作る案を立て、難波先生並びに日立機電工業㈱社長馬場兵吉氏（後の親切会会長）及び樽谷包装産業㈱社長樽谷清一氏ほか尼崎の名士数人の方々に意見を聴きましたところ大変賛同をいただきましたので、地元不動産業の方や銀行の幹部の方など有志の方々にもお集まりいただいて、親切会が誕生し、深田氏が初代の会長に推されいろいろな活動が始まりました。

その後、深田氏が大阪に転任されたのを機会に、大阪支部を作り、さらにヤクルト販売㈱の方々のご協力もいただいて、神戸支部が誕生し、当時親切会としては会員 1500 人を超える規模に発展しました。

当会の熱心な会員であった清水唯三氏が永年の間匿名で､月収の 15%を裂いて孤児及び母子家庭に愛の基金を大阪曽根崎暑に贈っていたことが分り、1961 年 1 月 8 日の読売新聞全国版に清水氏の善行と当親切会の運動が大きく報道されました。さらに、1961 年 5 月 28 日の大阪毎日新聞夕刊ではトップ記事として当会の存在と活動が、大々的に報道されました。

その他、福祉活動としては、阪神電車の尼崎駅前その他バスターミナル６カ所に善意ポストを常設、表彰制度の新設、実行委員会の新設などの改革を進めながら、発展を致しました。

親切はされてうれしくして楽し　（深田）

（2）設立趣意書

親切会趣意書

最近世上の一部には親切が足りない為不愉快の事が折々見受けられます。お互がもつと親切にし合つたらどんなに住みよい世の中になることでしようわれわれは先ず自分の隣人に親切を実行しようと云う同志が集り少しでも世の中がよくなる運動を始めたいのです。

われわれの一番近い隣人は家庭であり職場であります。先ずここから同志が親切を実行することにより家庭なり職場が少しでも明るくなれば幸いです

親切心はだれもが持つているのですが一寸はずかしいとか、一寸したつまらない感情にとらわれて、その親切心があらわれない場合が多いのですが親切会に入り胸に親切会のバツヂを付け、自分は親切会の会員であると云う自覚が出来れば実行がしやすいと思います。親切はだれの為でもありません人に親切をすれば結局自分にはね返りその人が幸福になることは真理であります。当会としては更にこの自覚を深める為随時講演会の開催、パンフレットの発行、標語の配布等をなし親切運動の啓蒙を図つて行く予定であります。

私達同志は前記の如く先ず隣人に親切を実行することから始めこの気持を、おし広め困つている方に奉仕的な仕事も既に実行して居ります。困つている人をお助けする仕事も一人より二人、十人より百人のほうがより多くの人をお助け出来る事は論をまちません。

本会の入会金は金百円とし会費は一切不要であります。

右入会金は本会の主旨に鑑み創刊講演会等の費用の外は極力奉仕的の仕事に使用し役員会の会合費用等は会則により役員の自弁と致しましたから御含み下さい。

本会は阜太子殿下御成婚を記念し四月十日に発足致しました。

本会の入会は会員の紹介により入会出来ますから本会の趣旨に御賛同の方は一人でも多く御参加下さいましてこの運動に御協力を賜わらん事を切望致します。

顧問　深田昌三（第一銀行大阪新町支店長）
会長　吉岡喜八郎（ダイアマ製薬ＫＫ社長）
副会長　樽谷清一（ＫＫ樽谷商店社長）
同　増本勇（共栄鋼機ＫＫ社長）
同　土井泰司（土井商事ＫＫ社長）
幹事　松田清（東洋鋼機ＫＫ専務取締役）
評議員　木村一郎（東北興業炭鉱ＫＫ社長）
同　鍵波小夏（一本松会会長）
同　吉田正太郎（ＫＫ吉田鉄工所社長）
同　馬場兵吉（日立機械ＫＫ社長）
同　田所定真（生長の家立花道場主管）
同　森田計雄（第一化成工業ＫＫ常務取締役）
同　斉田正雄（斉田病院院長）
同　引地浮一郎（朝日商事ＫＫ社長）
同　八田幸三
同　池上清美（第一銀行尼崎支店長）
同　江里口常臣（ＫＫ第一コンデンサー製作所社長）
会計　樽本高一（第一銀行尼崎支店次長）
監査　宮砥健次郎（古河電気工業ＫＫ大阪伸銅所経理部長）
同　門脇耐事
幹事長　馬場李太郎（藤原工業ＫＫ顧問）

当時の尼崎に勤務されていた、各社の責任者の方々が集まられて、会員が先ず率先して親切を実行し、少しでも世の中を明るくして行こうとの気持でこの会は出発いたしました。左記の趣意書に従って、多くの先達の皆さんが、動き始めたのです。
当時の尼崎市長からも「世のひかり」=人情との期待が伝えられたと「親切のつどい」が報じております。

（3）設立時の親切会会則

親切会会則

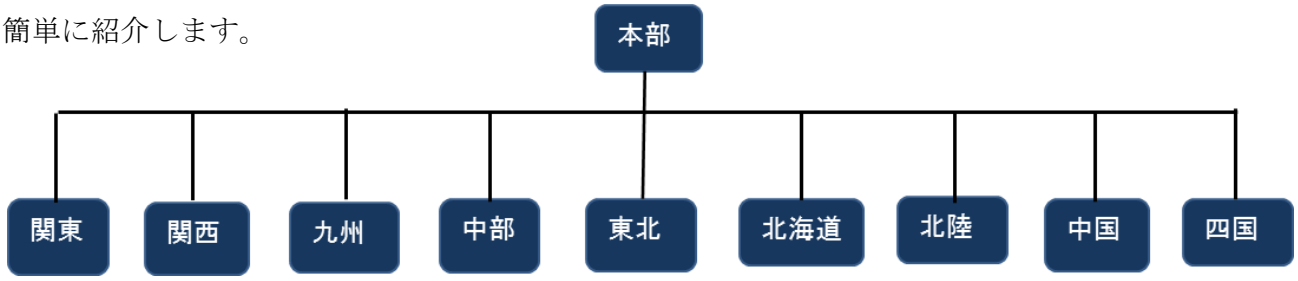
一、名称　本会を親切会と称す
二、目的　本会は会員各自が親切を実行すると共にこの気持を押広めて社会奉仕的仕事をすることを目的とする。本会は随時講演会の開催、パンフレット及会報の発行、其他により前記親切運動の啓蒙を図る
三、入会　本会の趣旨に賛同せるものは会員の紹介により入会が出来る（入会金百円）
四、会員　本会の会員は普通会員と賛助会員とす
五、会費　本会の会費は普通会員は不要、賛助会員は一定の金額を毎月納入することとしその金額は別に定む。会費はこれを積立て本会の趣旨に則り目的に使用す
六、寄附金　本会は会員其他より寄附金を受けることが出来る。この使用については前項と同じ
七、役員　本会の役員は会長一名副会長三名幹事一名会計二名評議員若干名監査二名とする
八、役員の任期　役員の任期は一ケ年とし再選をさまたげない
九、役員会　役員の外相談役、顧問を置く事が出来る
役員の任期は一ケ年とし再選をさまたげない
役員会は本会役員を以て組織し本会の運営は一切役員会の議決により行う
定例役員会は毎月一回行い必要ある場合は随時会長が招集して行う
十、総会　年一回、適当な時期を選びて開催す
十一、役員会の費用　役員会の費用は本会の趣旨に従い一切役員の自弁とすること
十二、下部組織　本会の下部組織は支部並に班とする
十三、会費の集金　会費は毎月会計へ納入し領収証を発行す
十四、会計の報告　会計は三月末及九月末に決算を行い会員に公表する
十五、事務所　当分の間尼崎市水堂字鳥林一二一八ダイアマ製薬株式会社内に置く

以上

社会奉仕が本来の狙いで、入会金と賛助会費でまかなうことをベースに、関係者の皆さんはまったくのボランティアだったようです。具体的な活動も、親切運動の啓蒙が中心でありました。

第４章　支部のあゆみと現状

親切会は全国９支部に分かれて活動しています。各支部の沿革と地域に密着した活動の現状を簡単に紹介します。



設立年	支部名	備　　考
1959 年（昭 34）	関西	関西支部は、創設以来本部として活動し、2002 年本部移転の時から関西支部と名称変更しました。
1973 年（昭 48）	関東	当初、東京支部とスタートしましたが、本部を東京に移転した時に関東支部と名称変更しました。
1982 年（昭 57）	九州	1982～1986 年にかけて、左の７支部が設立され、全国をカバーすることとなりました。
1984 年（昭 59）	中部、北陸、四国	
1985 年（昭 60）	東北、中国	
1986 年（昭 61）	北海道	

関東支部

関東支部の前身である東京支部が設立されたのは、親切会発足から 14 年を経た 1973 年（昭 48）です。その後、2002 年（平 14）に本部が関西から東京に移転したことに伴い、東京支部は関東支部に呼称変更しました。このとき、本部と東京支部は人員を増やすことなく兼務体制で推進することとし、効率化を目指しながら今日に至っています。

同時に関東支部に、①表彰委員会、②募金委員会、③地区推進委員会を設置（茂原、土浦、海老名、甲府、高崎の 5 地区で構成）して、活動の効率化、事務の合理化などの改善に努めてまいりました。現在は、善行者表彰、歳末助け合い募金、寄付、使用済み切手の取り纏め等、活動は多岐にわたっています。

〔歴代の支部長〕

1973 年 1 月　　網盛　孝

1983 年 9 月　　新井　啓介

1992 年 9 月　　野上　秀雄

2002 年 1 月　　髙田　佳昭

支部の重点活動事項

①善行者表彰

個人、グループに分けて実施、表彰ポイントは次の通りです。

(a) 当面、会員会社内の小さな親切、小さな善行に目を向けて該当者を発掘する。

(b) 単発だけでなく、継続して実行している人に重点をおく。

(c) 関東支部内の広い地域にわたって発掘する。

(d) 社内報への記事掲載を依頼する。（親切会のＰＲを含め）

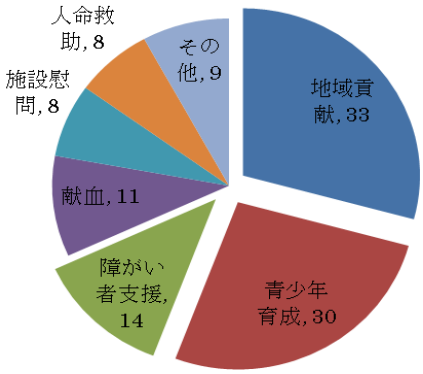
(e) 月 1 件の表彰を目標にする。

表彰は以下のように行う

・対象者の職場等に伺って、支部長より表彰する

・昼食懇談会、記念撮影を行う。

関東支部の最近 10 年間（2004～2013 年）の表彰件数は、①地域貢献、②青少年育成、③障害者支援を中心に右表の通りとなっています。



②寄付活動

社会福祉法人や各種施設・団体への寄付はもちろん、東京善意銀行の協力を得て、社会福祉法人の認可を得られない零細な各種援護グループへの寄付など、対象範囲を広げています。

〔最近 3 年間にいただいた感謝状〕

・東京都共同募金会

・日立市ひたち育成会

・鎌倉市社会福祉協議会（3 回）

・東京善意銀行（3 回）

③ 歳末助け合い募金

毎年、10 月中旬～12 月末にかけて歳末助け合い募金を推進し、多額の実績をあげています。会員各社に募金箱を配らせていただき、各社は主体的に各職場に展開し、積極的かつきめ細かな募金活動を進めていただいています。

その結果、2014 年の実績も約 250 万円に達しました。今後の福祉施設への寄付等の原資とさせていただきます。

④使用済み切手

使用済み切手については、関西支部分を除き、集約して収集しています。

皆様から寄せられる使用済み切手も毎年百万枚を超え寄贈先で換金され、それぞれ施設の運営費の一部に充当されています。

〔関東支部事務所で小学生の「体験教室」〕

かわいい小学校 4 年生の女の子達が親切会の事務所を訪ねてこられました。夏休みの仕事体験で、世の中に少しでも役に立つ作業を経験させたいとの親御さんのお気持ちだったようです。

使用済み切手の耳切り（周囲に５㍉ぐらいの台紙を残してカットする作業）をお願いしました。最初は興味しんしん、珍しい切手を見せ合いながら作業を続けていたようですが、最後は黙々と作業に打ち込んで、2 時間の「体験教室」終了しました。

関西支部

関西支部は親切会が兵庫県尼崎市で発足した 1959 年（昭 34）4 月から 2001 年（平 13）12 月までは親切会本部として活動してきました。その主な内容は親切心を引き出す活動、困っている人たちを助けることを目的としたものでした。

この間に東京をはじめ、全国的に支部が創設され、地域の親切会から全国的な親切会へと発展を遂げました。

【親切会活動の主な内容】

1.寄付活動(尼崎市孤児支援活動に対して)　1959 年 8 月に最初の寄付(継続中)

2.会報「親切のつどい」の発行　1959 年 9 月に第 1 号を発行(継続中)

3.歳末募金活動　1959 年 12 月開始（継続中）

4.尼崎市内各所に善意ポストの設置　1964 年 5 月（以降 20 年継続）

※善意ポストとは大型の募金箱のこと

5.生活困窮者に対する無利子貸し付け　1965 年 5 月開始(以降何年続いたかは不明)

6. 会長と会員各社若手社員との親切座談会　1968 年 9 月開始（以降多数開催）

7. 善行者表彰　1973 年 9 月開始（継続中）

8. 古切手の収集　1977 年 9 月開始（継続中）

9. 講演会の開催　1968年に第1回講演会(講師　今東光氏)を開催。以後、薬師寺管長　高田好胤氏、神戸簡易裁判所判事　佐々田英三氏、東大寺管長　狭川宗玄氏、近畿大学教授　久保道徳氏、須磨寺管長　小池義人氏、高野山大学前学長　高木神元氏による講演会を開催。

10.親切のつどいの改善　2001 年 1 月（第 456 号より）会報を A4 版とし、「親切だより」に改称して、文字を大きく読みやすくした。表紙に「身障者芸術家協会」の絵を掲載し、記事全般を親切に関する内容とし、親切の心を引き出すものとしました。

11.(財)小さな親切運動大阪本部との「親切だより」での連携　2001年2月開始

2002 年 1 月より関西支部として活動することになり、組織のスリム化を図るとともに経費削減を図りました。

2005 年 12 月には関西支部の運営・活動を組織的かつ計画的に行うために、「親切会関西支部運営に関する規定」、「支部長および理事等の任免に関する規定」を制定し、日立グループ各社の現役に参画いただき、OB 理事と現役理事で親切会の理事会を構成することにしました。現役理事は次の会社の関西地区の最高責任者（支社長等）もしくはその代理人（総務部長）にお願いしました。理事会では予算、寄付先等重要事項を審議することとし、さらには支部活動が形骸化しないよう、また時代や環境の変化に対応できるよう議論を重ねてきました。

さらには支部長の諮問機関として特定の会社の総務部長・課長で企画委員会を構成し、親切会活動の在り方等について忌憚のない意見交換を行い支部活動の活性化を図ってきました。

また支部財政基盤強化のため各社のご支援を得ながら、法人会員、個人会員の拡大に努めたが 2008 年（平 20）のリーマンショックや会社の統合、関西地区拠点の縮小等の影響を受け法人会員、個人会員ともに表の通り減少を続けた。この減少傾向を止めるために、2014 年 6 月～9 月にかけて会員拡大のために（株）日立製作所関西支社をはじめ、理事会社の全面的支援を受け、関西地区日立グループ会社や特約店

などに、法人会員増口や新規加入のご協力をお願いするとともに、関西地区在住の顔見知りの方々に個人会員になっていただくよう理事各々が勧誘を行いました。結果、2014 年 5 月末より新規加入会社が 7 社増え､法人会員口数は 15 口増口となりました。また個人会員は 60 人増加しました。

しかしながら 2002 年の水準にはまだ達せず、今後引き続き法人会員、個人会員の拡大に取り組んでいく所存です。

会員数の推移(年度末)

	2002年	2004年	2006年	2008年	2010年	2014年	2014/5末
法人会員(社数)	93	79	82	79	63	61	56
(口数)	103	100	105	103	88	85	78
個人会員（人）	806 人	748	813	814	762	710	663

一方、福祉活動は、近畿地区の社会福祉協議会と連携しながら寄付活動を地道に続け、困った人たちに手を差し伸べてきました。これにより多数の自治体の福祉協議会や、諸団体から感謝状や御礼の手紙をいただき、当支部の活動に対する期待感の増大を感じている次第です。

また善行者表彰を積極的に行い、親切心の引き出し、住みよい社会つくりに貢献しています。

九州支部

○ 支部の概況

九州支部は 1982(昭 57)年、当時の日立冷熱㈱九州支店の事務所の一角をお借りして活動を開始した。今年 2014 年（平 26）で発足 32 年を迎え、事務所を㈱日立製作所九州支社内(日立九州ﾋﾞﾙ/百道浜)に置く。

歴代の支部長は次の通り。

初代　1982(昭 57)～　西川義雄（日立冷熱㈱）
2 代　1988(昭 63)～　土屋正直（㈱正興電機製作所）
3 代　1995(平 7)～　高原登喜夫(㈱日立製作所社友)
4 代　2003(平 15)～　河野通宏（㈱日立製作所社友）
5 代　2006(平 18)～　田中繁次（㈱日立製作所社友）

親切会第 4 代会長・馬場兵吉氏が、㈱日立製作所九州営業所(当時)所長をされたこともあり、支部開設は東京に続き 2 番目で活動も熱心に進められました。

一時は㈱正興電機製作所並びに㈱日立製作所グループを中心として、法人会員 99 社、個人会員 300 名を超えていたようです。爾来、企業合併や退会等により会員数減少する中、さらなる加入勧誘活動を続け、2014 年現在は掲載表の通り、法人会員 53 社、個人会員 230 名前後で推移しています。

去る 10 月 14 日には九州支部に森和廣新会長をお迎えし、㈱日立製作所九州支社杉山支社長、大垣総務部長同席のもと、情報交換や活動の活性化についてのアドバイス等を頂戴しました。

(森和廣会長、九州支部訪問)

○ 活動のポイント

1. 会員（特に法人会員）の加入促進に力を注ぐ。
2. 親切会活動の理解を広める。
   特に既会員を定期（年 2～3 回程度)訪問し、活動状況の報告・年度計画や事業費の使途明細等の説明をし、合わせて要望などをお聞きしている。
3. 福祉寄付・寄贈並びに善行者表彰を引き続き重点的に実施する。
4. 事業費の原資となる歳末助け合い募金活動を積極的に進める。

○ 会員動向

	1998 年	2004 年	2007 年	2011 年	2014 年
法人会員	99	66	69	59	53
個人会員	314	189	300	254	234

（注）法人会員動向：2004～2014 で合併・退会＝29 社、新規加入＝16 社

○ 事業概況

支部開設から 32 年間の福祉寄付・寄贈事業及び善行者表彰事業の実施総額は、約 3,900 万円超です。

１．福祉寄付・寄贈事業（2006 年度から）

福祉関連の施設や団体を対象とし、現金寄付はもとより相手様の要望をお聞きし、大型テレビ・エアコン・大型冷蔵庫や洗濯乾燥機などの日立製品の寄贈も大変喜ばれています。寄付・寄贈先の推薦者(主として会員)同席のもと、贈呈目録をお渡します。

●1 件あたり金額目途＝10 万円～20 万円。

●年間実施件数・金額＝5～10 件、総額 100～140 万円

２．善行者表彰事業（2006 年度から）

社会を明るくし、地域の一隅を照らすような活動をされている方々、個人又は団体の表彰を実施しています。

●1 件あたり金額目途＝1 万円～2 万円

●年間実施件数・金額＝3～6 件、総額 12 万円

○ 今後の課題

１．　㈱日立製作所九州支社、並びに㈱正興電機製作所とのさらなる綿密な連携。（グループ企業への勧誘）

２．　支部たより発刊の検討…特に活動状況やエポックニュースを届ける。

３．　自販機物品売上からの親切会寄付金への転用お願い。

○2014 年度事業の紹介(抜粋)

希望の家ﾎﾞｯﾁｬ　寄贈
（佐賀県みやき町）

田川つくしの里　寄贈
（福岡県田川市）

九州補助犬協会　寄付
（福岡県糸島市）

福智園　寄贈
（福岡県福智町）

ケアハウスさくら　寄贈
（福岡県豊前市）

岸川氏善行　表彰
（佐賀県嬉野市）

中部支部

「中部支部」はお陰様をもちまして、2014 年で設立 30 周年を迎えさせて頂きました。

これも法人会員・個人会員の皆様の長きにわたるご指導、ご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。役員一同更なる躍進を目指し努力して参ります。

支部の現状は、2014 年 10 月現在法人会員 59 社、個人会員 457 名です。設立以降の寄付実績は 6,650 万円、1,130 件となりました。

「中部支部」は会員の皆様からお預りした会費・募金・ご寄付等により運営されており、活動範囲は愛知、岐阜、三重、静岡で主な活動は福祉施設等への寄付と善行表彰です。当会では有益な寄付活動を実施すべく行政・福祉団体・ＮＰＯ等との情報の収集に努力しています。特に寄贈実施先については適宜巡回訪問を行い当会に対してのご意見をお伺いするようにしています。事業は春秋 2 回の理事会、月 1 回の常任理事会を開催して各種事業の承認、報告、検討をしています。一部の寄贈先からは［寄贈決定が早い］［寄贈時期が年の前半にお願いでき施設の予算上ありがたい］等たいへんお喜びを頂いています。

事務局は㈱日立製作所中部支社、総務グループにお世話を頂いています。

最近の寄付活動他の主な内容につきご説明します。

（1）［東日本大震災］［広島土砂災害］に対して支援金、お見舞金を贈呈しました。

（2）東海 4 県内の「児童養護施設、乳児院、情緒施設 」92 施設に「洗剤」を寄贈しました。この事業は本年で８年継続実施となり、施設・関係者からたいへん喜ばれています。

（3）東海 4 県内の「養護学校・特別支援学校」へ「大型掃除機」の寄贈を 2005 年から実施し寄贈累計が 63 校となりました。

（4）日立グループ会員会社からの「事務所合理化等により余剰となった備品」「年末支援品」「入替時の災害備蓄品」「作業着」等の預託を頂き、福祉施設・各種団体・ＮＰＯ等に寄贈し関係者からお喜びを頂きました。

（５）「中部善意銀行 50 周年」「三重ボランティア協会 30 周年」記念大会で長期にわたる継続支援に対して感謝状を受賞しました。

（６）清涼飲料メーカーから提案のあった「寄付付自動販売機」の採用を日立グループ内の自動販売機設置済・予定の会社にお願いしています。2013 年度から採

用各社による募金活動が始りました。これは「清涼飲料水」の売上実績に伴いメーカーと利用者が募金を拠出するもので「親切会募金活動」の大きな柱となると考えます。当会では今後も拡大を図っていきたいと思いますので各社のご協力をお願い致します。

親切会活動（小さな親切・ささやかな福祉貢献）をご理解頂く為に、地元の情報を中心とした「中部だより」を 2011 年 7 月から隔月で発行させて頂いています。皆様には「親切会」の活動にご賛同頂き、知人・友人・同僚の方々にも会員になって頂けますようお薦め頂ければ幸いです。

当支部に対するご意見、ご要望等ありましたら事務局までお寄せ頂けると幸甚です。

東北支部

親切会東北支部は、1985 年に発足したので、今年で 30 年経過しました。諸先輩のご努力と会員皆様方のご理解とご協力により、順調に活動の輪を広げて参りました。

ピーク時には法人会員 70 社(1997 年)、個人会員は 300 名(2001 年)を超える大きな支部組織となりました。

しかし近年日立グループ各社の合併、事業所の再編などにより法人会員は半減し、これに伴い個人会員の減少も大きく、財政面が大きく変化し運営も非常に難しい局面となっています。

当支部としてはこの様な状況を鑑み、貴重な浄財を少しでも多くの福祉事業方面などに役立てることができるよう、管理費の圧縮や、事情変化にそった外国人留学生支援奨学金の見直しを行うなど最大限の努力を重ねています。

ここで当支部の特徴ともいうべきポイントを挙げると、

１．年間 4 回の理事会を各理事会社の会議室を持ち回りで開催をお願いし、親切会運動のより一層の浸透を図るようにしています。

２．在仙の日立ＯＢ会（会員数約 60 名）に格別のご理解とご支援を頂き、各種行事を通じて運営に協力頂いています。

３．事務局を担当されている日立総務グループとの連携が密接である事。

などを挙げる事ができます。特に日立総務グループ事務局の献身的な努力は特筆されるべきものです。

次に当支部にとって最大の出来事は 2011 年 3 月の東日本大震災であります。この震災では会員会社と個人会員の方々にも物心両面で大きな被害をもたらした悲しい出来事でした。

東日本大震災被災地に対する主な支援活動をご紹介すると「被災地での炊き出し支援」「被災地沿岸部福祉施設への家電品の寄贈」等があげられます。

被災地での炊き出し支援として 2011 年 5 月 14 日親切会法人会員の(株)日京クリエイトが岩手県陸前高田市被災者避難場所「特別養護老人ホーム高寿園」に緊急の炊き

出しを行った際、当会として新鮮な果物を提供しました。

また、同年 5 月 21 日宮城県多賀城市「多賀城市文化センター」には 400 名もの方々が避難されているなか炊き出しを行い、うどん、焼そば、ハンバーグなど温かい食事約 780 食分を提供することができました。この炊き出しは、(株)日京クリエイトの調理師の方々と当会支部会員各社、50 有余名のボランティアの協力をいただき実現しました。提供した温かい食事の他にアイスクリームやケーキ、フルーツサラダ等のデザート類を加える工夫をしたところ、子どもや年輩者を含め皆さんにたいへん喜んでいただくことができました。

またこの日は、韓国元大統領のイ・ミョンバク氏の被災地訪問と重なり、私たちにも声かけや、親しく握手をしてくださるという貴重な機会にも恵まれました。

なお、この活動にあたっては、北海道支部・中部支部から貴重な義捐金のご協力を頂いており、活動費に充当させていただいております。

次に 2012 年 2 月 15 日には、地域住民の命の砦として重要な役割を果たされた宮城県南三陸町「南三陸ホテル観洋」の女将さんと社員の方々に対して善行者表彰を行いました。表彰当日は、東北支部個人会員 16 名の参加のもと復興支援訪問をあわせて実施しました。

南三陸ホテル観洋の皆さんは、自らも甚大な被害をうけながらも地元住民 350 人余の避難所としてホテルを開放し、さらには仮設住宅に移るまでの二次避難所、幼児から児童の保育施設、生活の様々な支援や震災復興に携わる人々の拠点として復興・再生の中心的役割を献身的に果たされました。この活動をたたえささやかな表彰でしたが、当該ホテルの皆さんから感謝と感激のお礼を頂戴しました。

その他 2013 年 4 月に福島県南相馬市へ原発事故の避難区域などを除草する草刈り機を 30 台寄贈しました。草刈り機寄贈の経緯は、日立グループ社員がボランティアとして同市を訪れており、そこで不足している機材のニーズを受け寄贈を決めました。南相馬市からは、感謝状が贈呈されました。

また、津波被害の大きい太平洋岸 3 県(岩手、宮城、福島)の特に沿岸部に所在する福祉施設に着目し、当該県福祉事務所または、県健康福祉課などの協力を頂きながら優先的に家電品等寄贈の事業を進めました。2014 年度は秋田県と青森県太平洋岸の被災福祉施設数か所を取り上げ、家電品贈呈事業を進め寄贈先施設から喜びの声が届いております。

以上、たいへん厳しい状況ではありますが、親切会運動の原点である心豊かな社会

を目指すため少しでもお手伝いができるよう次の世代に受け継いで行きたいと考えております。

北海道支部

北海道支部は1986年の4月1日に親切会の中では最後発の支部として発足し、今年で29年目を迎えました。

発足当初は横山初代支部長をはじめ理事が4名、会員も法人会員が28社、個人会員においては僅か12名という陣容からのスタートで、寄付先も4団体、総額60万円であったと聞いています。

その後、横山、鈴木、池田歴代各支部長のもと、体制強化の為、理事の増員、会員の増大に努めてまいりました。最近は日立グループ各社の再編などで法人会員の減少が避けられない状況から、個人会員を積極的に増やす活動を重点的に進めてきました。その結果、個人会員数は2013年に初めて400名を超え、現在の会員数は406名(2013年度末)となっています。これは関西支部(666名)、中部支部(457名)に次ぐ規模で支部運営としても大きな基盤が作られたと思っています。

また、これらの会員一人ひとりに親切会の活動内容をより深く理解してもらうため、2ヶ月毎に支部活動報告を取りまとめ、本部からの「親切だより」に同封して会員に配布していますし、2000年には支部広報誌「すずらん」を創刊し、毎年の支部活動をわかりやすく会員の皆様に理解してもらうよう努めております。この「すずらん」は毎年4月に発行致しておりまして今年で第15号を迎えました。

円山動物園での「ゴミ拾いと外来種タンポポの駆除活動」参加者全員で記念写真　2014年6月

北海道支部の大きな活動の柱である寄付活動も毎年、件数、金額とも増えてきておりますが、支部発足以来の寄付総額も3000万円を超えるほどの大きなものとなりました。2013年度には17件、総額147万円の寄付活動を行いましたが、今後も積極的に新規寄付先を見つけていくなど尚一層の支援強化に努めていきたいと思っております。

一方、北海道支部では、積極的にボランティア活動にも取り組んできました。2009年からは毎年6月に札幌市の円山動物園で「ゴミ拾いと外来種タンポポの駆除活動」を継続して実施しておりまして今年で7回目を迎えました。今年の参加者は255名で毎年、家族を含めてたくさんの方々に参加を頂いており、今では北海道支部の一大イベントとなっています。また、2004年12月から会員以外の方にもお願いしリングプルの収集活動も行っています。収集したリングプルは690kgで1台の車いすと交換することができ、これまで4台の車いすと交換し、それらを円山動物園に寄贈してきました。今年中には5台目の車いすと交換できる予定にもなっています。

その他使用済み切手の収集活動も以前から継続して実施しており、また2007年から毎年6 月に札幌で開催されております「はまなす全国車いすマラソン大会」で車両誘導などの警備作業も親切会のボランティア活動の一環として継続して実施しています。

これらの活動は会員からの会費の他、「歳末助け合い募金」や「各種団体、会合からの寄付金」「チャリティーバザー」などによって支えられておりますが、これらの金額も年々大きくなってきており、会員をはじめ多くの方々のご支援とご協力のお陰とたいへん感謝を致しております。

2014はまなす全国車いすハーフマラソン大会」の自主警備に参加

親切会北海道支部もこれまで「小さな親切」「ささやかな福祉貢献」をモットーに様々な「親切運動」「福祉活動」に取り組んでまいりましたが、ハンディキャップを背負っている方々を支援しようとする福祉団体などはまだまだたくさんありますし、それらのほとんどが公的補助金のみでは活動が維持できず、各種の寄付に頼らざるを得ないところが多いと聞いております。親切会北海道支部としましても微力ではありますが、今後これらの団体、施設に積極的に目を向けて支援をおこなっていきたいと思っております。

北陸支部

１．支部の歩み

北陸支部は、本部発足昭和 34 年から 25 年経た昭和 59 年に北陸日立グループ各社の賛同を募り支部設立に至ったものです。現状支部長も 6 代を数えています。

〔初代〕高橋　昌　　1984 年 9 月～1985 年 2 月

＊日立北陸支社　25 周年事業にあわせ。

〔2 代〕吉田　宏　　1985 年 3 月～1991 年 10 月

この頃の経済は、昭和から平成に年号が移り、北陸の市場も順調に推移、日立グループ各社の人員も増えていたが、北陸支部はまだまだ小さな支部であり発展途上であった。

〔3 代〕高田　利一　1991 年 11 月～2001 年 10 月

日立グループ各社の業績も反映し、法人会員は横ばいだが、個人会員は 50 人から 80 人と増加した。活動状況もポスターや標語の募集、親切会の輪を広げる花

の種の配布、古本の回収と販売、日立会行事とタイアップしたチャリティー歳末募金の活動を実施し、小さな福祉施設に家電品を中心に小さな思いやり（贈呈）を行った。

　また、地域社会行事参加ということで、日立製作所を中核に日立グループで富山まつりおわら共演に参加（100 人）地域社会に定着を図った。

〔4 代〕石田　博　　2001 年 11 月～2007 年 8 月

統廃合が進み、北陸においても法人会員の減少となりました（28 社→19 社）

個人会員については、何とか微増約 90 人をキープする状況が続きました。

2007 年 3 月の能登半島地震（震度６強）で大きな災害が発生し、親切会として何もできませんでしたが、会社として多額の見舞金、支社の個人ボランティアの参加で大いに貢献できました。

〔5 代〕水島　和信　2007 年 9 月～2013 年 3 月

さらに日立グループ組織の改革が進み、北陸における日立グループ事業所の減少が著となりました。ゆえに法人会員も 15 社にまで減り、個人会員は微減となりました。

北陸地域における日立会も廃止され、事業所長中核の「つるぎ会」が日立グループ連携強化の場となりました。

〔6 代〕藤農　照一　2013 年 4 月～

親切会も時代とともに組織が大きくなり、活動の場も広がったが、経済の成長につれて競争社会が激化、利潤の優先、効率重視の社会が生まれ、人々の物質的な豊かさが得られた反面、道徳観の欠如、犯罪、自殺と情緒不安定から心を病む人が増えてきました。

さらに、経済のグローバル化が進み、家族団らんの場も少なくなり、また地域社会との繋がり、人情も薄くなった感があります。（発足時世相より憂慮が大）

本部、各支部の報告を聞くたび、活動に温度差を感じるが、北陸はまだまだ未熟であると痛感しています。北陸の財政基盤、組織体制いろいろ問題はあると思うが、今一度発足時の初心に帰り、一人ひとりが日常生活において人に対する思いやり、気遣いの実践（小さな親切）、組織としてはささやかな福祉貢献を目標として進めていく所存です。

２．　最近の支部活動

・富山、石川地区　　福祉協議会を通じての寄付（家電品中心）…50 万円／年

・福井地区　　福井新聞社を通じての「福井県幸せ基金」への寄付…10 万円／年

・北陸 3 県　　地域ボランティア活動で日立グループでの「美化清掃活動」

・年末チャリティー募金活動他

毎年、活動内容としては、大きく変わらないのが現実ですが、それでもマンネリ化、惰性に流されないよう、北陸における日立グループ各社の結束（協力）を頂き、地域とともに発展、人の温もりが感じられる社会をめざしたいと思います。また、2015 度に北陸地域にも待望の北陸新幹線が開通し、経済の活性化、地域をあげてのおもてなし文化の推進機運が高まることが期待され、ますます人の心の温かさが問われていると考えます。

中国支部

<支部の概況>

中国支部は、1985 年に発足して以来、本年で 30 年目を迎えました。発足当時は、会員数が個人会員 5 名、法人会員 33 社でのスタートでした。現在（2015 年 2 月）では、個人会員は約 121 名、法人会員は 30 社となっています。

当地区の活動の推進にあたり、定期的に開催している理事会を中心に、会員各社、個人会員の意見を反映させ、出来るだけ支部の独自性を出すべく毎年、その年の活動方針を策定し、親切会の二本柱である『親切運動』と『福祉活動』に取組んでいます。

<活動状況>

中国支部としては、親切会の活動趣旨に則り、福祉施設への寄付、善行者表彰、年末募金活動等を地道に展開してきました。

寄付活動につきましては、30 年間の域内寄付先総数は 107 件累計 2920 万円に上ります。これを県別に見ると広島県 38 件、岡山県 21 件、山口県 17 件、島根県 19 件、鳥取県 11 件、東京都 1 件と成っていますが、特に近年は出来るだけ地域格差を無くすべき公平な寄付先選定を心掛けています。また、寄付先の施設も、当初は「ユニセフ協会」「広島日本赤十字」等から、「原爆病院」「養老老人ホーム」等を経て、最近は特に運営面で厳しい状況にある「心身障がい者施設」を中心に寄付先を決めています。

そして、こうした活動を大勢の方に知って頂く為に、毎年中国支部ホームページで寄付先への訪問記を掲載しています。(その中で心に残った最近のものを下に一部紹介します)

一方、善行者表彰も総数で 17 件 23 名に行ってきました。理事会で審査し、最近では‘長期年休を取得して東北大震災の復興ボランティアに参加された方’や‘動物園に入園する児童に虎の生態などをガイドされる方’‘原爆ドームや平和公園の観光ガイドをされている方’等、主に積極的にボランティア活動をされている方を表彰しています。特に、最近では『親切運動』の一環として、東北大震災や広島市北部の土砂災害に対し義援金を出していますが、今後もこうした従来の活動の枠にとらわれない活動をして行きたいと考えています。

<寄付先訪問記>

・NPO 法人　さくらんぼの家　（2010 年 12 月）

島根県松江市島根町。2003 年に開設、平成 2007 年にＮＰＯ法人を申請。2008 年に島根電子工場跡に移設。人員 26 名を登録。島根町とお隣の鹿島町からの通所制となっている。昼食は弁当持参、交通費は自己負担であるが自主通勤に困難な方は送迎バスがあり、このバスは施設外就労にも利用されている。通常は５人体制で､4 名の正職員と４名の非常勤の計８名が交代制で利用者のお世話をされている。作業は、ハンカチ内折、肥料の袋詰め、クッキー作り、畑の管理、公共施設のトイレ等の清掃に加え、自動販売機詰替えなど多岐に亘って取組んでいる。いずれも軽作業が主体の為、収入面は厳しく、満足な設備が取り揃えられない悩みの中で、今回は現金を寄付しましたが、たいへん喜んで頂きました。帰路は、島根町の海岸沿いの景色が晴れてとても綺麗であった。この町の人たちが一生懸命支えられておられる施設に少しでも貢献できて良かったと思う。

・NPO 法人きらら女川　ひかり　（2012 年 12 月）

鳥取県西伯郡伯耆町。本施設の母体は、2010 年宮城県女川にあった障がい者就労施設「きらら女川」。2011 年 3 月に東日本大震災で事業所は壊滅し活動不能に陥られたそうですが、6 月に同じ宮城で被害にあった夢食研（株）が機械や製造技術を持って「きらら女川　ひかり」をこの地に開設されました。障がい者の方は A 型 13 名、B 型 10 名に職員の方を入れると 40 名で、製品は、菓子部門は 100 種類に及ぶオリジナルかりんとうを、水産・畜産部門は魚や海藻等の真空長期保存品を製造しております。夢食研（株）の代表取締役でもある阿部理事長は 70 歳を越えられていますが、特許も色々お持ちの上に研究熱心な方で新製品の開発に情熱を持っておられました。また、米子地区の障がい者の方に寄り添いながら共に働いておられる真摯なお姿には頭の下がる思いでした。本施設へは寄付金を持参し活用しますと喜んで頂きました。施設を出たら雪がやみ、伯耆富士と言われる大山が遠くに臨めて、本当に清々しい気持ちになれました。

・NPO 法人　優喜会　サルビアの家（2013 年 12 月）

山口県下松市。同施設は、以前は下松市肢体不自由児者父母の会によって運営されていましたが、平成 2013 年 4 月から障がい者総合支援法のサービス事業所として新たなスタートをきりました。まだ半年しか経過していませんが、障がいのある方が地域で自立した日常生活を営むことができるよう、心のこもった質の高いサービスを提供しています。また、日中一時支援などで保護者の負担を軽減し、地域福祉に貢献できる施設をめざしています。施設の利用者は、昼食のお弁当を持参されていますが、冷蔵庫が小さく、お弁当以外のものが入らずクーラーボックスを併用されていたとのことで、寄付品の冷蔵庫はたいへん助かり、タイミング的にもクリスマスケーキも入ったとたいへん喜ばれました。

四国支部

支部の沿革と現状

日頃は親切会活動にご支援、ご協力頂き厚く御礼申し上げます。親切会が誕生して55周年、また、四国支部が1984年5月に、東京、九州に次いで3番目の支部として発足して、今年で32年目を迎えます。

支部発足時は、初代油田支部長のもと、法人会員26社、個人会員10名にて活動を開始し、その後、多くの先輩方並びに会員の皆様に支えられて、現在まで発展して参りました。

歴代の支部長及び在任期間は次の通りです。

初　代　油田重一氏　　1984年～1990年
二代目　須﨑和壽氏　　1990年～2001年
三代目　田中俊雄氏　　2001年～2013年

そして、2013年６月より橋本が支部長を仰せつかって活動致しております。

次に、四国支部の現状についてご紹介致します。現在、会員は、法人15社、個人126名の方々に加入頂いております。発足時に比べグループ会社の合併等により法人会員は漸減しておりますが、現在、個人会員の募集強化に努めています。

主な活動としては、福祉活動、善行者表彰、使用済切手の送付を行っております。

特に、歳末助け合い募金につきましては、会員各社、各位のご協力は申すに及ばず、四国日立グループの社員の皆様や高松春光懇話会(旧高松日産懇話会)からは、永年に亘り格別のご支援を頂いております。また、高知八日会(高知県内の日立グループ)が毎年開催されている「お客様謝恩会」においても多大なるご支援を頂いています。

皆様からお預かりしたご浄財は、障がい者施設、児童福祉施設、老健施設、高松交通遺児を励ます会等への寄付を理事会にて決定し、寄付を実施しています。施設へお伺いすると、入所者の皆さんや施設の代表者の方々から毎回心温まるお言葉やお便りを頂いたり、地方新聞でも報道して頂く等、親切会活動を広く知って頂く機会にもな

っています。

また、善行者表彰としては、施設慰問や清掃活動、スポーツ指導等、地域に密着した活動を行っておられる方の表彰を行っております。皆様のお近くでこのような活動を実践されている方がいらっしゃいましたら、是非、支部の方までご連絡頂きます様、お願い致します。

使用済切手の送付につきましては、約40社の法人及び個人の方にご提供頂き、継続的に本部に送付し、海外医療サービスに役立てております。今後とも、引き続きご支援頂きますよう、宜しくお願い致します。

親切会活動は、一人でも多くの方にご賛同頂き、継続して実施していくことが重要と考えております。これからも「小さな親切」「ささやかな福祉貢献」をモットーに地域社会に貢献できますよう、地道に活動して参りますので、皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

1. 徳島県東みよし町「社会福祉法人十字会　博愛ヴィレッジ(知的障がい者更生施設)」
【以下のような心温まる御礼状を頂戴しました】

贈呈式の写真

拝啓 早春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素は施設運営各般にわたりまして、格別のご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、先般、貴団体よりテレビのご恵贈いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

テレビを見ることを楽しみにしている方も多く、スポーツ、音楽番組など新しいテレビで、より鮮明な音と画像を楽しんでいただくことができる様になりました。

まずは、取りあえず書中をもってお礼かたがた、ご挨拶申し上げます。　　敬具

社会福祉法人十字会 博愛ヴィレッジ
理事長 加藤 和輝

2. 高知市「社会福祉法人こうち福祉会　ライフ・ステージ　あおぞらセンター(障がい者支援施設)」

お礼の色紙

第５章　歴代会長

【　　】内は就任時の役職 □ の中は在任中の主な出来事

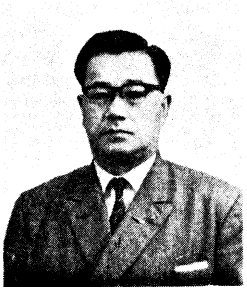
初代；深田昌二（1959 年 4 月～1959 年 7 月）　【第一銀行　尼崎支店長】

1959 年 4 月　本会発足
1959 年 4 月　尼崎市就学援護会へ寄附第 1 号
1959 年 4 月　会則制定

２代会長　吉岡喜八郎（1959 年７月～1965 年 4 月）【ダイアマ製菓株式会社社長】

1959 年 9 月　「親切のつどい」創刊
1959 年 12 月　会員倍増運動開始
1960 年 3 月　大阪支部発会
1961 年　読売新聞、毎日新聞に親切会が紹介される。
1961 年 4 月　創設満 3 周年記念施設慰問ショウを開催
1963 年 10 月　尼崎市交差点に標語入りアーチ寄贈
1964 年 7 月　善意ポスト設置

３代会長　高橋輝嘉（1965 年 4 月～1968 年 5 月）　大阪ヤクルト株式会社会長



1965 年 4 月　満 6 周年記念会員倍増運動
1966 年 10 月　生活困窮者救済（貸与金）制度新設
1967 年 5 月　箕面の障害児施設を慰問
1968 年 2 月　今東光氏講演会開催

第４代会長　馬場兵吉（1968 年 5 月～1990 年 9 月）　日立機電工業株式会社相談役

1969 年　この頃より座談会が盛んに開催される
1973 年 1 月　東京支部発足
1973 年 9 月　第 1 回善行者表彰
1977 年 1 月　結婚相談所開設
1978 年 1 月　「親切のつどい」を A4 版に変更し、内容を刷新。
1984 年　各支部が続々と発足

第５代会長　有信春二（1990 年 9 月～1992 年 8 月）　日立マクセル株式会社特別顧問

1991 年 4 月　陶芸家、吉向蕃齋氏の講演会開催
1991 年 5 月　深田昌三氏（初代会長）逝去
1991 年 10 月　近畿大学薬学部久保道徳氏講演会開催

第６代会長　新井啓介（1992 年 9 月～1997 年 5 月）　株式会社日立製作所顧問

1993 年 10 月　文学博士高木諱元氏の創立 35 周年記念講演会
1994 年 8 月　テレフォンカード 194 枚を養護施設暁星学園へ寄付
1995 年 1 月　歳末助け合い募金１千万円を超える
1995 年 1 月　日本赤十字社兵庫支部へ阪神大震災義援金

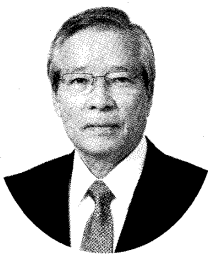
第７代会長　玉河晋次（1997 年 5 月～2003 年 7 月）　新明和工業株式会社相談役

1998 年 5 月　親切会本部を尼崎市立花町から西宮市日立甲子園研修所に移転
2000 年 4 月　ホームページ開設
2001 年 1 月　「親切のつどい」を「親切だより」に改題、刷新。
2002 年 1 月　本部を関西から東京に移転。関東支部発足。

第８代会長　丹野　毅（2003 年 7 月～2007 年 7 月）　日立化成工業株式会社相談役

2003 年 12 月　関東支部、東京都知事から感謝状を受く
2004 年 9 月　関西支部福祉施設を見学
2005 年 1 月　親切会創設功労者の一人、難波小夏氏逝く
2005 年 3 月　台風災害に義援金

第９代会長　内ヶ崎功（2007 年 7 月～2014 年 7 月）　日立化成工業株式会社相談役



2009 年 5 月　創立 50 周年功労者 25 名を表彰
2009 年 12 月　22 年間連載したマンガ「親切くん」が終了
2011 年 11 月　親切だよりを隔月発刊に
2011 年　東北支部など、東日本大震災被災者へ種々の支援活動

第６章　親切会を巡る人々

親切会は、創設以来、会の運営や広報活動において多くの方々のご尽力・ご協力に支えられて今日を迎えています。本章ではこれらの方々をご紹介します。

１．親切会の運営を支えた人々

親切会の運営は、同じ志を持った以下のような方々が支えて下さいました。

（１）草創期の役員

親切会の草創期において、役職を担い親切会発展の礎を築かれた方々は以下の通りです。

＜（敬称略）＞

親切会での役職	氏　名	当時の所属先
顧　問	深田　昌三	第一銀行大阪新町支店長
会　長	吉岡　喜八郎	ダイアマ製菓㈱社長
副会長	樽谷　清一	㈱樽谷商店社長
副会長	増本　勇	共栄電機㈱社長
副会長	土井　泰司	土井産業㈱社長
幹　事	松田　清	東洋鋼業㈱専務取締役
評議員	木村　一郎	東北無煙炭鉱㈱社長
評議員	難波　小夏	一本松教会会長
評議員	吉田　正太郎	㈱吉田鉄工所社長
評議員	馬場　兵吉	日立機電㈱社長
評議員	田所　定真	生長の家立花道場主管
評議員	森田　計雄	第一化成工業㈱常務取締役
評議員	斉田　正雄	斉田病院院長
評議員	引地　淳一郎	朝日商事㈱社長
評議員	八田　幸三	
評議員	池上　清美	第一銀行尼崎支店長
評議員	江里口　常臣	㈱第一コンデンサー製作所社長
会　計	橋本　高一	第一銀行尼崎支店次長
監　査	門脇　耐事	
書記長	馬場　杢太郎	藤原工業㈱顧問

（２） 名誉顧問

各界の錚々たる方々に就任願い、ご指導いただきました。

＜役職：当時、敬称略＞

氏　名	役　職　等
馬場粂夫	㈱日立製作所　顧問
薄井一哉	前尼崎市長
阪本　勝	兵庫県知事
松原與三松	日立造船㈱　相談役
今　東光	作家、中尊寺貫主
岡本富夫	衆議院議員
賀陽邦寿	元皇族
駒井健一郎	㈱日立製作所 相談役
永田亮一	衆議院議員
永田敬生	日立造船㈱　会長
原健三郎	衆議院議員 労働大臣
堀田正行	阪急産業㈱ 相談役
吉山博吉	㈱日立製作所　専務取締役

２．親切会講演会と講演者

以下のような多くの著名人が講演して下さいました。

＜親切会主催講演会と著名講演者（敬称略）＞

開催時期・場所	演　　題	講 演 者	備　　考
1959 年 6 月 第一銀行尼崎支店	一般に知られざる秘話 天皇陛下とマッカーサー元帥	河野三通士	元毎日新聞論説委員
1959 年 10 月 第一銀行尼崎支店	幸福を得る方法と災難を除ける条件	河野三通士	
1960 年 5 月 第一銀行新町支店	河野三通士先生の講演を聞く	河野三通士	（大阪支部第 1 回目）
1960 年 11 月 第一銀行尼崎支店	家裁の窓より 如何にすれば青少年は良くなるか	宇田川潤四郎	神戸家庭裁判所所長
1962 年 8 月 親切会大阪支部	アメリカの旅と感想	河村長治	
1967 年 6 月 尼崎労働会館	事業と奉仕について	早川徳次	早川電機社長
1967 年 8 月 尼崎労働福祉会館	歴史の風雲に想う ―秘められた敗戦史―	賀陽邦寿	元皇族
1968 年 2 月 尼崎労働会館	今　東光講演会	今　東光	中尊寺管長
1970 年 1 月 尼崎労働福祉会館	原、吉倉両女史の講演会	原万利子 吉倉弘子	原健三郎前労相夫人 女子短大・生長の家講師
1971 年 2 月 尼崎労働福祉会館	裏から見たソ連	扇 貞雄	大陸問題研究所神戸支部長、 元中野学校一期生

開催時期・場所	演　　題	講 演 者	備　　考
1977 年 6 月 日立マクセル	無財の七施	馬場兵吉	親切会会長
1978 年 10 月 尼崎商工会議所	20 周年特別講演	高田好胤	薬師寺管長
1979 年 9 月 尼崎市商工会議所	幸福な人生を求めて	菊地藤吉	心理学博士 沖縄総合教育センター理事
1981 年 10 月 尼崎市商工会議所	アマとプロ	内藤国雄	講演者は将棋九段
1984 年 11 月 尼崎市総合文化センター	感謝は世界を変える	吉田武利	新教育者連盟講師
1986 年 8 月 広島日立ファミリーセンター	思春期の心と身体	岡田隆介	広島市児童相談所長
1988 年 10 月 尼崎市総合文化センター	親切会創立 30 周年記念講演 私の道しるべ	狭川宗玄	華厳宗管長・東大寺住職
1988 年 10 月 20 日 尼崎市総合文化センター	長生きするための食生活	久保道徳	近畿大学教授、薬学博士、 北京市衛生局臨床薬学研究所名誉顧問などを歴任
1991 年 8 月 尼崎市総合文化センター	やきものばなし	吉向蕃斎	陶芸家
1991 年 11 月 尼崎市総合文化センター	心豊かに生きる	小池義人	講演者は大本山須磨寺管長 シベリア抑留を体験、兵庫県公安委員長など、藍綬褒章受賞
1992 年 9 月 日立製作所中国支社	父親の為の教育	深田成子	比治山女子短期大学講師
1992 年 10 月 尼崎市総合文化センター	成人病を予防する食べ物と漢方	久保道徳	1988 年に続いて 2 回目
1993 年 10 月 尼崎市総合文化センター	創立 35 周年記念講演会 あなたは自然の声を聞けますか ―自他不二の心―	高木詠元	高野山大学前学長、日本学術会議会員、文学博士
1995 年 12 月 日立製作所中国支社	企業をひらく	菅井直也	鈴峯女子短期大学助教授

以下に講演会の記事の一部を紹介します。

①河野三通士氏の講演会（1960 年 5 月）

親切のつどい　　昭和35年６月１日（水曜日）

河野三通士先生の講演を聞く……

河野三通士先生談

去る五月二十四日午後五時半より大阪支部第一回の講演会が第一銀行新町支店で開催された。講師は已記本部講演会に於て同じ題目で講演した河野三通士先生。来賓者七十余名、初めて先生の講演を聞かれる方も多く非常な感銘を与へて午後七時半終了散会した。河野先生は元大阪毎日新聞の外事部長、英文毎日主筆、国際問題にあられ同時に論説をとらえ鋭を採つて居られたのだが、自分の意見を他に通ずるには筆では十分でない、どうしても小人数のグループに膝を交へて話さねば駄目であるとの信念を抱かれ四十才台にして悟しくもヂャーナリストの地位を去り、以来三年間は世の七十六才の高齢に至るまで主として関西財界人の集りに於て、最新にして最も適確なる国際問題の解説、其他人生問題等の講演をつづけて居られるのである。国際事情通としては現代有数の方でありまして、国際情勢乃いは国際問題に対する分析、判断の公正適確にして最新なること右に出る者無しと云われる程であります。これは先生が今日に於ても尚、午前五時より毎日少く共六時間は新聞外国の各誌、新聞、雑誌等を読破研究せられている結果であります。茲に当日の御講演の大要を紹介いたします。

先生は常日ごろ国際問題から始められた。U2黒いジェット機の問題についても、スパイ行動として非難するけれども、これは第三国の領空に侵入する為偵察機を所有すると云って自由世界を侵略し絶滅せしめる政策にほかならない。米国と雖も国際法上の問題であり、共に自分の国の安全を護るのは当然である。而して現在は世界の七十二国あるのであって、ソ連が侵略するが如く若し地を攻撃すれば米国はこれを米国本土攻撃されたものと同様に考慮する政策になっている。米国はこれを米国本土に対してアルシチブが自ら二年半来主張して来た原子爆弾を放棄しているのである。これは単に口実に過ぎない。真実の原因は国内事情、国内に於ける反対、特に軍部からの反対、中共共産党の反対などの圧力が原因であり、フ首相としてはよき口実を捉えたと言うべきであり、ニクソンの口実によってアチコウシに頼みの綱であったのである。又安保問題に関しては、改正そのものは従来のものに比して遙に進歩的なものである。会世界が日本に独立を与え、平和条約を締結する事に協力して反対し、冷戦を続けるより術がないのである。斯く見て来ると吉、鮫刻の中立なども云うものは有り得ないのであり、平和を維持する為には一定の武力と信れかの即営に属して世界の力の均衡に参加するしか途がないのである。これによって見ると日本は何れの陣営につくべきかと云えば、アメリカの陣営しか自由陣営につくより仕方がないのである。

世界には資本主義、共産主義と云うような大イデイオロギーの大きな流れ、更にナショナリズムの台頭と云うような流れ等色々な流れが入り乱れたのである。

又現在は世界が大家小さくなって来ている。東京―大阪間を一つだまで「つばめ」等が六時間半を以て走っているが、その位の時間で欧米各国間或いは東洋と西洋の英国から武器や軍艦を乗れたのでは、当時の英国を脅迫観念が消えているのでも凡んでもない。ただ、当時の英国は強い国民だが国際情勢を見ることが下手である。だからあの通り亡びたではないか（註、第一次大戦のこと）と言われた程である。

日本が幾も栄え始々として国運が伸びて周囲の時代は日英同盟が存在していた時代であった。これは、このように世界が狭くなっている。

このように世界が狭くなっている。吉田元首相が未だ若い頃、ミスター吉田と言われ、若い人々に会った時、ミスター吉田君はまだ若いしこれから日本の将来の責任を担って行かねばならんが、その為には先ず第一に国際問題によく注意せねばならぬ。

その判断を誤れば国を亡ぼすことになる。あのドイツを見よ、ドイツは強い国民だが国際情勢を見ることが下手である。だからあの通り亡びたではないか（註、第一次大戦のこと）と言われた程である。

講演中の河野三通士先生
――5月24日――

【説明】河野氏は高名なジャーナリスト。特に国際問題に詳しく、本講演会でも、冷戦下の世界の情勢に鑑み我が国は国際情勢に最も注意を払うべきであること、他から親切を受ける際の心構え等、今後日本のとるべき道について解説しています。

②早川電機工業㈱社長早川徳次氏の講演会（1967 年 6 月）

早川徳次氏講演要旨
事業と奉仕に就て

木地繁雄記

私は生涯を親切と感謝で送ってきました。本日は親切会の招きをうけて当地に参りましたが、このような組織があることは誠に結構であり、この善意を社会に大きなひたつたのできます。

三年私が現在の早川電機をはじめたのは信濃川東大震災のあった直後で、東京でやっと縫き付けた事業もこの天災のため、家、工場をすっかり焼かれ無一物になって大阪へやって来ました。元来人様のために何かお役に立つことを念願としている私は、現在の地に居を定めラジオの製造にとりかかりました。其の間誠実と信用をモットーに唯一すじに社会への奉仕をつづけて参りました。

恒実本年「大阪とつの百貨店」の一部を借切ってラジオ・テレビなどの電化製品の展示会を催し、その折の企画として他社にさきがけテレビ製造に着手した当社の事業を紹介し、その当時テレビを買っていただいたお客様の中で第一号の方から順次にカラーテレビを無償贈呈することにしました。これも日頃の御愛顧に報いる意味からでありますが何と百数十人の人達が来られたのでこれは百万人の御

お店から招待を受けて彼の地に参りましたのであります。どうかみなさん善きうけて当地に参りましたが、このような組織があることは誠に結構であり、この善意を社会に大きなひたつたのできます。

その時間もあったので、心から献金させて頂き、親切会返す倶びに金を出しるものであると心よりの貴会の発展を祈るものであります。

私は奉仕を五つの種類に分けております。つまり第一、第二は事業の経営を通じての労力奉仕であります。第三は愛情を通じての奉仕、第四は物納による奉仕であります。第五は親切会に通じるものであります。

この親切会の方々がつづいておられる行動は誠に尊いものであります。

私は、小学校しか出ておらず何等学歴はありませんが、学歴を一応大切ですが、そう方よりも実績を重く視ております。世の中に迎えると理くつも必要だが理論と相まった新鮮は貴重なものであります。絶えず研究を重ね尊い実績に基ものこそ物事の成就する鍵でもあります。

本日奇しくもみなさんの前で話をする機会を得まして今私の信条を述べたわけでございますが、こういった親切会のような善き人の心のつながりこそ致福繁栄の源

この講演は通日（六月二十九日）尼崎労働会館に早川電機社長早川徳次氏をお迎えして早川氏を囲む講演会を催したときの講演要旨であります。同氏は現在七十三才（？）で大阪府安委員長、仲十指に余る肩書を持ち今尚かくしゃくとして自分の事業を通して社会奉仕に東奔西走、誠に寝食を忘れての御活躍であります。当日も御多忙の中を無理なスケジュールをくんでいただき貴重な時間を御開催集まり感謝深いものがありました。

◇　◇　◇

講演会に事よせて

会長　高橋輝嘉

六月二十九日早川電機の社長が親切会の為に、一杯に詰つたスケジュール中を特に御愛顧して有難なる御講演をして下さったことは心から感謝している所です。

其節の講演中で、奉仕の分析の御話しがあったのですが、それを聞いていまして反省されました。

ことは、今迄当会が物質的奉仕は協賛援助通して来たが、愛情の奉仕という面は果して十分であったかどうかと言うことであります。

又翌一当日の評議員会では座談会的な雰囲気で色々な意見が出た中、家講師沢田昌三氏が共鳴して初代最近の親切会は発足時の一宗一派とか政党とか片寄らないよう場の馬場宗太郎氏が事務局長に就

六月二十九日早川電機の社長がうに区をつけようと言う議論があったのだが、近頃は少々破られているのは少々偏見ある。然し皆様から気にすまい気にすまいと言う結論が出たのであつたが、梨下に冠を正すのたとえもあり大いに自戒の必要があると思ったのである。

御承知の如く本会は皇太子殿下の御成婚を記念して発足したもので、最初は法華経道場である一本松教会会長の灘波小夏氏が発起し当時第一銀行尼崎支店長で是の家講師沢田昌三氏が共鳴して初代会長となり、生長の家たちはた道派とか政党とか片寄らない

講演中の早川徳次氏

【説明】早川氏は早川電機（現シャープ）の創業者。
　奉仕について話をされています。奉仕は物納だけでなく、愛情を通しての奉仕であると説かれ、それは親切会の活動にも通じるものだと述べられました。

③賀陽邦寿氏の講演（1967 年 8 月）

秘められた日本の敗戦史!!

「歴史の風雲にう」

元皇族　賀陽邦寿氏講演会　要旨

あれから二十一年、今更何をかいらんやであるが、この敗戦の事実性を知らしめて、再びこのようなことを繰り返さないようにと我等子孫に語り伝え、歴史の強く訴える責任がある。

そこで親切会では、八月二五日午後二時より元皇族賀陽邦寿氏を尼崎市労働福祉会館にお迎えして講演会を開催した。以下は当日の講演の概要である。

私（賀陽氏）は、終戦当時は、若冠二十一才の青年将校（陸軍大尉）として南方に駐在していました。今当時を追憶して想うことは真実は一つしかないということであります。私は、あくまでも、真相を語り、みなさんと共に一日本人として平和への道を歩みたいと思います。

敗色濃い昭和二十年八月一日私は陸軍大臣阿南大将に招かれました。大将は、私の陸軍幼年学校の生徒監であり、同校々長でもあったからです。既に敗戦を予期した大将は、私に特に生命の尊重性と次代を背負う者は君達であることを縷々と説かれたのであります。

たまたま当時の総理大臣は鈴木貫太郎陸軍大将であり、日本の将来を決定する重大な役職にあったわけですが、この大将は、かつての二・二六事件には、侍従武官長で私の邸の向かい側におられ、叛乱軍に襲われたのであります。けれども同夫人の「武士の情……」の一言で危く青年将校安藤大尉の一刃を免かれたということであります。それから十数年後敗戦を前に歴史の中の人物として日本の興亡を双肩に担おうとは誰が予測したことでしょう。このことについて私は今も運命の重大性を痛感するわけでございます。

←右より高橋会長　賀陽邦寿氏　吉田亀太郎氏

←午餐会場の一部

【説明】賀陽（かや）氏は元皇族。
終戦時の体験談を話された。祖国への愛国心の大切さと、わが国は再び戦争の過ちをすることなく、平和の道を歩むべきと述べられました。

④今　東光氏の講演（1968 年 2 月）

今東光さん講演会

盛況裡に終る

二月七日午後労働福祉会館にて

昭和四十三年第一回の講演会はよく前市長薄井一哉氏も来会され二時半講演会開始までの間、両氏衆を大いに笑わせ、先生も会場の雰囲気に釣られてか先生の講演とどなたか人気のある方にお願いしたいものとかねがね念願していた中心に、今先生の参議員立候補に至るまでの異話しなどで、何時とこころ、評議員の柳楽喜治氏の御尽力により遂い今東光先生を迎えにない暖かな評議員会となった。ることが出来た。当日は丁度午後一時から評議員会を併せ行う予定にして、労働会館二階の会議室に分許り開会を遅らせ、会衆待兼ねの打合せが行われた。その会議が終る頃今先生が到着せられた。折が例によって毒気のない毒舌で聴しては例のない程長く約一時間二十分に及んだ。時に午後四時半、聞く者に色々の感銘を与えながら大盛況裡に終了、引きつづいて懇親会場同席観光へ今先生、薄井前市長、中林県議等を加えて評議員一同出かけたのであった。

懇親会の盛況

二月七日夕国際観光にて

午後二時半の今東光氏の講演会終了後、直ちに今先生及来賓と評議員の一行は懇親会場である阪神尼崎駅より阪神西に入った中央商店街に新設成ったばかりの国際観光の宴会場へと出かけた。懇親会は今先生を始め、前薄井市長、中林県議等の臨席を得て従来以上の盛況、同店の特別サービスに加えて、アルコールのまわる程に主客共に益々気炎があがり実に和気あいあいたるものが漂った。万国博を機に親切会を大いに国内は勿論、海外にまでPRして、善意の同志を募ろうと言う意見に全員賛成し今先生は言葉かかった中尊寺金色堂の模型を文部省には貸さぬが親切会の方だったら貸すが、わけの分らぬ浪人には、貸すもんか。

宴酣の頃今先生を中心に一同記念撮影をし、午後七時二十分大盛会裡に終了した。

おる。官尊民卑の お役所仕事が今でも横行しているとは情けない。ところがてめえ等頃何といっても、百国博には、是非とも出品したいから貸してくれるかというと、百国博には、是非とも出品したいからといっておる。何たるためだと、余の虫がよすぎてはないか。

（二）「憎まれ者世にはびこる」ということ

私の母は、八十余才で天寿を全うしたが、この母にまつわる話をしてみよう。その前に私の父について申上げると父は、実に頑冥なる。いっまでたっても親は親息子の私達をまだ小さい子供だと思っている。息がよほどよなのにふの切って家を飛び出すという強情さであった。こんな母ではあったが今遺族の我々が、鶏のついでに出るのは、母のことばかりであればどさんさん痛めつけられていながらと思ったこともあるがわたしの憎まれ口もこんな調子で末長く残るそうだ。憎まれると忘られないから得だ。だから私もせいぜい憎まれ口をたたくつもりだ。

（三）親切とは、与えることなり

（四）弟の嫁の七回忌のこと

無信心というのが弟は自分の家内が死んでもその祀りを感かにしているという状態であった。ふとしたことで在京中恰度その七回忌に巡り合わせたので、私はその御仏前で読経して、口寳塔をお祈りしたわけである。恰度時刻は、夜だったが私が読経を勧めるとその途端パッと冷電した。勿論弟の家だけではない。何気なく読経をつづけたが、終わると同時に待っていましたといわんばかりに電灯がついた。東京では、こんなことはなかなか珍しいことだそうだが、

↑　前列左より…薄井前尼崎市長、今東光先生、中林英夫県議
後列左より…深田本会常任顧問、高橋会長、山村評議員

【説明】今東光氏は高名な作家であり、当時、中尊寺管長の要職にありました。
　講演は中尊寺の再建から世界情勢にまで及びました。忠臣蔵では悪役とされた吉良上野介が、実は国許では庶民に与える親切で善政を施した良君であったことを挙げ、親切とは与えることなりと話されました。

⑤創設２０周年記念式典での髙田好胤氏の講演（1978 年 10 月）

高田好胤さんの
記念講演速記（一）

去る十月二十一日の本会二十周年記念式典において薬師寺管長高田好胤師に記念講演をお願い致しました。以下はその速記で、今後数回に分割掲載の予定です。

――講　演――

片寄らない心、こだわらない心、とらわれない心、広くもっと広く、これが般若心経空の心なり。

本日は私一時半と聞いておりましたので、一時十五分頃に参りました。今か今かといささか待ちくたびれましたが、ようやっと登壇が許されまして（笑）、時計を見ましたら、予定からすると、ぼちぼち話が終わり頃に来ておるところでございます（笑）。

で、今日は親切会。「親切を人にも物にも仕事にも」今日の記念の式典で話をさせてやるからと、それこそほんとうにご親切にも、お誘いを頂きまして（笑）、出かけてまいったのでありますけれども、こちらへ参りまして、ふと見ると「親切を人にも物にも仕事にも」というように書いてございます。

よくひと頃言われましたことは、物がないとか心がないと言います。もちろん私にそういうことを尋ねられるということは、私、心がないんだろう、私に言わそう、あるいはそう言うであろうという期待で、聞かれる方がございます。けれども物を大事にする人は、また心を大事にする人であります。そして心を大事にする人が、物を大事にする人でありますが、おれは物を大事にするけれども、心は大事にせんのやということは、やっぱり得ないことでございます。やっぱり物を大事にするという、そういう心の養いがある人は、つまり物を大事にする人であります。

物を大事にするからこそ物を大事にする。こういうことが言うなれば、般若心経が説くところの色即是空ということであります。般若心経は色即是空を説く教えであるということを言われておりますが、この色というのは目に見える物の世界であります。色という字は、目に見える物の世界。これを仏教ではその色という字を書きますね。色というと色彩、カラーというような意味に、思われる節がございますけれども、印度のルーバーという言葉を訳したのがいろ・色であります。ルーバーというのは目に見える物の世界、これがルーバーであります。

それから、空というのは、空という字を書いて空ですね。この空というのは印度の言葉ではシンニャと申しまして、これは数学の零という意味も含めているようでありますが、目に見えない心の世界、これがシンニャ、空であります。即というのは即・即というのは単位を変えないで、そのままでということであります。それは目に見える物の世界と、目に見えない心の世界が調和する、これが色即是空であります。

また、色即是空を色空一如、空と心は一つなんだというように、色空一如とも言われております。

ですから、私これは最近聞いた話でありますけれども、先般山梨県に山梨市という町があります。山梨県の県庁の所在地は甲府であります。その隣りの山梨市の町に参りまして、お話をしたんですけれども、私のかわいい娘のむことのか、東京でお医者さんをしておりますの。そのお医者さんをしているむことのが、アラスカ、そういうところまで出向いて行って、鉄砲を打って猟を楽しんでおります。それが私はとても辛らいんだと、可愛いいむことのに、無理に止めることもできないし、心を痛めておりますということを言われました。

そうしたら、それから半月ほど前に聞いたのは、自分が今縁談があるけれども、その相手の人はお医者さんだけれども、この頃はお医者さんは金回りが非常によくございまして、そしてその話のあるお医者さんが、鉄砲打ちが好きで、外国までこの鉄砲を打ちに行くという話を聞いて、ちょっと性格が派手すぎるんで、今考えているんだということを聞いたのであります。この一月ほどの間に、二つのそういう話があった。たまたまそれは重なったのかもしれませんが、私は武見医師会会長の発言などを通して、このお医者さんというのは、人の生命を大事にするものだ、医は仁術と言います、またそれでなければならないのであります。

【説明】髙田後胤氏は薬師寺管長。
　どんなに豊かな物に恵まれ欲望に満たされていても、ありがたい、おかげだ、もったいないと常に他者に喜び感謝する心を養うことが何より大切なことであると話されました。

⑥将棋九段、内藤国雄氏の講演（1981 年 10 月）

〔講演速記録〕

アマとプロ

将棋九段　内藤国雄氏講演

昭和五十六年十月二十三日
於　尼崎市商工会議所

はじめまして、私内藤国雄でございます。

今年の六月から七月にかけてだったと思うんですけれども、ＮＨＫで将棋のプロの三段を主人公にいたしました「煙が目にしみる」というドラマ。これは連続二〇回放送されました。あの放送をごらんになった方はご存じだろうと思うんですけれども、将棋のプロというのは社団法人日本将棋連盟という団体に所属いたしまして、四段以上の者のことを言うわけなんです。現在四段以上のプロ、つまり正式の将棋のプロというのは全国で一〇六名でございまして、日本中で一〇六名、まぁ数が少ないでしょうか、私はこれまでいろんな所で「内藤さんはどういうきっかけで将棋を覚えて、この道に入ったんですか」と聞かれてまいりましたので、初めにそういった話から入らせていただきます。そして、その後多少芸能界の話なんかもさせていただこう、こういうふうに考えております。

私が、将棋を覚えたのは丁度一〇才のときでありまして、家には将棋好きの兄が三人おりまして、学校から帰りますと、もうほとんど毎日のようにそれは楽しそうに将棋をさして兄たちが遊んでいたわけなんです。あまりに楽しそうに遊んでいるものですから、私もちょいちょいとそれをのぞき見るようになりまして、横で見ていて将棋のルールを全部覚えたんです。一番小さな駒は歩といって、一つしか動けない弱い駒だ。飛車というのは一番強いんだ、だけど大切にしなければいけないのは王さまだ。そういったふうに、兄たちの勝負を見ていて覚えたんですけれども、ルールは覚えましたが、初めの間はどうもそういった勝負ごとには、あまり関心がわきませんで、私はもっぱら家におりますときは犬とか猫とか鶏とか、そういった動物を相手に、一人で遊ぶことが多かったんです。中でも鶏が大好きでありまして、大きくなったらぜひ鶏を沢山飼って、養鶏場のおやじさんになりたいな、養鶏場を持つというのが私の子供の頃の夢だったんです。それが一三歳の中学一年生の夏休みのある日、神戸三宮の繁華街を歩いておりまして、偶然王将と書かれた大きな看板を見つけたんです。その看板を見つけたことが、そもそも私が将棋界入りをするきっかけとなったんですが、看板をよく見てみますと、将棋道場と書いてありまして、盤とか駒を売っておる所かなと思ったら、そうじゃございません。家に帰ってその話をいたしますと、兄たちが大いにハッスルをいたしまして「ようし、そういう所があるんなら一回他流試合をしてみたいな。国雄もいっしょについて来い」こう言われまして、私は二人の兄に連れられて、一番うしろから小さくなって、こそこそと、かくれるように、その将棋道場の所へ入っていったわけなんです。中に入りますと、煙草の煙がもうもうと立ちこめておりまして、大人のおじさん達が黙々と将棋盤を睨んでいるんです。誰一人として、しゃべる人もいない。聞こえてくるのはピシッ、ピシッという駒の音だけでありまして、非常に緊迫した雰囲気なんです。もう私はその雰囲気にすっかり呑まれてしまいまして、今日は自分は将棋をやらんとこ、家で兄たちがずいぶん強そうなことを言って威張っておるけれども、その兄の手が空いているから、そのおじさんとやってもらいなさい。そのおじさんは、身体は大きいけども、ここで将棋の一番弱い人やで」こういう風に言われました。で、私が言われる通り、そのおじさんの前へ行きまして、ペコンと頭を下げまして、「お願いします。」まあ、駒を並べ始めたんですが、やれやれこのおじさんかわいそうになぁ、ここで一番将棋が弱いとはっきり言われてしもうて。然し、それにしても、あの奥のおじいさんは物事を遠慮せんとずけずけ言う人やな、そんなことを思いながら、生まれて初めての他流試合の開始となったわけであります。

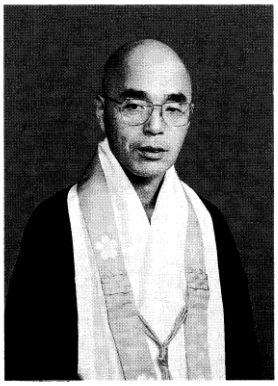
ところが、情けないことに、たまに兄たちと対戦をしますと、いい手で困らしてやるのに、他流試合の緊張感から、もう指がぶるぶる震えてとになるのか、兄たちの戦いぶりだけを見て帰ろう、こう言う風に思いまして、観戦していたわけなんです。

暫くしますと、突然奥の方から大きな声で話しかけられたんです。「その横で将棋見とる小さな坊ん、ぼんの子供の頃の夢だったんです。それ調子で声がかかりました。その声のほうを見ますと、白髪のおじいさんが脊中をピンと伸ばして、実に行儀よく坐っておられまして、そのおじいさんはあとでわかったんですけれども、歌や芝居で有名な阪田三吉王将のお弟子さんでありまして、名前が偶然、内藤のさかさまの藤内先生というプロの方でありまして、そこで私が小さな声で「はい。将棋を知っています。」こう返事をしますと、「そうか、そらよかった、そんならな、その入口に坐っておるおじさんの手が空いているから、そのおじさんとやってもらいなさい。そのおじさんは、身体は大きいけども、ここで将棋の一番弱い人やで」こういう風に言われました。で、私が言われる通り、そのおじさんの前へ行きまして、ペコンと頭を下げまして、「お願いします。」まあ、駒を並べ始めたんですが、やれやれこのおじさんかわいそうになぁ、ここで一番将棋が弱いとはっきり言われてしもうて。然し、それにしても、あの奥のおじいさんは物事を遠慮せんとずけずけ言う人やな、そんなことを思いながら、生まれて初めての他流試合の開始となったわけであります。

ところが、情けないことに、たまに兄たちと対戦をしますと、いい手で困らしてやるのに、他流試合の緊張感から、もう指がぶるぶる震えて

【説明】内藤国雄氏は将棋棋士。
　氏の年少期からの将棋との長いかかわりを話されました。九段のタイトルの懸った対戦での勝因は、棋界を志した初心に帰り、相手に教わるつもりで対戦を楽しもうとした心の持ち方にあったと勝負を通しての経験等を話されました。

⑦小池義人師の講演会（1991 年 11 月）



親切会講演会

大本山
須磨寺管長　小池義人師

『心豊かに生きる』

昨年十一月十一日(月)尼崎市総合文化センターミニホールにてご講演頂いたものですが、この住み難い世の中に如何に生きたらよいかを、シベリア抑留という極限のご体験も踏まえて、諄々と、且つユーモアを混えて、約二時間近くご講演頂いたもので、聴衆皆深い感銘を覚えて噴々の好評でございました。

ここに当日の速記から特集号として皆様のお手元にお配り致します。是非ご高覧、日常のご生活に活用して頂きますようお願い致します。

本日は、お集まりご苦労さまでございます。本日の私の演題は「心豊かに生きる」、なかなか結構な演題をつけているのですが、最初に、私自身が到底心豊かにはなれなかった情けない話から始めさせていただきたいと思います。

実はかれこれ二年ほど前になりますが、私どもの寺でそれまであった電話機を全部最新式の電話機と取りかえました。最新式といいましても、そうびっくり仰天するほどのものでもありませんで、近ごろは皆さん方のご家庭にもざらにあると思いますし、こういう会館や会社などではもはや常識だと思える程度の電話機です。とにかく、この新しい電話機にはコンピュータを組み込んでありますので、古い電話機と違って随分便利で、随分複雑な使い方ができるんだそうでございます。そういう電話機と全部取りかえました。

取りかえ工事が終わりましたときに、地元の電話局から係の人がやってきまして、新しい電話機の使い方の説明をしてくれました。私ども寺のものが皆集まりまして、その方の説明を聞きました。その方がまずおっしゃいますのには、「外から電話がかかってきたときにはリンリンとベルが鳴りますから、受話器をとってしゃべってください。こちらから外へ電話をかけたいときには、受話器をとって相手の番号を押してしゃべってください。ここまでは古い電話機と全然変わりません」、こう言いまして、「これから先の詳しい説明は若い方によくしておきますから、管長さんやお年の人はどうぞあちらの方へ」、こう言うのです。

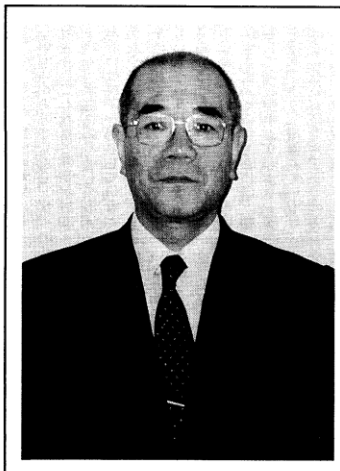
たまたま私、そのときは体が空いていたものですから、「せっかくだからついでに私も一緒に聞かせてもらう」と言ったのです。そうしたらその電話局の人が、「これから先の説明は、お年寄りがお聞きになったらかえってややこしくなって、何が何やら分からなくなりますから、お聞きにならんほうがいいと思いますよ」、こうヌカシクサッタ。(笑)。ちょっとムカッと腹が立ちました。腹は立ったんですけれども、半分ぐらいは「そうかもしれんな」とうなずくところもあったことはあったのでございます。

と申しますのは、これは皆さん方のご家庭でも同様かと思いますが、私どもの寺のような古くさいところにも、近ごろは次から次へと新しい機械が増えまして、そのたびに私ども年寄りは、その機械をどうやって使ったらいいのかよく分からない、まごまさせられることがしょっちゅうであります。たまにはたまりかねて例の取扱説明書というものを引っ張り出して読んでみるのですが、これもまた、中にカタカナがいっぱい書いてありまして何のことかさっぱり分からない。結局説明が読み取れないことがざらにあるのです。結局せっかくの新しい機械がありながら使いこなせない、そういう

【説明】小池氏は須磨寺管長。著書に「滅びの美『敦盛』―須磨・一の谷・須磨寺」など。須磨寺は敦盛首塚、義経腰掛の松など多数の史跡がある。

シベリア抑留の体験も紹介しながら、人間社会において人は決して一人で対処して生きているわけではない、必ず人の世話になって生きているのだから、感謝の眼鏡をかけて世の中を見直せば生き生きと豊かに人生を送ることができると話されました。

⑧創立 35 周年記念、高木諱元氏の講演（1993 年 10 月）



創立35周年記念講演会

高野山大学前学長
日本学術会議会員　文学博士　高木諱元先生

『あなたは自然の声を聞けますか』

副題「自他不二の心」

昨年十月二十八日(木)尼崎市総合文化センターミニホールにてご講演頂いたものですが、環境破壊の問題、自己中心主義、縁起といった諸々の問題をユーモアを交えて、極めて明解に、且諄々と説かれ、満場の聴衆に深い感銘を与え、誠に好評でございました。

ここに当日の速記から編集し、特別号として皆様のお手元にお届けいたします。

是非、熟読・玩味下さいますようお願い申し上げます。

ただいまご紹介いただきました高木と申します。

本当はもっといい声をしているのですが、二十五日から昨日まで、京都のあるところで講義を依頼されまして、朝八時から夕方五時まで、三日間ぶっ通しで話をさせられたわけです。もちろん昼食時は休みますけれども、そんなに話をしたのは今回が初めての経験でして、そのせいか、昨日あたりから声が出なくなってしまいました。本日は、こういう名誉ある会合にお招きをいただきましたのに、こんなぶざまな声でまことに申しわけありません。

顔はどうしようもないのです。これは治せません(笑)。天は二物を与えずということで、私、声はよかったんですよ笑。ところが、怨念がどこからか迷い込んできたのか、声が出ない。恐らくこれは、「きょうの会合は、君は心してしゃべれよ。あまり言いたいことを言うなよ」という天の声であろうかと思います(笑)。

とは言いましても、私は大変癖が悪うございまして、随分早くからこの会合のことをご依頼されておりましたので、準備をしたり、資料等々もお渡しすれば、より一層ご理解いただけたかも分からないのですが、全くそういう準備もしてまいりませんでした。一体話がどっちへ向いていくのか、私自身いまだに分かっていません。だから、最初から「何かをしゃべるだろう」という程度で、ひとつお気楽にお聞き願いたいと思います。でないと、一時間半か二時間後に、「なんだ、あいつは」ということになって、期待が大きければ大きいほど失望が大きくなります。それほど大きな期待があるとは私には思えませんが、ひとつお気楽におつきあいを願いたいと思います。

もう一つは、先ほど時間をお聞きしたら三時までということでしたので、一時間ちょっとしかありません。私は、一時間で話をしろと言われると一時間半、二時間と言われると二時間半くらいかかって、まだ話が終わっていないのを無理やりに詰めてしまうという悪い癖がございます。本日も一体どうなりますか、甚だ心もとない思いであります。

さて、本題に入ります。

実は、分かったような分からんような題を出しておきました。「あなたは自然の声を聞けますか」、朝日新聞に天声人語というコラム欄がございますけれども、あれなどは本当に天の声が聞こえているのかなと、私には疑わしゅう思います。我々にとって今最も大事なことは何であろうかと考えた場合、私どもが自然の声をもう一度聞く努力をしなければ、すべてがだめになってしまうのではないかと私には思われたものですから、「あなたは」と非常に高飛車に言っておりますけれども、実は私自身に問いかけている問題でもあるわけです。それだけでは分かりませんか

【説明】高木諱元（しんげん）氏は元高野山大学学長で「空海」の研究者。

仏教の考え方を解説しながら、私たち人類は、おのれと他の人が対立的にあるのではなく、命を共にしているのだとの本源に立ち返り、慈善、親切を行わねばならないと話されました。

３．寄稿者

「親切のつどい」・「親切だより」には、大変多くの方々に寄稿いただきました。中には２００回を超える長期連載もあり、親切会の広報活動を支援いただきました。

＜3年以上にわたり10回以上寄稿いただいた方々（敬称略）＞

開始年	回数	寄稿者	備　　考
1959	33	馬場兵吉	親切会会長
1959	239	馬場杢太郎	親切会初代事務局長
1959	26	谷口雅春	
1960	51	杉江重誠	
1960	12	中島　進	桃谷順天館社員
1961	17	中谷美恵喜	吉田鉄工所社員
1962	158	吉田亀太郎	音羽電機工業㈱社長
1962	41	永井まさる	
1962	92	酒井一郎	ダイアマ製菓
1964	48	尼崎市	
1968	33	馬場粂夫	名誉会員
1968	45	引地淳一郎	朝日商事（挿絵）
1969	91	遠藤仁郎	医師
1969	17	賀陽邦寿	元皇族、名誉会員
1969	79	古河　滋	
1969	35	松田安輝	尼崎市会議員
1969	11	大久保鹿弌	尼崎市会議員
1969	14	北川欣一	
1970	72	菊地藤吉	心理学博士
1970	72	小宮義和	
1972	43	大塚邦松	医師
1973	177	安村慶次郎	
1974	51	平山説三	
1974	52	小平哲三	
1974	14	三浦倫義	
1975	18	佐川一雄	
1978	65	森野道男	マルホ製薬嘱託
1978	45	西村睦子	
1979	19	吉居一朗	
1979	19	在間秀夫	税理士
1980	56	栄川宗吉	栄川木材
1983	68	高間浜子	
1983	57	竹本和子	
1984	58	泉千吉郎	
1984	112	岩松茂輔	
1986	63	江尻尚人	
1987	111	毛利銓一	
1987	25	田中紀子	
1987	264	しばたたっせい	マンガ家
1988	12	臼井　全	
1990	105	雪郎	

開始年	回数	寄稿者	備　考
1990	118	山路賢吉	
1990	70	今村好信	
1995	51	山下悦郎	
1996	46	山本景彦	
2001	108	口と足で描く芸術家協会	
2001	59	大野正利	小さな親切運動
2009	21	稲場圭信	大阪大学大学院准教授

以下に「親切のつどい」・「親切だより」に掲載された寄稿の例を掲げます。

1983 年 11 月 15 日第 246 号

折にふれて（214 回）

所　変　れ　ば

馬　場　杢太郎

所変れば品変るという諺があるが、先日「大法輪」を読んでいたら「ひろ　さちや」という評論家が二つの諺の解釈が時と所によって大変違っているのに驚いておられた。私も同様に大いに驚いて滅多に格言も利用出来ないなと思ったことである。
その一つはこうである。「転石、苔を生ぜず」この格言は高校あたりの英語の教科書によく出ている。 "A rolling stone gathers no moss"を訳したものだが、私達は、これを度々職を変えたりして腰が落ち着かないと世間から信用されないの意味に使っている。ところがアメリカではこれが正反対の意味に解されているのだそうである。つまり活溌に動いている人には錆がつかない。じっと一か所に安定した位置に甘んじていると世間から取残され、時代遅れになってしまうという意味に解しているのだそうである。如何にもアメリカ人らしい解釈である。更に驚いたことには小学館のことわざ大辞典にまでこのように解説して、私達の信じて来た解釈の方は「又一説には」として軽く付帯的に扱っているとのことである。もう一つは、「情けは人のためならず」である。私達はこれを、人に情けをかけておくと、いつか廻り廻って自分もまた、人から情けを受けることがあるという意味にとっているが、近頃の若者達はそうはとらないそうである。これも全く反対の意味、即ちなまじ人に情けをかけると、その人は自分で物事を解決しようとせず他人に甘え、結局依頼心の強い人間に育てることになるからその人のためにならない、と解するそうである。三百人の若者に試験問題に出した所、８０パーセントの者がこのように答え、僅か２０パーセントの者だけが、私達と同じ解釈をしていたというのである。これは私達の常識には仏教の因果の法則が這入っているが、その影響の薄れている若者は、廻り廻って自分に返ってくるなんて保証はどこにもないと合理的にのみ考えるからであろう。
私はすっかり狼狽した。というのはいつぞや、親切に適当な格言としてこれを引用

した文を載せたことがあるからである。それを読んだ若い読者の８０パーセントが人に情けをかけてはいけないと当会が教えていると受取っていたなら大変だと全く冷汗を覚えたのである。これでは恐くて余程気をつけないと物が書けない。１０月号に載せた論語の文句の「己の欲せざる処人に施こすこと勿れ」だって、時代が変れば、自分に不用の物だって人に与えてはいけない。いつかきっと価値が出たり役に立つときがあるからと解釈するようになるかも知れない。大体道徳それ自体が時代だけでなく、その時の人々の都合で変る事がある。例えば、節約は美徳とされてきたが、物が豊富になると更に生産を増加させて繁栄を増進させる為には使い捨てが美徳、節約は悪徳とされたりもする。高度成長時代がそうであった。

―　中　略　―

では、一体我々は何を基準にして生きればよいのだろうか。未来永劫に亘って変らぬ拠り所はないものだろうか。どうやら思いやりとか親切だけは人類の存する限り美徳として残りそうであると思うのだが、どや。

（本会事務局長）

第246号　親切のつどい　昭和58年11月15日（火）　(6)

折にふれて（二一四回）

所変れば

馬場　杢太郎

所変れば品変るという諺があるが先日「大法輪」を読んでいたら「ひろ　さちや」という評論家が二つの諺の解釈が時と所によって大変違っているのに驚いていられた。私も同様に大いに驚いて滅多に格言も利用出来ないなぁと思ったことである。

その一つはこうである。

「転石、苔を生ぜず」この格言は高校あたりの英語の教科書によく出ている"A rolling stone gathers no moss"を訳したものだが、私達はこれを度々職を変えたりして腰が落ち着かないと世間から信用されないの意味に使っている。

ところがアメリカではこれが正反対の意味に解されているのだそうである。つまり活潑に動いている人には錆がつかない。じっと一と所に安定した位置に甘んじていると世間から取残され時代遅れになってしまうという意味に解しているのだそうである。如何にもアメリカ人らしい解釈である。更に驚いたことには小学館のことわざ大辞典にまでこのように解説して、私達の信じて来た解釈の方は「又一説には」として軽く付帯的に扱っているとのことである。

もう一つは「情けは人のためならず」である。私達はこれを、人に情けをかけておくと、いつか廻り廻って自分も亦、人から情けを受けることがあるという意味にとっているが、近頃の若者達はそうはとらないそうである。これも全く反対の意味、即ちなまじ人に情けをかけると、その人は自分で物事を解決しようとせず他人に甘え、結局依頼心の強い人間に育てることになるから、その人のためにならないと解するそうである。三百人の若者に試験問題に出した所、八〇パーセントの者がこのように答え、僅か二〇パーセントの者だけが、私達と同じ解釈をしていたというのである。これは私達の常識には仏教の因果の法則が這入っているが、その影響の薄れている若者は、廻り廻って自分に返ってくるなんて保証はどこにもないと合理的にのみ考えるからであろう。

私はすっかり狼狽した。というのはいつぞや、親切に適当な格言としてこれを引用した文を載せたことがあるからである。それを読んだ若い読者の八〇パーセントが人に情けをかけてはいけないと当会が教えていると受取っていたなら大変だと全く冷汗を覚えたのである。

これでは恐くて余程気をつけないと物が書けない。十月号に載せた論語の文句の「己の欲せざる処人に施こすこと勿れ」だって、時代が変れば、自分に不用の物だって人に与えてはいけない。いつかきっと価値が出たり役に立つときがあるからと解釈するようになるかも知れない。大体道徳それ自体が時代だけでなく、その時の人々の都合で変る事がある。例えば、節約は美徳とされてきたが物が豊富になると更に生産を増加させて繁栄を増進させる為には使い捨てが美徳、節約は悪徳とされたりも

1983年9月15日第244号

奉仕の生活

音羽電機工業㈱会長
吉田亀太郎

労働福祉事業団関西労災病院は尼崎市西北端に所在して、国立公園六甲山麓に続く武庫川畔にあって、老松の続く堤が窓外に眺められる景勝の地にあります。

昭和 28 年 7 月にいまだ世間は混迷の時期に開院されたもので、当時は病院の規模は50 床でありましたが、その後第 2 次、第 3 次と拡張増設されて現在では鉄筋コンクリートの立派な 656 床という大総合病院となって社会福祉のため日夜奉仕されております。

また、「看護専門学校」「検査大学校」を併設されて白衣の天使を次々世におくられ、精緻な科学機械設備を駆使して細菌血液などの検査研究を怠らず精進されておる姿には医業の崇高さを今更に感じさせられております。

長く続く広い病院内の廊下に、黄・赤・青などの線が太く引かれて、例えば、北病棟に行くのには黄色の線に沿って行けば迷わずに行けるようにしるされており、廊下の曲がり角の上には必ず各科や病棟などが廊下にしるされた線の色と同じ色で書かれており、はじめて病院に入った人も、上・下を眺めながら迷わずに目的の場所まで行けるように親切に施されていたのに驚きました。

その北病棟の病室に妻が入院することとなりました。3 年前に歩行中に足をこじらして痛み出したり、水がたまったりはっきりせずに、その都度医師に診てもらってはおりましたが、縁あって診察を受けることになり、親切な診断の結果、入院することとなり、手術前後あわせて丁度一ヶ月入院いたしました。従って私もこの廊下の黄色い線を通って北病棟の個室へ妻の様子を見舞い、かつ看視かたがた毎日のように出向きました。

その病室の前は 6 病室の部屋でこうした部屋が 3 つ並んでおります。
私が行くたびに妻は前の部屋の付き添い婦の人のかいがいしいふるまいと患者に対する世話の仕方の親切なふるまいをほめちぎっておりました。その後は私も注意してその付き添い婦のふるまいを眺めておりましたが、みずからを捨てて患者のために誠心誠意親切をつくした世話のあり方をちらりちらりと眺めてきました。

例えば、夜は締め切った窓を朝 5 時半頃におきて朝の空気を病室内に入れ替えてあげるとき、その入れ方も一度に窓を開けては空気の急変に患者に障りがあってはと、少しずつ空気の変わり方を穏やかに全開まで手数をかけるなどこまごまとした気配りの所作。

寝たままの患者には体をふいてあげねばならず、そんな時にはタオルを克明にゆすぎ、ゆすいで手足、背中、手の指一本一本も丁寧にふいてあげ、足の裏まで丁寧にふいておられる姿は患者も満足気にホッと一息する気分のよさそうな姿を眺めて回復への速度がつくことだろうとチラリと患者さんの顔と、早くよくなってちょうだい、という祈りのこもった付き添い婦に何か光っておるように私には感じました。

交通事故などで突然の入院生活、若い人に多いこれからの人生、煩悶憂うつ、時には家庭の破滅など考えさせられることの多いのも当然ながら、そうした患者さんには、かいがいしい世話が患者に元気をつける一助ともなり、時には「元気を出して」としかるように声をかけて励ましておる場面もありました。

ご本人は当たり前のことをしておるだけで書かれるようなことは少しもありません。ただ下の世話だけは殊更清潔にしておりますとさりげなく謙虚に話される程、この人の人柄の気高さを感じさされます。

名はＭさんで、昭和 3 年と云われましたから当年 55 才の方とわかりました。病院に寝とまりの勤めでなかなか休みも取らない方で、正月にも患者がおられるかぎりは休まず病院に出ておられると看護婦次長さんの話しであります。某看護婦会の派遣婦として勤めておられる方で、病院とは雇用関係はないとは云え、病院には大切な人であろうと想像されます。12 年間も変わらず、こうしたかいがいしく働き続けられることは健康でなければ出来ないことでしょう。

奉仕の生活

吉田　亀太郎

労働福祉事業団関西労災病院は尼崎市西北端に所在して、国立公園六甲山麓に続く武庫川畔にあって、老松の続く堤が窓外に眺められる景勝の地にあります。

昭和二八年七月にいまだ世間は混迷の時期に開院されたもので当時は病院の規模は五十病床でありましたがその後第二次、第三次と拡張増設されて現在では鉄筋コンクリートの立派な六五六床と云う大総合病院となって社会福祉のため日夜奉仕されております。

なお「看護専門学校」「検査大学校」等を併設されて、白衣の天使を次々世におくられ、精緻な科学機械設備を駆使して細菌血液等の検査研究をおこたらず精進されておる姿には医業の崇高さを今更に感じさせられております。

長く続く広い病院内の廊下に、黄赤、緑などの線が太く引かれて、例えば、北病棟に行くのには黄色の線に沿って行けば迷わずに行けるようにしるされており、廊下のまがり角の上には必ず各科や病棟などが廊下にしるされた線の色と同じ色で書かれており、はじめて病院に入った人も上、下を眺めながら迷わずに目的の場所まで行けるように親切に施されていたのに驚きました。

その北病棟の病室に妻が入院することとなりました。

三年前に足を歩行中こじらかしてその後、痛み出したり、水がたまったりはっきりせずにその都度医師に診てもらってはおりましたが、縁あって労災病院整形外科で診察を受けることとなり、親切な診断の結果、入院することとなり、手術前後あわせて丁度一ヶ月入院いたしました。従って私もこの廊下の黄色い線を通って北病棟の個室へ妻の様子を見舞い。かつ看視かたがた毎日のように出向きました。

その病室の前は六病床の部屋でこうした部屋が三つ並んでおります。

私が行くたびに妻は前の部屋の付き添い婦の人のかいがいしいふるまいと患者に対する世話の仕方の親切なふるまいをほめちぎっておりました。

その後は私も注意してその付き添い婦のふるまいを眺めておりましたが、みずからを捨てて患者のために誠心誠意親切をつくした世話のあり方をちらりちらりと眺めてきました。

例えば、夜は締め切った窓を朝五時半頃におきて窓をあけて朝の空気を病室内に入替えてあげるときその入れ方も一度に窓をあけては、空気の急変に患者に障りがあってはと少しずつ空気の変わり方を穏やかに全

私はＭさんのプライバシーをひと言も伺わず、聞く気もありません。現実のこうした健気な行いだけを光として眺めたいと思っております。

縁あって、病院に行く機会がありましたが、このＭさんのような光った人を見い出せたことに私は嬉しく、書かねばと思いペンを思わず走らせました。

1998年 11 月 1 日 430 号

人の上に人を造らず

小宮義和

百年余り前、明治の先覚者福沢諭吉が言った「人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」は、当時生れなからにして定まっていた身分や階級を打破する言葉とし　て、大勢の人に歓迎され、今日でも万人生れながら天賦の平等の権利があるものとして多くの人に愛用されている。

この言葉は至って平易な言葉ではあるが、それなら「造る」のは　誰か？ということについては

何の説明もしていない。今日の人はひとりでにそうなっている」と考えて「造る」という言葉は考えていない。
　併し福沢諭吉が「自然にそうなっている」と言わず「造る」という言葉を使ったのは、何か目に見えない「力」を予想していたようにも思われる。
　福沢諭吉は合理主義者で、神や仏を説くことはしなかった。併し努力すれば成功する、怠ければ成功しない。というようなはっきりした因果の法則は信じていたと思われる。これは科学の因果法則を信じるのと同じ態度である。
どうも近頃の人は福沢諭吉の「平等性」は好むが、この因果法則を大事に考えていない気がする。「平等性」は人生の出発点に於いて基本的人権としてかくあるべしと示したもので、走り出したら、努力した人が先に行くのだということを忘れてはならない。
　福沢諭吉の言ったもう一つの良い言葉に「独立自尊」というのがある。これは「自分のことは自分でやる。人に迷惑はかけない」という努力を強調したものである。
　最近は「何をして呉れ、何の補助金を頼む」という陳情ばかりで、自分で努力しないで、ひたすら他人に頼る風潮である。もっと各人が「自分のやるべきことを十分にやったか」という反省をして、その努力も必要と思う。
　若い人が日々仕事をして行く間にも、色々困難に遭遇し、上の方へ進言しても取り上げてもらえず、また他の援助も得られず、苦境に泣きたくなる場面は沢山あろう。ここで、駄目だ、誰も手を貸して呉れないと投げ出す前に、自分はやるだけのことをしたか。また、自分の力でこれを解決する手段はないか、と「自尊心」を以って反省してみることが大事である。いつでも誰かの力をアテにしていては決して良い結果にならない。

（本文は親切会発行の「親切読本」からの抜粋）

1997 年 1 月 1 日　408 号

「渋谷の窓から」

一粒の麦と一匹の羊

岩　松　茂　輔

「一粒の麦は地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。
だが死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネ福音書一二－二四）麦に限らず総ての種子の運命は同じで、木や草だけでなく魚も鳥も同じ運命をたどる。これは自然界の厳しい現実である。産卵のため長い旅路の川を上った鮭は、産卵を終えると間もなく悲壮な死を遂げる。
　しかしイエスは、別のところでこうも言っている。「ある人が百匹の羊を飼っていて、その一匹が迷い出たとする。彼は九十九匹を山に残して迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もしそれを見付けたら迷わずにいた九十九匹よりも、その一匹のことを喜ぶだろう。これらの小さいものの一人でも滅びることは、あなた方の天の父の御心ではない」（マタイ福音書一八－一〇）
　人間の長い歴史の一部は、人がその生命を犠牲にすることによって保たれてきた面があり、自分が死んで他人を生かそうとする努力があった。だからと言って誰かが容易に死んでもよいとか、誰かを犠牲にすればよいと言うものでもない。ただ誰かが生き残るために、別の人間の命が失われる必要のあることは、自然の悲しい道理である。イエスはこの厳しい現実を冷たく見据えながら、迷える一匹の羊にも限りなき愛の眼を注いだのである。
　世の中は所詮限りなく不備なもので、どんなに科学が進歩しても、この不備を完全には解消できない。四方八方の全部がご満足などということはこの世には有り得ない。
　かつてダッカの国際空港で、赤軍派がハイジャックをして、同僚の獄中犯の釈放を強要した事

件を思い出す。時の福田総理は「一人の人間の命は地球より重い」と言って、乗客の生命の安全のため彼らの要求を全面的に容れた。若しもドイツ人だったら、国家の威信のため、多少の犠牲を忍んでも犯人逮捕を敢行したかも知れないというので、福田総理の名言？は、国際的にはあまり評判が香しくなかったようである。　私達はこの問題について、かつては成田国際空港の建設をめぐり、最近では新潟県巻町の原子力発電所の建設や、沖縄の米軍基地の整理縮小の是非について、国民的対応を迫られた。

沖縄では知事の代理署名につき、最高裁大法廷の判決が出て国家意思がはっきりと示されたが、一方では県「平和か戦争か、緑か公害か」「無税か有税か」というような短絡した二者択一を迫られれば、誰だって人民投票が行われて、否定的な住民意思が表示された。
答えは決まっているだろう。空港や原子力発電所や米軍基地や、さらにはごみ処理施設のようなものは、誰でも近くにない方がよいに決まっているのである。

「渋谷の窓から」

一粒の麦と一匹の羊

岩松茂輔

「一粒の麦は地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネ福音書一二―二四）麦に限らず総ての種子の運命は同じで、木や草だけでなく魚も鳥も同じ運命をたどる。これは自然界の厳しい現実である。産卵のため長い旅路の川を上った鮭は、産卵を終えると間もなく悲壮な死を遂げる。

しかしイエスは、別のところでこうも言っている。「ある人が百匹の羊を飼っていて、その一匹が迷い出たとする。彼は九十九匹を山に残して迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もしそれを見付けたら迷わずにいた九十九匹よりも、その一匹のことを喜ぶだろう。これらの小さいものの一人でも滅びることは、あなた方の天の父の御心ではない」（マタイ福音書一八―一〇）

人間の長い歴史の一部は、人がその生命を犠牲にすることによって保たれてきた面があり、自分が死んで他人を生かそうとする努力があった。だからと言って誰かが容易く死んでもよいとか、誰かを犠牲にすればよいと言うものでもない。ただ誰かが生き残るために、別の人間の命が失われる必要のあることは、自然の悲しい道理である。イエスはこの厳しい現実を冷たく見据えながら、迷える一匹の羊にも限りなき愛の眼を注いだのである。

世の中は所詮限りなく不備なもので、どんなに科学が進歩しても、この不備を完全には解消でき

NIMBY（ニムビーという言葉があるそうだ。「ノット・イン・マイ・バックヤード」（Not in my back yard）の略語である。このような迷惑施設は、何はともあれ自分の裏庭にくることはご免蒙りたいというのである。しかし、目分の裏庭でなくて、どこか遠い町なら賛成かも知れないのだ。

今の日本の庶民感覚としては、特殊なイデオロギーに凝り固まった人は別として、空港や原子力発電所や米軍基地やごみ処理施設を、全面的に絶対反対する人は少ないだろう。ただ大部分がNIMBYなのである。しかしNIMBYだけの人民投票によって国家の重要施策が決まるとしたら、こんな危険なことはない。特に一地方の人民投票によって国全体の意思が左右されるとしたら、この上の危険はない。

そもそも人民投票というやり方は、ごく小さな限られた集落は別として、人類がとっくの昔に卒業した直接民主制の考え方である。流石に沖縄の県民投票も、その法的拘束力を自ら否定しているが、誠に当然と言えよう。

現代は間接民主制―代議制民主主義の時代である。そこでは言うまでもなく、国民が自分の信頼できるプロフェッショナルを選んで、これに政治を任せようというのである。

ところが困ったことには、この頃は選ぶ人の目も不確かになり、選ばれる人も選挙人の信頼に背きながら恬として恥じない。人民投票という考え方が盛んに語られるのはそのせいであろう。

近代民主主義の元祖といわれるフランスのルソーという学者は、かつてこう言った。「共同社会を守るためには、お前の死ぬことが国家に必要なのだ”というとき、市民は死なねばならぬ」と。つまりイエスの一粒の麦の死の容認である。彼はこれによって、一粒の麦の死を民主主義の原点においているのだ。

それなのに、こんなことを言うと民主主義に対する危険思想と思われそうで、恐ろしくて口に出来ないのが現代社会である。とくに日本でそれが甚だしい。こんな現代社会はいわばそれだけ嘘つきの社会であって、先々に大きな危険を孕んでいると言って差し支えないのではないか。

もう一度イエスの言葉を借りよう。「この世で自分の命を愛するもの（重く見るもの）はそれを失うが、自分の命を憎む（軽く見る）ものは、それを保って永遠の命に至る」と。（ヨハネ福音書十一丁二五）

しかし一方小さな迷える一匹の羊を失うことも又、天の父の御心”に背くことなのである。この矛盾した二つの命題を結ぶものは何か。イエスにあっては愛であり、釈迦にあっては慈悲であり、孔子にあっては仁であり、私たちにとっては親切の心といってよいかも知れない。

1992 年4月1日　349号

サラリーマン親切論

毛　利　銓　一

ある経済誌に「サラリーマンの市民的幸福論」という文章があった。飲み屋で談笑していた大企業の管理職氏がサラリーマンは割に合わない職業であることに愚痴をこぼし始めた。それを聞いた一流企業の役員氏が慰めて言った。「人生は金や名誉だけではあるまい。良い仕事をして社会に貢献できるし、自分一人ではとても動かせない大金を使って大仕事をやらせてもらえるではないか、仕事上の良い仲間、よい協力、仕事を終えて飲む酒の味、そうしたことのなかに人生があるではないか」。

これに対して、「市民的幸福論」はこう言っている。「仕事の喜びなら、アメリカの綿畑で働いた拘束されたアフリカ人に同じではないか。『風と共に去りぬ』などいう小説を読むと、解放前のアフリカ人でも、主人にかわいがられ、彼らはまた主人を慕っていた。サラリーマンがこれと同様なことで満足するのは、近代市民であるわれわれにとって幸せであるとは思えない」。

親切の立場で、この問題について意見をのべてみることにする。上記の市民的幸福論の意見において、二つのことをとりあげる。第一はアメリカのアフリカ人が解放される前の幸福の実情である。アフリカ人はアフリカの沿岸から売られ、船に乗せられ、焼印をおされ、甲板下の格子付きの部屋に押し込まれ、たてにもよこにもならぬギュー詰めの状態で熱帯を通過し、一割は死んで海中に投げ捨てられた。そのうえ、市場で物同然に値をつけて売られ、大部分は南部の綿花畑で働かされた。監視下の酷使、アンクルートムは忠実で敬虔なクリスチャンであったが、最後は深南部のニューオーリンズで、鞭打たれて死んだ。小説「アンクルートムズケビン」は一八五二年に出版され、南北戦争の導火線となった。南北戦争は一八六一年にはじまり、六五年に終った。

サラリーマン親切論

毛利銓一

ある経済誌に「サラリーマンの市民的幸福論」という文章があった。飲み屋で談笑していた大企業の管理職氏がサラリーマンは割に合わない職業であることに愚痴をこぼし始めた。それを聞いた一流企業の役員氏が慰めて言った。「人生は金や名誉だけではあるまい。良い仕事をして社会に貢献できるし、自分一人ではとても動かせない大金を使って大仕事をやらせてもらえるではないか、仕事上の良い仲間、よい協力、仕事を終えて飲む酒の味、そうしたことのなかに人生があるではないか」。

これに対して、「市民的幸福論」はこう言っている。「仕事の喜びなら、アメリカの綿畑で働いた拘束されたアフリカ人だって同じではないか。『風と共に去りぬ』などいう小説を読むと、解放前のアフリカ人でも、主人にかわいがられ、彼らはまた主人を慕っていた。サラリーマンがこれと同様なことで満足するのは、近代市民であるわれわれにとって幸せであるとは思えない」。

親切の立場で、この問題について意見をのべてみることにする。上記の市民的幸福論の意見において、二つのことをとりあげる。第一はアメリカのアフリカ人が解放される前の幸福の実情である。アフリカ人はアフリカの沿岸から売られ、船に乗せられ、焼印をおされ、甲板下の格子付部屋に押し込まれ、たてにもよこにもならぬギュー詰めの状態で熱帯をこえ、一割は死んで海中に投げ捨てられた。そのうえ、市場で物同然に値をつけて売られ、大部分は南部の綿花畑で働かされた。監視下の酷使、アンクル・トムは忠実で敬虔なクリスチャンであったが、最後は深南部のニューオーリンズで、鞭打たれて死んだ。小説「アンクル・トムスケビン」は一八五二年に出版され、南北戦争の導火線となった。南北戦争は一八六一年にはじまり、六五年に終った。

「風と共に去りぬ」は、一九三六年の作である。作者は南部人の立場で小説を書いている。そして、ここにでてきて、主人にかわいがられ、主人を慕うアフリカ人は家庭内の従者で特例である。日本のサラリーマンとアフリカ人を比べるのは無茶である。アフリカ人に対しても、サラリーマンに対しても失礼である。

第二は、近代市民である人々の幸せとは何かということである。近代人とは民主自由の政治下にあって、自立し、拘束されず自由の生活を享受できる人ということであろう。会社では、規則にしばられて、あくせく働き、ろくろく休みもとれず、仕事に対する責任は重いが、報酬は多くない。そんなサラリーマンの感ずる小さな楽しみはつまらないことだ、われわれ自由業はのびのびと仕事をし、晴々と生活を暮らしているといいたいのであろう。

親切の視点からいえば、人間はどんな境遇、どんな状態で暮らそうと、個人が自立していて、家族や社会と仲よくできればよい。人生の価値は、親切で判定する。社会的地位、職業の種類、収得の大小は二の次である。しかし、人間には、いろいろの性格の人がいるし、いろいろの資質の人がいる。自分が親玉となって事業しなければ気がすまない人、知恵が人並外れて豊かな人、超人的体力のある人がいるし、また当然、その反対もある。人類にのみ知恵を与えた神さまは、同時に、人間の質を全く均一にはなさらなかった。それを承知の上で、独立したい人は独立すればよいし、サラリーマンになりたい人はサラリーマンになればよい。

但し、独立自主と自立とは区別したい。自分が主人にならないサラリーマンであっても、自分自身は、精神的にも生活的にも自立し、支えがなくても倒れない。人に迷惑をかけず、人に親切ができる。自立は立派である。

自主はどうか、自分が親玉となって気持はいいにちがいないが、自ら恃むことも過ぎれば、驕慢を招き、我意をはれば疎まれ孤立する。自主といえども、他人の世話にならざるをえないのである。サラリーマンが、うだつが上がらない、割があわないと嘆くのは、自立していないからである。それでいて、自分の身の振り方は、上長が面倒をみてくれるだろうと期待する。それは甘えである。自立人は、見識を持ち、みっともない甘えを排除する。

以前、世界最大の機械装置は何かという問題をとりあげたことがある。それは一個の巨大な発電機などではなくて、一つ一つの要素は小さいが、全世界にはりめぐら

「風と共に去りぬ」は、一九三六年の作である。作者は南部人の立場で小説を書いている。そして、ここにでてきて、主人にかわいがられ、主人を慕うアフリカ人は家庭内の従者で特例である。日本のサラリーマンとアフリカ人を比べるのは無茶である。アフリカ人に対しても、サラリーマンに対しても失礼である。

第二は、近代市民である人々の幸せとは何かということである。近代人とは民主自由の政治下にあって、自立し、拘束されず自由の生活を享受できる人ということであろう。会社では、規則にしばられて、あくせく働き、ろくろく休みもとれず、仕事に対する責任は重いが、報酬は多くない。そんなサフリーマンの感ずる小さな楽しみはつまらないことだ、われわれ自由業はのびのびと仕事をし、晴々と生活を暮らしているといいたいのであろう。

親切の視点からいえば、人間はどんな境遇、どんな状態で暮らそうと、個人が自立していて、家族や社会と仲よくできればよい。人生の価値は、親切で判定する。社会的地位、職業の種類、収得の大小は二の次である。しかし、人間には、いろいろの性格の人がいるし、いろいろの資質の人がいる。自分が親玉となって事業しなければ気がすまない人、知恵が人並外れて豊かな人、超人的体力のある人がいるし、また当然、その反対もある。人類にのみ知恵を与えた神さまは、同時に、人間の質を全く均一にはなさらなかった。それを承知の上で、独立したい人は独立すればよいし、サラリーマンになりたい人はサラリーマンになればよい。

但し、独立自主と自立とは区別したい。自分が主人にならないサラリーマンであっても、自分自身は、精神的にも生活的にも自立し、支えがなくても倒れない。人に迷惑をかけず、人に親切ができる。自立は立派である。

自主はどうか、自分が親玉となって気持はいいにちがいないが、自ら恃むことも過ぎれば、騏慢を招き、我意をはれば疎まれ孤立する。自主といえども、他人の世話にならざるをえないのである。サラリーマンが、うだつが上がらない、割があわないと嘆くのは、自立していないからである。それでいて、自分の身の振り方は、上長が面倒をみてくれるだろうと期待する。それは甘えである。自立人は、見識を持ち、みっともない甘えを排除する。

以前、世界最大の機械装置は何かという問題をとりあげたことがある。それは一個の巨大な発電機などではなくて、一つ一つの要素は小さいが、全世界にはりめぐらされた電信電話の集合体、通信網である。現代の文明社会繁栄の担い手は何か。一人一人は微々たるサラリーマンの大群、そのネットワークから吐き出されるエネルギーではないか。一昔前の言い方を以てすれば、サラリーマンは現代文明を支える巨人であり、英雄である。

独立自主、自営でなければ近代市民の幸福は得られないと思っている人は、彼らが享受している快適、すなわち、航空機、高速列車、電気、水道、通信、食物、料理、宅配便など、すべてサラリーマンに依存していることを考えたことはあるのであろうか。神さまは、人間をつくり、能力を与えてはくれたが、互いに助け合わなければ、人間は豊かになれないことも教えている。互いに助け合うということは、“親切”に他ならない。“親切”は人間に対する神の忠告である。

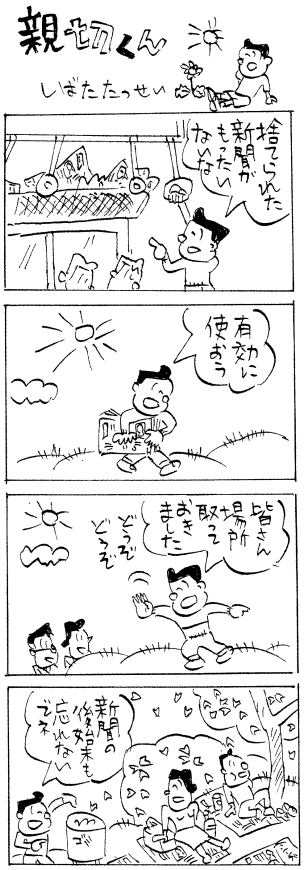
（㈱日立製作所社友）

漫画の連載

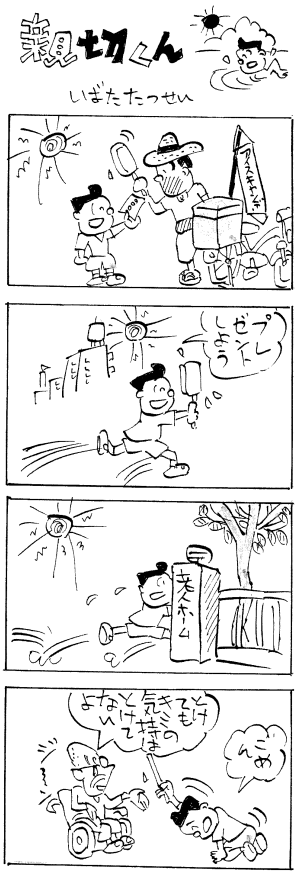
以下は、しばた　たっせい氏の連載マンガの例です。しばた氏は、ほのぼのとした4コマ漫画を長年にわたり連載されました。

1990年6月1日 326号

2002年4月1日 471号



2003年8月1日 487号



表紙の絵の連載

口と足で描く芸術家出版には、「親切のつどい」の表紙に絵を掲載させていただきました。
以下に、口と足で描く芸術家出版の木内一味氏の寄稿と表紙の絵の例を掲げます。

2008 年3月1日　542 号（特別寄稿）

「口と足で描く美の軌跡」
手の不自由な芸術家の協会　設立から 40 年以上携わって

口と足で描く芸術家出版　代表取締役　木内一味

目を近づけるほどに毛の一本一本の筋が浮き立って見える猫の描写のリアリティー。テーブルの上の布は手でつかめそうにふわりとしている。熟達した技巧を見せつつ静謐な空気を醸した油彩画を描く古小路浩典さんは、絵を生活の糧にし始めて二十年以上になる。

古小路さんには、普通の画家と違うことがある。中学三年のときにスポーツ事故で肩から下がまひし、筆を口でくわえて絵を描いていることだ。

2008.3.1　親切だより　(2)

特別寄稿

「口と足で描く美の軌跡」
手の不自由な芸術家の協会、設立から40年以上携わって

口と足で描く芸術家出版　代表取締役　木内　一味

目を近づけるほどに毛の一本一本の筋が浮き立って見える猫の描写のリアリティー。テーブルの上の布は手でつかめそうにふわりとしている。熟達した技巧を見せつつ静謐な空気を醸した油彩画を描く古小路浩典さんは、絵を生活の糧にし始めて二十年以上になる。

古小路さんには、普通の画家と違うことがある。中学三年のときにスポーツ事故で肩から下がまひし、筆を口でくわえて絵を描いていることだ。

口を使い自在に描く古小路浩典さん

●海外で個展開く人も

一九六一年十月の設立以来私がスタッフを務めている「口と足で描く芸術家協会」には、手を使えないために口や足で筆を操る古小路さんのようなプロの画家が会員と準会員合わせて七人、会員へのステップの途上にある奨学生が十七人、登録されている。

生後まもない時期の高熱で障害が残った鷲塚唯義さんは、十三歳のときに口で筆を使い始めた。還暦を迎えた今は、ゲーム用の操縦機で操作できる可動式の台上に腹ばいになり、一メートル幅を超える大きな油彩画を描く。足で水彩画などを描く木村浩子さんは、一歳のときに脳性まひで体の自由を奪われながらも、十八歳のときに粘り強い訓練で左足の自由を取り戻し、スペインやアルゼンチンなど海外で個展を開くほどの活動をしている。

この協会は、リヒテンシュタインに本部を持ち、七十五カ国・地域で活動している同名の組織の日本支部だ。本部開設五年後の一九六一年に、自身が口で絵を描く達人だった協会創始者エーリッヒ・シュテッグマンの命を帯び、ドイツからベルトホルド・オールメルが来日した。

当時欧州から日本に来るのはプロペラ機が普通。「月に行くつもりで来た」と言っていたから、よほどの覚悟だったのだろう。すぐに協会の日本支部を、グッズ販売などの事業を担当する「オールメル出版社（現・口と足で描く芸術家出版）」と一緒に立ち上げた。

●疑いの言葉は勲章

大学生だった私が仕事を手伝い始めたのは、日本人で同協会の第一号会員になった大石順教さんをテレビ番組で見たのがきっかけだ。大石さんは十代のときに義父の暴行で両腕を失い、写経や水墨画を口で描き始め道を究めた尼僧。常識を超えた能力の持ち主がいることに私は心底驚き、活動にのめり込んだ。

世界各国の会員の作品は一度本部に集められ、印刷物に生まれ変わって各国に出回る。主な仕事は、本部から送ってくるカレンダーやはがきなどの印刷物を国内で売ることだった。当時の営業が大変だったのは言うまでもない。相手は学校や会社。今のように障害者の美術作品が注目されているわけでもなく、まず、口や足で描いたということを信じてもらえない。

「手を使わずにこんなにうまい絵を描けるわけがない。ウソでしょう。」

そう言われるたびに私の小さな心は傷ついた。だが活動を続けていくと、「ウソでしょう」という言葉が勲章だと思えるようになっていく。絵の素晴らしさの裏返しと気づいたからだ。

●描いて描いて修練

シュテッグマンが八四年に亡くなったときにはミュンヘン郊外のアトリエを見せてもらった。部屋の中にはたくさんのひきだしがあった。どこを開けても数え切れないほどの絵が詰まっていた。それらを見て、才能だけの力ではない、との思いを新たにした。描いて描いて修練する。そんな真摯な姿勢あってこその能力と分かったのだ。

口と足で描く画家たちの素晴らしい技術はいつも私たちを驚かせる。しかし、その先何を表現したいかがはっきりしない作品も多々見てきた。そこから一歩抜け出してこそ人の心の深奥に訴求する作品が描けるのは、健常者の場合と変らない。これからもこの分野で真の芸術家の発掘に努めたい。

（以上 日本経済新聞２００８年１月10日付け文化面より転載）

この寄稿をお許し願ったのは、親切会会員の方々へこの機会を借りて、改めてご支援への感謝をお伝えしたいためだ。貴親切会は機関紙「親切会だより」表紙に、口と足で描いた作品を掲載して財政的な支援を続けてくださり、あまつさえ、作者の生き方や作品の特徴を紹介することで逆境の画家たちの、活動の広報を支えてくださっている。始まりは２００１年一月号だから、本号で87回の長きにわたるが、さらに未来へ続くことを願っている。創作活動の一秒一秒を障害と闘うのはもとより、移動も大変困難な画家たちだが、訪れたことのない土地の、会ったことのない人々が、自分の作品を見て評価してくれることを知り、計り知れない喜びと、心理的な励ましをもらっている。心からの感謝を画家たちに成り代って申し上げたい。

木内　一味さん

●海外で個展開く人も一九六一年十月の設立以来私かスタッフを務めている「口と足で描く芸術家協会」には、手を使えないために口や足で筆を操る古小路さんのようなプロの画家が会員と準会員合わせて七人、会員へのステップの途上にある奨学生が十七人、登録されている。

生後まもない時期の高熱で障害が残った鷲塚唯義さんは、十三歳のときに口で筆を使い始めた。還暦を迎えた今は、ゲーム用の操縦機で操作できる可動式の台上に腹ばいになり、一メートル幅を超える大きな油彩画を描く。足で水彩画などを描く木村浩子さんは、一歳のときに脳性まひで体の自由を奪われながらも、十八歳のときに粘り強い訓練で左足の自由を取り戻し、スペインやアルゼンチンなど海外で個展を開くほどの活動をしている。

この協会は、リヒテンシュタインに本部を持ち、七十五力国・地域で活動している同名の組織の日本支部だ。本部開設五年後の一九六一年に、自身が口で絵を描く達人だった協会創始者のリッヒーシュテッグマンの命を帯び、ドイツからベ

ルトホルド・オールメルが来日した。

当時欧州から日本に来るのはプロペラ機が普通。「月に行くつもりで来た」と言っていたから、よほどの覚悟だったのだろう。すぐに協会の日本支部を、グッズ販売などの事業を担当する「オールメル出版社（現・口と足で描く芸術家出版）」と一緒に立ち上げた。

●疑いの言葉は勲章

大学生だった私か仕事を手伝い始めたのは、日本人で同協会の第一号会員になった大石順教さんをテレビ番組で見たのがきっかけだ。大石さんは十代のときに義父の暴行で両腕を失い、写経や水墨画を口で描き始め道を究めた尼僧。常識を超えた能力の持ち主がいることに私は心底驚き、活動にのめり込んだ。

世界各国の会員の作品は一度本部に集められ、印刷物に生まれ変わって各国に出回る。主な仕事は、本部から送ってくるカレンダーやはがきなどの印刷物を国内で売ることだった。当時の営業が大変だったのは言うまでもない。相手は学校や会社。今のように障害者の美術作品が注目されているわけでもなく、まず、口や足で描いたということを信じてもらえない。

「手を使わずにこんなにうまい絵を描けるわけがない。ウソでしょう。」

そう言われるたびに私の小さな心は傷ついた。だが活動を続けていくと、「ウソでしょう」という言葉が勲章だと思えるようになっていく。絵の素晴らしさの裏返しと気づいたからだ。

●描いて描いて修練

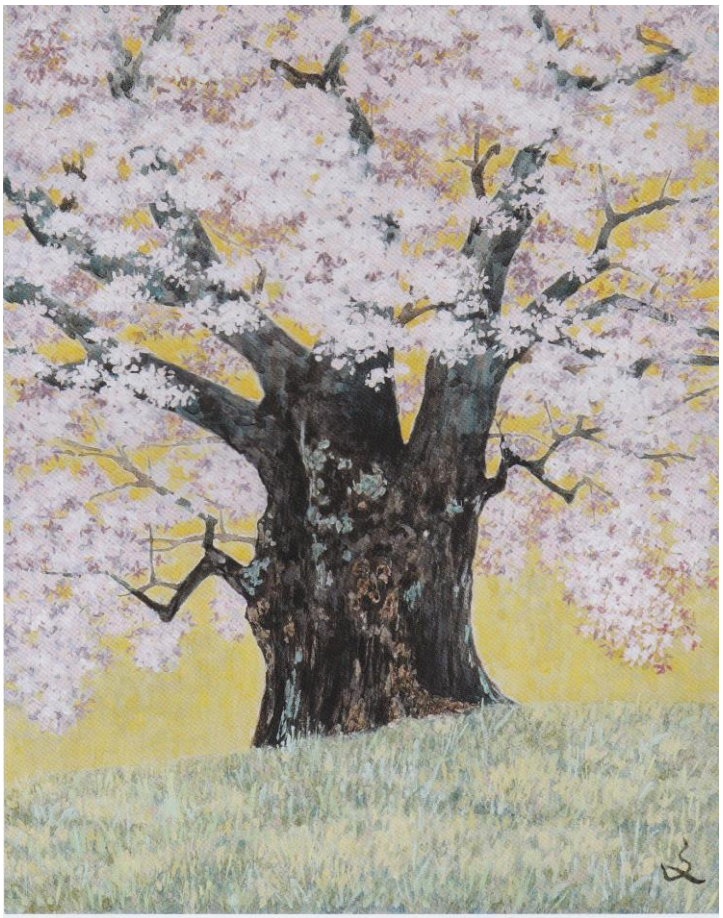
シュテッグマンが八四年に亡くなったときにはミュンヘン郊外のアトリエを見せてもらった。部屋の中にはたくさんのひきだしがあった。どこを開けても数え切れないほどの絵が詰まっていた。それらを見て、才能だけの力ではない、との思いを新たにした。

描いて描いて修練する。そんな真摯な姿勢あってこその能力と分かったのだ。

口と足で描く画家たちの素晴らしい技術はいつも私たちを驚かせる。しかし、その先何を表現したいかがはっきりしない作品も多々見てきた。そこから一歩抜け出してこそ人の心の深奥に訴求する作品が描けるのは、健常者の場合と変らない。これからもこの分野で真の芸術家の発掘に努めたい。　（以上日本経済新聞 2008 年1月 10 日付け文化面より転載。）

2015 年3月601号　表紙の絵

「春　聲」



年譜

西暦	「親切会」の動き	社会の出来事	会長	編集人
1959 （昭 34）	１月　関係者が集まり親切会活動について検討 4 月 10 日 親切会発足 「親切のつどい」（現、親切だより）創刊 寄付活動・歳末募金開始	皇太子殿下ご成婚 伊勢湾台風	深田昌二	馬場杢太郎
1960 （昭 35）	第１回親切週間実施 「親切のつどい」に親切標語の掲載開始	日米安全保障条約発効 所得倍増計画決定	吉岡喜八郎	
1961 （昭 36）	読売・毎日新聞に親切会が紹介される 亡夫の供養に協力（ソロモン海へ花束投下）	ソ連の人工衛星、有人飛行に成功		
1962 （昭 37）	創立３周年記念慰問ショー、孤児 1300 名を招待	キューバ危機 堀江謙一、ヨットで太平洋単独横断		
″1963 （昭 38）	″尼崎市へ大アーチ“明るい家庭に 明るい子ども”を寄贈 兵庫県知事より「のじぎく賞」（善行賞）	ケネディ米大統領暗殺		
1964 （昭 39）	尼崎市内各所に募金用「善意ポスト」設置 新潟地震被災者支援	東京オリンピック		
1965 （昭 40）	困窮者救済のため貸与金制度新設（新聞各紙で反響大）	中国文化大革命	高橋輝嘉	
1966 （昭 41）	この頃、広報誌発行頻度が低下	ビートルズ来日		
1967 （昭 42）	早川電機社長（現シャープ）講演会 賀陽邦寿（元皇族）講演会	小笠原諸島返還決定		
1968 （昭 43）	創立 10 周年 今東光記念講演	3 億円事件		
1969 （昭 44）	会の組織を変更し、理事制度を導入	アポロ１１号月面着陸	馬場兵吉	
1970 （昭 45）	万博を機に外国人向けリーフレットを作成・配布	大阪万博		
1971 （昭 46）	パキスタン災害見舞金	ニクソン・ドルショック		
1972 （昭 47）	この頃、各社で座談会が盛んに開催される	沖縄返還		

西暦	「親切会」の動き	社会の出来事	会長	編集人
1973 （昭 48）	東京支部発足 善行表彰始まる	第一次オイルショック		
1974 （昭 49）	会費、広告料値上げ	小野田少尉帰国 狂乱物価		
1975 （昭 50）	結婚相談所の開設を決定	ベトナム戦争終結		
1976 （昭 51）	個人会費値上げ（1,000 円から 2,000 円に）	ロッキード事件表面化		
1977 （昭 52）	使用済み切手の収集開始 馬場会長がマクセルで講演	円急騰、１ドル 230 円台		
1978 （昭 53）	創立 20 周年（薬師寺管長髙田好胤氏記念講演）	日中平和友好条約調印		
1980 （昭 55）	心理学者菊池藤吉講演会 親切会功労者の大追悼会	ルービックキューブ大流行 ソ連・アフガニスタン侵攻		
1981 （昭 56）	使用済み切手の送付職場、氏名の掲載開始	中国残留孤児来日		
1982 （昭 57）	九州支部発足 将棋九段内藤国雄講演会	500 円硬貨発行		
1983 （昭 58）	創立 25 周年（簡易裁判所判事佐々田英三氏記念講演）	東京ディズニーランド開園		
1984 （昭 59）	四国支部発足、北陸支部発足 「親切読本」発刊	日本、世界一の長寿国		野村忠雄
1985 （昭 60）	中部支部発足、中国支部発足、東北支部発足	日航ジャンボ機御巣鷹山墜落		
1986 （昭 61）	北海道支部発足	男女雇用機会均等法施行		
1988 （昭 63）	創立 30 周年（東大寺管長狭川宗玄師記念講演）	瀬戸大橋開通		
1989 （平元）	久保道徳薬学博士講演会	昭和天皇崩御 消費税（3%）導入		
1990 （平 2）	安村慶次郎氏の寄稿が 177 回で完	統一ドイツ誕生	有信春二	
1991 （平 3）	小池義人須磨寺管長講演	湾岸戦争勃発		
1992 （平 4）	有信春二会長急逝	牛肉、オレンジ輸入自由化	新井啓介	
1993 （平 5）	創立 35 周年、高野山大学前学長 髙木諱元氏講演 「私の言葉」開始	皇太子・雅子妃ご成婚		
1995 （平 6）	歳末たすけあい募金が１千万円を超える	関西国際空港開港		
1995 （平 7）	阪神・淡路大震災支援（大学寮生 250 人の救助活動を表彰等）	阪神・淡路大震災 サリン事件″		

西暦	「親切会」の動き	社会の出来事	会長	編集人
1996 （平 8）	会員各社内に親切会事務局を設置 「新親切読本」発刊	O－157 が全国で流行		
1997 （平 9）	西宮市社会福祉協議会より感謝状	消費税５％		
1998 （平 10）	本部を日立甲子園研修所内に移転	長野冬季オリンピック		
1999 （平 11）	創立 40 周年 各支部の「あゆみと現状」	ユーロ始動	玉河晋次	前田哲夫
2000 （平 12）	ホームページ開設 「俳壇」274 回、「花の歳時記」218 回で完 岩松茂輔氏の「渋谷の窓から」112 回で完	2000 円紙幣 沖縄サミット		
2001 （平 13）	「親切のつどい」を「親切だより」に改題 表紙の絵(口と足で描く)を開始	9.11 同時多発テロ		
2002 （平 14）	本部を大阪から東京に移転	住基ネット稼働		
2003 （平 15）	東京都知事より感謝状を受ける	イラク戦争勃発		
2004 （平 16）	関西支部で福祉施設の見学会	新潟県中越地震	丹野毅	
2005 （平 17）	親切会創立の提唱者、難波小夏さん逝去	郵政民営化		
2006 （平 18）	共同募金運動 60 年式典に感謝状	IPS 細胞誕生		
2008 （平 20）	全国善意銀行連絡協議会より感謝状 丹野毅会長急逝	リーマンショック		髙田佳昭
2009 （平 21）	創立 50 周年、功労者 25 名を表彰 マンガ「親切くん」が 264 回で完	自民党から民主党に政権交代		
2010 （平 22）	中部支部設立 25 周年記念として、施設へテレビ寄贈に対して、名古屋市長から感謝状	探査機はやぶさ、地球へ帰還	内ヶ崎功	
2011 （平 23）	「親切だより」を隔月発行に変更 東北支部など東日本大震災へ種々の支援	東日本大震災		
2012 （平 24）	稲場圭信氏の「希望の扉」が 4 年 21 回で完	東京スカイツリー開業		
2013 （平 25）	さわやか青少年センター支援（ふれあいパスポート）	富士山が世界文化遺産に		
2014 （平 26）	創立 55 周年（55 年史の編集開始）	消費税が 8%に	森和廣	

「親切会の５５年」

平成 27 年 3 月　　発行
発　　行　　親切会
　　東京都千代田区大手町 2-6-2（日本ビル）
編　　集　　「親切会の５５年」編集委員会

印　　刷　　㈱日立ドキュメントソリューションズ
　　東京都江東区東陽六丁目 3 番